

宮崎市埋蔵文化財調査報告書 第88集

宮崎市埋蔵文化財調査報告書  
第88集

KIYOTAKE KAMI INOHARU

# 清武上猪ノ原遺跡

— 4 —

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

清武上猪ノ原遺跡  
— 4 —

二〇一二

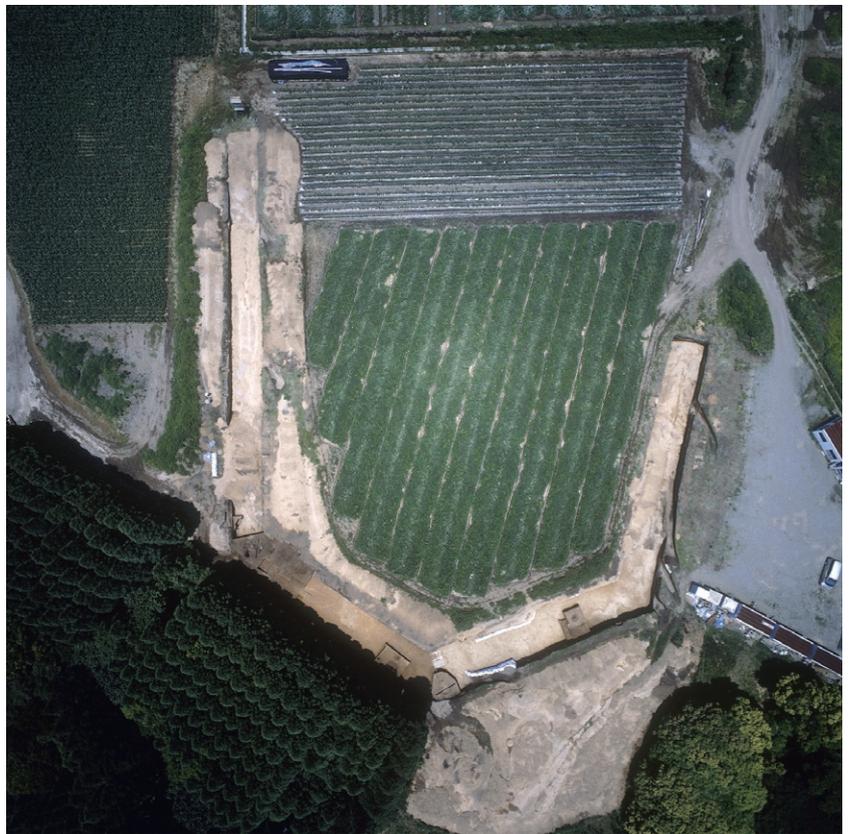
宮崎市教育委員会

2012

宮崎市教育委員会



遺跡遠景(北西より)



遺跡全景(真上より)



押型文土器〈縄文時代草創期・早期 No.246〉



貝殻条痕文土器〈縄文時代草創期・早期 No.522〉



環状石斧〈縄文時代草創期・早期 No.721〉



細石刃核の接合資料〈旧石器時代 接合資料 No. ⑫〉



〈確認状況(北東より)〉



〈復元〉

— 縄文時代早期遺物包含層にて確認された土器埋設遺構出土土器 —

巻頭カラー 3



〈SB- 1 ~ 3〉



〈SB- 5〉

—アカホヤ火山灰層上面で検出された掘立柱建物跡群—

巻頭カラー4

# 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成15・16年度事業区で実施した清武上猪ノ原遺跡第4地区の発掘調査報告書です。

本遺跡では、古代末の掘立柱建物跡や縄文時代の炉穴や集石遺構、また、旧石器時代の礫群など、幅広い時期にわたる多種多様な遺構や遺物が数多く発見されています。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地元と連携を図りながら授業や体験講座の教材として存分に活用し、未来を担う子供たちの豊かな知識と誠実な心の育成に繋げていきたいと考えております。また、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、この地に暮らした古代人の生活をより多くの人々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様ならびに関係各局に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

宮崎市教育委員会  
教育長 二見 俊一

# 例 言

1. 本書は、県営農地保全整備事業船引工区に伴い、平成 15・16 年度に実施された清武上猪ノ原遺跡第 4 地区の発掘調査報告書である。
2. 調査における測量・実測については、井田篤・秋成雅博・富田卓見・若杉知和・草野美香及び実測補助員が行った。
3. 遺物・図面の整理及び報告書作成業務については、平成 23 年度に宮崎市きよたけ歴史館内清武埋蔵文化財センターで実施した（概要報告書掲載分については平成 16 年度に実施）。  
平成 23 年度 担 当：〈職員〉井田・秋成 〈嘱託職員〉船石涼代・佐伯美佐子・山下啓子・岸田優子  
平成 16 年度 担 当：井田・秋成・富田・若杉・草野
4. 本書で使用した写真については、調査に関するものは井田・秋成・富田・若杉が撮影し、報告書掲載遺物については井田・秋成が撮影した。又、空中写真については（株）スカイサーベイに委託した。
5. 本書で使用した放射性炭素年代測定及び樹種同定については、（株）古環境研究所及び（株）加速器分析研究所に委託した。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正  $^{14}\text{C}$  年代である。
6. 本書で使用した黒曜石遺物の産地推定については明治大学文化財研究施設に分析を依頼した。
7. 本書で使用した石器実測図の作成については、（株）埋蔵文化財システム鹿児島支店に委託し、監修は秋成が行った。
8. 本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版 標準土色帖(1997 年後期版)』の土色に準拠した。
9. 本書では、磁北と座標北の 2 種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみ G・N と表示している）。又、標高については海拔絶対高である。
10. 本書に使用した記号は次のとおりである。  
SR：礫群 SI：集石遺構 SC：土坑（陥し穴状遺構も含む） SB：掘立柱建物跡
11. 本書で使用した遺物番号については、次のとおりである。  
第 II 章 旧石器時代遺物包含層出土遺物 No.1 ～ No.101  
第 III 章 縄文時代草創期・早期遺物包含層及び遺構内出土遺物 No.1 ～ No.739  
第 IV 章 アカホヤ火山灰層上面調査出土遺物 No.1 ～ No.29（SB-1 ～ 6 No.1 ～ 16、SC-1・2 No.17 ～ 29）
12. 本書で使用した土層番号については、第 3 図基本土層図の番号を使用している。
13. 本書の執筆と編集については井田・秋成が担当し、文責については本文目次に記している。
14. 出土遺物その他諸記録は、宮崎市きよたけ歴史館内清武埋蔵文化財センターに保管している。

# 目次

第 I 章	はじめに	1	(文責) 井田
第 1 節	調査に至る経緯と調査組織	1	〃
1	調査に至る経緯	1	〃
2	調査組織	1	〃
第 2 節	遺跡の環境	2	〃
1	地理的環境	2	〃
2	歴史的環境	2	〃
3	周辺遺跡	2	〃
第 3 節	調査の経過と方法	3	〃
1	調査経過	3	〃
2	調査方法	6	〃
3	基本層序	6	〃
第 II 章	旧石器時代の調査	7	秋成
第 1 節	ナイフ形石器文化期の調査	7	〃
1	遺物の出土状況と文化層の認定について	7	〃
2	第 1 文化層の遺構	7	〃
3	第 1 文化層の遺物	7	〃
4	第 2 文化層の遺物	11	〃
第 2 節	細石器文化期の遺物	23	〃
1	遺物の出土状況と使用石材について	23	〃
2	細石器文化期の遺物	23	〃
第 III 章	縄文時代草創期・早期の調査	33	秋成・井田
第 1 節	縄文時代草創期の遺物の出土状況	33	秋成
第 2 節	縄文時代草創期の遺物	33	〃
第 3 節	縄文時代早期の遺構	35	井田
1	遺構の検出状況	35	〃
2	集石遺構	36	〃
3	土器埋設遺構	49	〃
4	陥し穴状遺構	50	〃
5	土坑	51	〃
6	遺構内遺物	53	〃
第 4 節	縄文時代早期の遺物	60	〃
1	貝殻円筒形土器	60	〃
2	押型文土器	71	〃
3	平椀式土器・塞ノ神式土器	79	〃
4	貝殻条痕文土器(早期末)	88	〃
5	土製品	88	〃
6	石器	101	秋成

第IV章 アカホヤ火山灰層上面の調査 .....	143	井田
第1節 遺構の検出状況 .....	143	”
1 掘立柱建物跡 .....	143	”
2 掘立柱建物跡群柱穴出土遺物 .....	148	”
3 土坑 .....	151	”
第V章 まとめ .....	154	秋成

## 調査抄録

# 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (S=1/25000) .....	4
第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/2000) .....	5
第3図 基本土層図 (S=1/30) .....	6
第4図 旧石器時代遺物包含層出土石器分布図 (S=1/500) .....	8
第5図 旧石器時代遺物包含層出土遺物分布図 (S=1/500) .....	9
第6図 旧石器時代遺物包含層出土礫分布図 (S=1/500・1/100) .....	10
第7図 旧石器時代礫群実測図 (S=1/30) .....	12
第8図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3・1/2) .....	13
第9図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3) .....	14
第10図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3) .....	15
第11図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3) .....	16
第12図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3) .....	17
第13図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3) .....	18
第14図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3) .....	19
第15図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3) .....	20
第16図 細石器文化期遺物分布図 (S=1/300・1/100) .....	24
第17図 細石器文化期遺物包含層出土石器実測図 (S=2/3) .....	25
第18図 縄文時代草創期遺物分布図 (S=1/600) .....	33
第19図 縄文時代草創期遺物包含層出土遺物実測図 (土器S=1/3・石器S=2/3) .....	34
第20図 縄文時代早期遺構配置図 (S=1/600) .....	35
第21図 縄文時代早期集石遺構実測図① (S=1/30) .....	38
第22図 縄文時代早期集石遺構実測図② (S=1/30) .....	39
第23図 縄文時代早期集石遺構実測図③ (S=1/30) .....	40
第24図 縄文時代早期集石遺構実測図④ (S=1/30) .....	41
第25図 縄文時代早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30) .....	42
第26図 縄文時代早期集石遺構実測図⑥ (S=1/30) .....	43
第27図 縄文時代早期集石遺構実測図⑦ (S=1/30) .....	44
第28図 縄文時代早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30) .....	45
第29図 縄文時代早期集石遺構実測図⑨ (S=1/30) .....	46

第30図	縄文時代早期集石遺構実測図⑩ (S=1/30) .....	47
第31図	土器埋設遺構出土状況実測図 (S=1/30) .....	49
第32図	土器埋設遺構出土土器実測図 (S=1/3) .....	49
第33図	縄文時代早期陥し穴状遺構実測図 (S=1/30) .....	50
第34図	縄文時代早期土坑実測図① (S=1/40) .....	51
第35図	縄文時代早期土坑実測図② (S=1/30) .....	52
第36図	縄文時代早期土坑実測図③ (S=1/30) .....	53
第37図	縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図① (土器S=1/3・石器S=2/3) .....	54
第38図	縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図② (土器S=1/3・石器S=2/3) .....	55
第39図	縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図③ (S=1/3) .....	56
第40図	縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図④ (土器S=1/3・石器S=2/3) .....	57
第41図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図① (S=1/600) .....	58
第42図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図② (S=1/600) .....	59
第43図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3) .....	62
第44図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3) .....	63
第45図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3) .....	64
第46図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3) .....	65
第47図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3) .....	66
第48図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3) .....	67
第49図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3) .....	68
第50図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3) .....	69
第51図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨ (S=1/3) .....	70
第52図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3) .....	72
第53図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑪ (S=1/3) .....	73
第54図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫ (S=1/3) .....	74
第55図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬ (S=1/3) .....	75
第56図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭ (S=1/3) .....	76
第57図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮ (S=1/3) .....	77
第58図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯ (S=1/3) .....	78
第59図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑰ (S=1/3) .....	81
第60図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑱ (S=1/3) .....	82
第61図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑲ (S=1/3) .....	83
第62図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑳ (S=1/3) .....	84
第63図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉑ (S=1/3) .....	85
第64図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉒ (S=1/3) .....	86
第65図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉓ (S=1/3) .....	87
第66図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉔ (S=1/3) .....	88
第67図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉕ (S=1/3) .....	89
第68図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉖ (S=1/3) .....	90
第69図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉗ (S=1/3) .....	91
第70図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉘ (S=1/3・S=2/3) .....	92
第71図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図 (器種別：S=1/500) .....	102
第72図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図 (石材別：S=1/500) .....	103
第73図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3) .....	104
第74図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3) .....	105
第75図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3) .....	106
第76図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3) .....	107
第77図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3) .....	108
第78図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=1/2) .....	109
第79図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3) .....	110

第80図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3) .....	111
第81図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨ (S=2/3) .....	112
第82図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=1/2) .....	113
第83図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪ (S=1/2) .....	114
第84図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫ (S=1/2) .....	115
第85図	アカホヤ火山灰層上面遺構配置図 (S=1/600) .....	143
第86図	SB-1 実測図 (S=1/80) .....	144
第87図	SB-2 実測図 (S=1/80) .....	145
第88図	SB-3 実測図 (S=1/80) .....	146
第89図	SB-5 実測図 (S=1/80) .....	147
第90図	SB-4 実測図 (S=1/80) .....	148
第91図	SB-6 実測図 (S=1/80) .....	148
第92図	掘立柱建物跡群柱穴出土遺物実測図 (S=1/3) .....	150
第93図	アカホヤ火山灰層上面土坑実測図①(S=1/30)及び遺物実測図①(S=1/3) .....	151
第94図	アカホヤ火山灰層上面土坑実測図②(S=1/30)及び遺物実測図②(S=1/3・S=1/2) .....	152

## 表 目 次

第1表	船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧 .....	2・3
第2表	旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表① .....	21
第3表	旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表② .....	22
第4表	細石器文化期遺物包含層出土石器計測分類表 .....	23
第5表	縄文時代草創期遺物包含層出土石器観察表 .....	34
第6表	縄文時代草創期遺物包含層出土石器計測分類表 .....	34
第7表	縄文時代早期集石遺構観察表 .....	48
第8表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表 .....	92~100
第9表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表① .....	115
第10表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表② .....	116
第11表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表③ .....	117
第12表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表④ .....	118
第13表	掘立柱建物跡群柱穴出土遺物観察表 .....	149

## 図 版 目 次

巻頭カラー1	上猪ノ原遺跡第4地区 空中写真	
巻頭カラー2	押型文土器・貝殻条痕文土器・環状石斧・細石刃核の接合資料	
巻頭カラー3	縄文時代早期遺物包含層にて確認された土器埋設遺構出土土器	
巻頭カラー4	アカホヤ火山灰層上面で検出された掘立柱建物跡群	
写真図版1	調査風景① .....	1
写真図版2	調査風景② .....	1

写真図版 3	アカホヤ火山灰層上面検出状況	3
写真図版 4	旧石器時代文化層確認トレンチ	3
写真図版 5	基本土層	6
写真図版 6	旧石器時代礫群	26
写真図版 7	旧石器時代遺物包含層出土石器①	27
写真図版 8	旧石器時代遺物包含層出土石器②	28
写真図版 9	旧石器時代遺物包含層出土石器③	29
写真図版10	旧石器時代遺物包含層出土石器④	30
写真図版11	旧石器時代遺物包含層出土石器⑤	31
写真図版12	旧石器時代遺物包含層出土石器⑥	32
写真図版13	細石器文化期遺物包含層出土石器	32
写真図版14	縄文時代草創期遺物包含層出土遺物	119
写真図版15	縄文時代早期遺構①	120
写真図版16	縄文時代早期遺構②	121
写真図版17	縄文時代早期遺構③	122
写真図版18	縄文時代早期遺構④	123
写真図版19	縄文時代早期遺構⑤	124
写真図版20	縄文時代早期遺構内出土遺物①	125
写真図版21	縄文時代早期遺構内出土遺物②	126
写真図版22	縄文時代早期遺物包含層出土土器①	127
写真図版23	縄文時代早期遺物包含層出土土器②	128
写真図版24	縄文時代早期遺物包含層出土土器③	129
写真図版25	縄文時代早期遺物包含層出土土器④	130
写真図版26	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤	131
写真図版27	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥	132
写真図版28	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦	133
写真図版29	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧	134
写真図版30	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨	135
写真図版31	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩	136
写真図版32	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪	137
写真図版33	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫	138
写真図版34	縄文時代早期遺物包含層出土石器①	139
写真図版35	縄文時代早期遺物包含層出土石器②	140
写真図版36	縄文時代早期遺物包含層出土石器③	141
写真図版37	縄文時代早期遺物包含層出土石器④	142
写真図版38	掘立柱建物跡群柱穴出土遺物	149
写真図版39	アカホヤ火山灰層上面検出遺構及び出土遺物	153



# 第 I 章 はじめに

## 第 1 節 調査に至る経緯と調査組織

### 1. 調査に至る経緯

平成 7 年度より実施されている県営農地保全整備事業船引地区に伴い、事業区に清武上猪ノ原遺跡第 4 地区の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、削平などにより遺跡の現状保存が困難な造成畑地外周道路及び水路予定地について、宮崎県中部農林振興局からの委託を受けた清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成 15 年 9 月 22 日から平成 16 年 7 月 23 日の 2 ヶ年度にわたって行われ、調査面積については 1,300 m<sup>2</sup>であった。

### 2. 調査組織

調 査（平成 15・16 年度）		整理作業（平成 23 年度）	
〈調査主体：清武町教育委員会〉		〈調査主体：宮崎市教育委員会〉	
事 務 局		事 務 局	
教育長	湯地 敏郎(～ H16.5)	教育長	二見 俊一
	神川 孝志(H16.8 ～)	教育局長	蛭原 茂
教育次長	北岡 義朗(～ H16.7)	文化財課長	田村 泰彦
	鑑 和俊(H16.7 ～)	” 課長補佐	山田 典嗣
社会教育課長	松元 一夫	” 主幹兼係長	富永 英典
” 課長補佐	平松 三郎(～ H16.7)		
” 係長	伊東 但		
調 査 員		調 査 員	
社会教育課主任	井田 篤	文化財課主査	井田 篤
” 主事	秋成 雅博	” 主任技師	秋成 雅博
” 嘱託	富田 卓見(H15 年度)	” 嘱託	船石 涼代
” 嘱託	若杉 知和(H16 年度)	” 嘱託	佐伯 美佐子
” 嘱託	草野 美香(H16 年度)	” 嘱託	山下 啓子



写真図版 1 調査風景①



写真図版 2 調査風景②

## 第2節 遺跡の環境

### 1. 地理的環境

旧清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置している。旧町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

清武上猪ノ原遺跡第4地区は、旧町内西方の標高約60～65mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであったと考えられる。

### 2. 歴史的環境

清武上猪ノ原遺跡第4地区は、宮崎市清武町内船引地区に所在している。船引の名が歴史上に登場するのは建久八(1197)年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の岡田帳』であり、そこには「弥勒寺領 船曳五十町、右宮崎郡内 弁済使法印、不知實名、」とあるため、平安末には宇佐弥勒寺及び石清水八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領(天領)となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通じて飢肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24(1891)年には清武村、昭和25(1950)年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

### 3. 周辺遺跡

清武上猪ノ原遺跡第4地区が立地する台地上では、平成3年頃から県営農地保全整備事業(時屋工区)、東九州自動車道建設、県営農地保全整備事業(船引工区)などの大型公共工事が相次ぎ、それに伴う発掘調査も宮崎県教育委員会や当教育委員会によって数多く実施されている。

第1表 船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧

No	遺跡名	調査面積 (㎡)	主な時代(特徴的な遺構・遺物)	調査機関
1	上の原第1遺跡	48000	縄文早期・縄文(中期～晩期:石刀)・古墳時代(竪穴住居・土器埋納遺構など)	宮崎県埋蔵文化財センター
2	上の原第1遺跡(B地区)	2100	旧石器・縄文早期(磨製石鏃)・縄文晩期・弥生時代(磨製石剣)・古墳時代	宮崎県埋蔵文化財センター
3	上の原第2遺跡	45500	縄文早期・縄文(中期～後期:竪穴住居など)・近世(墓など)	宮崎県埋蔵文化財センター
4	上の原第3遺跡	15500	縄文早期・古墳時代(竪穴住居など)	宮崎県埋蔵文化財センター
5	上の原第4遺跡	3400	弥生時代・古墳時代	宮崎県埋蔵文化財センター
6	白ヶ野第3遺跡(B区)	25000	縄文早期・弥生時代・古代	宮崎県埋蔵文化財センター
7	白ヶ野遺跡(A地区)	300	縄文時代・近世	宮崎県埋蔵文化財センター
8	白ヶ野第2・3遺跡	18000	旧石器・縄文草創期(御子柴型石斧など)・縄文早期・縄文(前期～晩期:竪穴住居)・古代(竪穴住居)・近世	宮崎県埋蔵文化財センター
9	白ヶ野第1遺跡	17200	旧石器・縄文(早期～晩期)・弥生時代	清武町教育委員会
10	白ヶ野第4遺跡	1900	縄文早期(垂飾・腕輪など)	清武町教育委員会
11	滑川第1遺跡	17620	縄文(草創期～早期:直径2mを越える集石遺構)・縄文(前期～晩期:滑石が混入した罎畑式土器・蛇紋岩製石斧・825gの姫島産黒曜石製の石核など)・弥生時代・古墳時代	清武町教育委員会

12	滑川第2遺跡	10420	旧石器・縄文早期（1250gの姫島産黒曜石製石核など）・縄文（前期～晩期）・弥生時代（管玉など）・古代	清武町教育委員会
13	滑川第3遺跡	6940	旧石器・縄文早期・縄文（前期～晩期）・弥生時代	清武町教育委員会
14	山田第1遺跡	7700	旧石器・縄文（草創期～早期）・弥生時代・古墳時代（竪穴住居など）	清武町教育委員会
15	山田第2遺跡	4300	縄文早期・弥生時代・古代	清武町教育委員会
16	坂元遺跡	9000	旧石器・縄文早期（土器埋設遺構など）・弥生時代	清武町教育委員会
17	坂元第2遺跡	530	旧石器・縄文早期	清武町教育委員会
18	下猪ノ原遺跡第1地区	7000	旧石器（角錐状石器及び瀬戸内技法関連の接合資料）・縄文早期（球状耳飾）・弥生時代（木棺墓・土壙墓）・古代	清武町教育委員会
19	下猪ノ原遺跡第2地区	1200	旧石器・縄文早期（環状遺棄遺構・土器埋設遺構・石器の埋納遺構など）・弥生時代・古代	清武町教育委員会
20	清武上猪ノ原遺跡第1地区	14000	縄文草創期（集石など）・縄文早期（土器埋設遺構・完形の耳栓など）・弥生時代（竪穴住居跡）・古代（黒色土器）	清武町教育委員会
21	清武上猪ノ原遺跡第2地区	15200	旧石器・縄文草創期（尖頭器・集石など）・縄文早期（土器埋設遺構など）	清武町教育委員会
22	清武上猪ノ原遺跡第3地区	2000	縄文早期（石斧の埋納遺構など）・縄文後期・中世	清武町教育委員会
23	清武上猪ノ原遺跡第4地区	1300	旧石器（細石刃核の接合資料）・縄文草創期・縄文早期（竪穴状遺構・土器埋設遺構・環状石斧など）・古代	清武町教育委員会
24	清武上猪ノ原遺跡第5地区	3700	旧石器（狸谷型ナイフ形石器の接合資料）・縄文草創期（竪穴住居跡・矢柄研磨器・尖頭器など）・縄文早期（直径4mを超える集石など）・縄文（前期～後期）・古代・中世	清武町教育委員会
25	五反畑遺跡A地区	1370	縄文後期・古代（土坑墓・墨書土器・緑釉陶器・黒色土器・長沙窯系水差など）	清武町教育委員会
26	五反畑遺跡B地区	1110	旧石器・縄文早期（局部磨製尖頭器・石器の埋納遺構など）・弥生時代・古墳時代（木棺墓・石棺墓・珠文鏡など）	清武町教育委員会

### 第3節 調査の経過と方法

#### 1. 調査経過

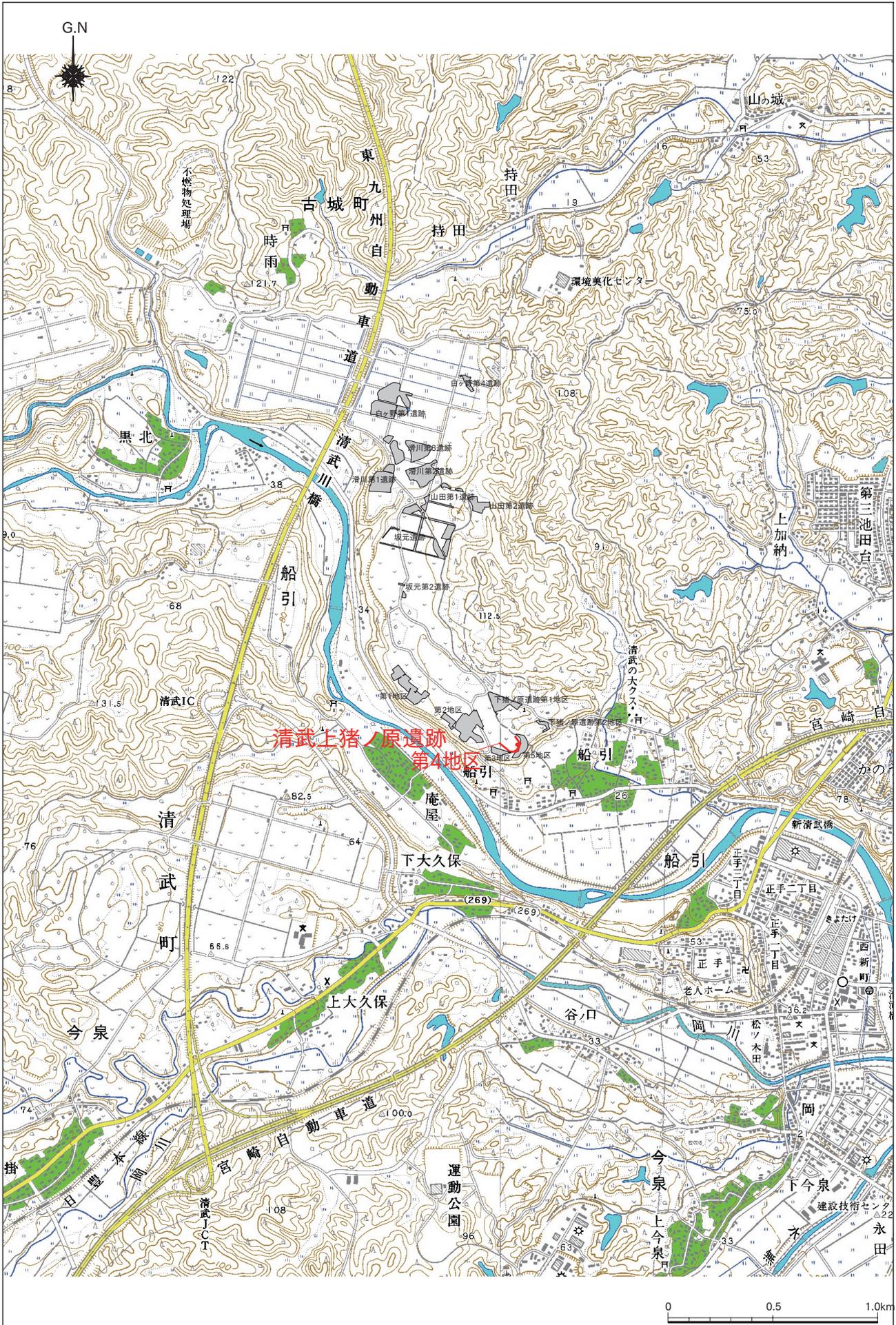
調査はまず重機による耕作土の剥ぎ取りから行った。結果、調査区の大部分において耕作土直下にアカホヤ火山灰層が残存する状況であったため（一部、アカホヤ火山灰が削平）、そのアカホヤ火山灰層上面で縄文時代前期以降の遺構の検出作業を実施し、掘立柱建物跡6棟と土坑2基を確認した。それらの遺構の記録作業を行った後、重機によりアカホヤ火山灰層を除去し、次に縄文時代草創期及び早期の包含層である第3・4層（第3図 清武上猪ノ原遺跡第4地区基本土層図参照）を人力で掘り下げていった。ここでは、多量の焼礫と遺物が出土するとともに、36基の集石遺構、2基の陥し穴状遺構、5基の土坑、そして土器埋設遺構が1基確認されたため、遺物の取り上げ作業と遺構の記録作業等を行った。これら縄文時代草創期及び早期の包含層の調査終了後、旧石器時代の包含層である第6層から第8層まで人力で掘り下げていった。結果、第7・8層で石器が出土し、その他には第8層最下部で礫群が2基確認された。これら旧石器時代の調査終了をもって清武上猪ノ原遺跡第4地区の全ての調査を終了した。



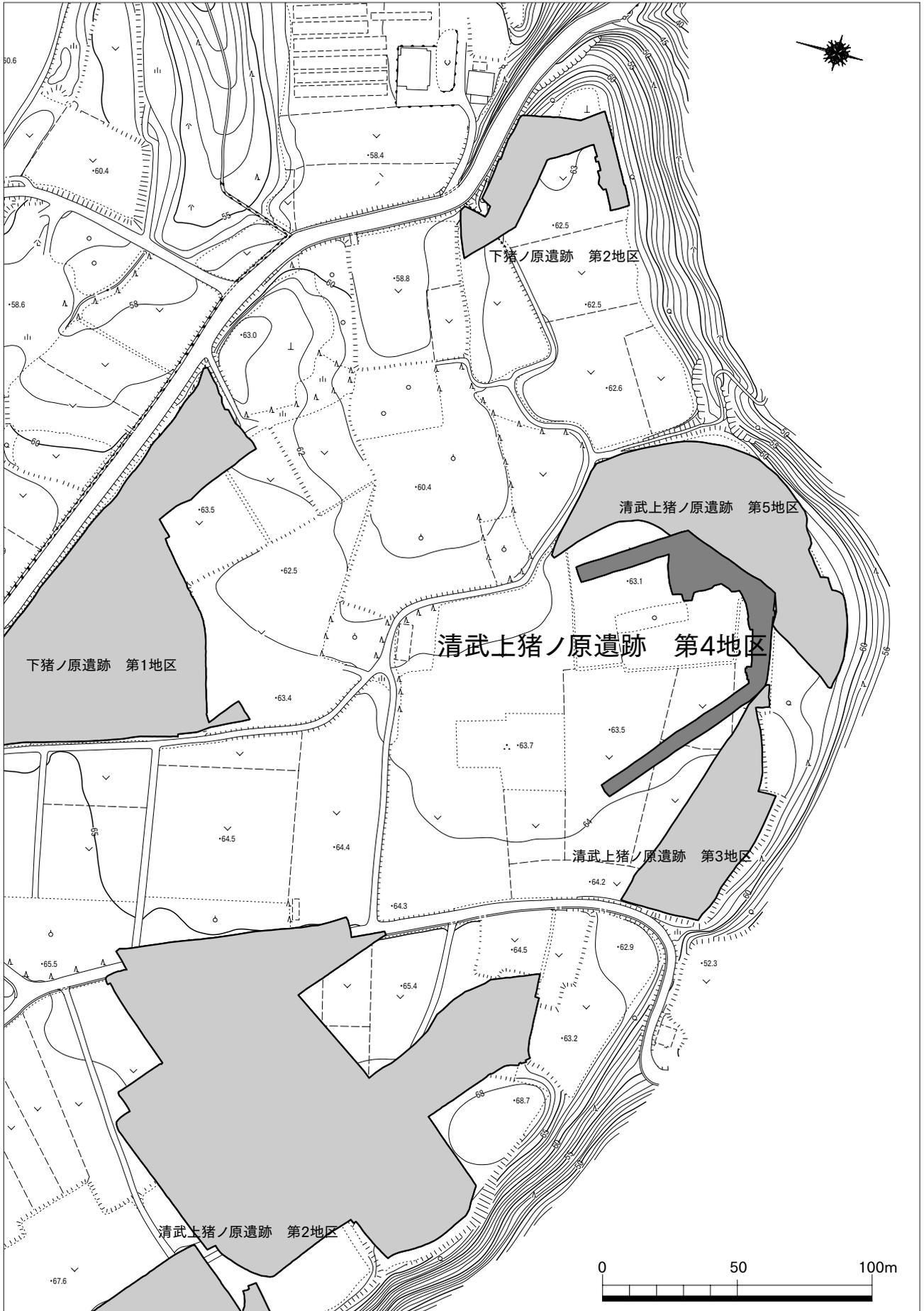
写真図版3 アカホヤ火山灰層上面検出状況



写真図版4 旧石器時代文化層確認トレンチ



第1図 遺跡位置図 (S=1/25000)



第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/2000)

## 2. 調査方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

遺物包含層の掘り下げ作業

：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

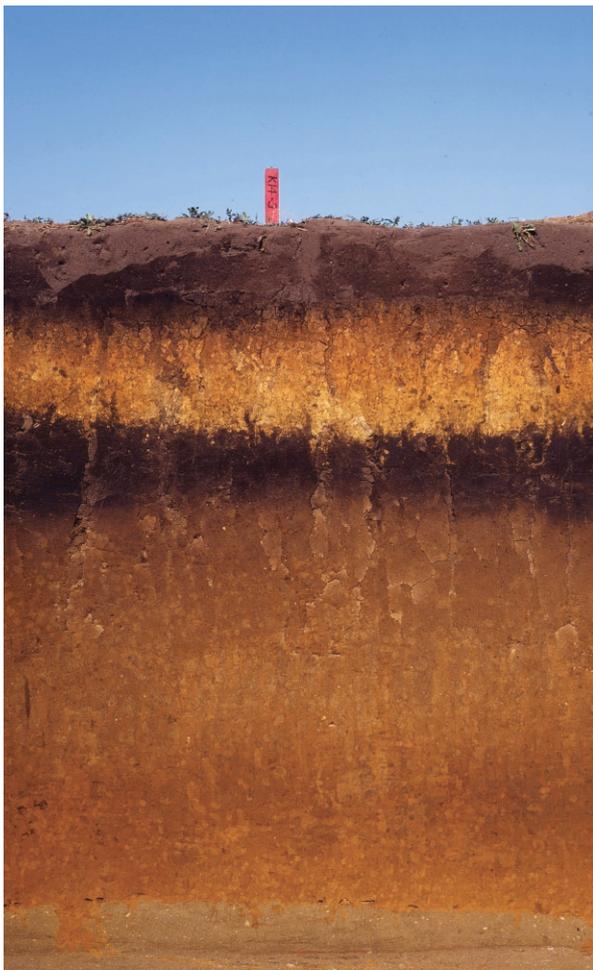
遺構実測：遺構のサイズに応じて 1/10 又は 1/20 で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所(現宮崎市きよたけ歴史館内清武埋蔵文化財センター)において、AUTOCAD を利用してデジタルデータとして整理・管理した。

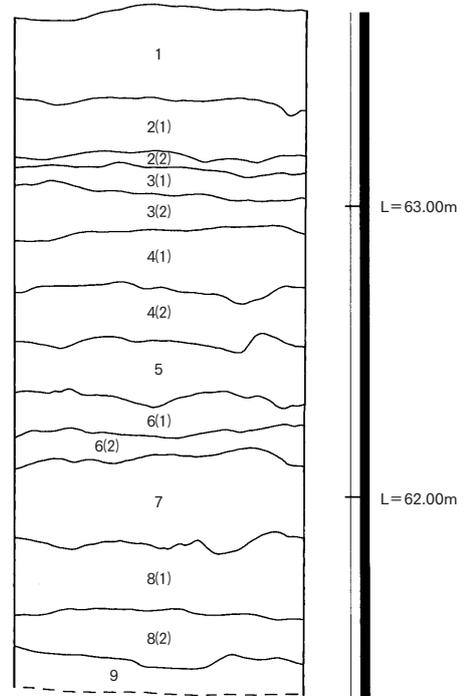
写真撮影：6×6・6×9 版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

## 3. 基本層序

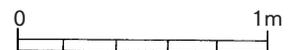
当遺跡においては、耕作土直下にアカホヤ火山灰層が確認され、近隣の他の遺跡で時折みられるようなアカホヤ火山灰層上位の文化層は残存していない。また、アカホヤ火山灰層以下については、旧石器時代が2層と縄文時代草創期・早期が1層の文化層が確認されている。



写真図版5 基本土層



- 1 耕作土
- 2(1) 10YR7/8(黄橙色)鬼界アカホヤ火山灰層
- 2(2) 鬼界アカホヤ火山灰軽石層
- 3(1) 10YR3/1(黒褐色)シルト質ローム層 橙色パミスを含む
- 3(2) 10YR3/1(黒褐色)シルト質ローム層
- 4(1) 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム層
- 4(2) 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム層 やや硬質
- 5 10YR5/6(黄褐色)シルト質ローム層 霧島小林火山灰層を含む
- 6(1) 10YR5/6(黄褐色)霧島小林火山灰層
- 6(2) (1)とほぼ同質だがやや軟
- 7 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム層
- 8(1) 10YR5/6(黄褐色)シルト質ローム層
- 8(2) (1)とほぼ同質だが9層の小ブロックを含む
- 9 2.5YR5/2(暗灰黄色)始良丹火山灰層



第3図 基本土層図 (S=1/30)

## 第Ⅱ章 旧石器時代の調査

### 第1節 ナイフ形石器文化期の調査

#### 1. 遺物の出土状況と文化層の認定について

基本層序の7層から8層にかけて旧石器時代(ナイフ形石器文化期)の遺物が出土した。ナイフ形石器文化期の遺物は調査区の中央部付近に多く分布しており、非常に遺物が集中する範囲が2箇所認められた。便宜上、2箇所の遺物集中域のうち、東側のものをブロック1、西側のものをブロック2としてさらに文化層の認定について検討してみる。

ブロック1から出土した石器の出土層位は8層が主体となっており、ブロック2から出土した石器の出土層位は7層が主体である。つまり、ブロック1と2から出土した石器は明確なレベル差を持って出土しているため、接合資料⑨のように2つのブロック間をまたがるような接合状況を示している接合資料が存在しても、2つのブロックの間には時期差があると考えられる。

次にブロック1・2の周辺から出土した石器の出土層位を検討してみる。ブロック2より西側から出土した石器は全てブロック2と同じレベルから出土しており、ブロック2より東側から出土した石器は一部ブロック2と同じレベルから出土している石器が存在するものの、大半はブロック1と同じレベルから出土しているようである。

このような遺物の出土状況から本調査区におけるナイフ形石器文化期については2つの文化層が想定されるものと考えられる。2つの文化層の報告に当たっては多少の混在は考えられるものの、8層を主体とするブロック1とその周辺から出土している遺物を第1文化層のものとし、7層を主体とするブロック2とその周辺の遺物を第2文化層の遺物として報告を行う。また、本調査区から検出された礫群も出土点数にこそばらつきがあるが、レベル差をもって検出されている状況が見られており、このこともナイフ形石器文化期を二時期に分けることのできる裏づけとなるだろう。

なお、基本層序ごとの遺物の出土量としては7層からは頁岩製石器92点(2074.9g)、砂岩製石器4点(786.2g)、チャート製石器4点(49.8g)、ホルンフェルス製石器8点(76.3g)、上牛鼻産黒曜石1点(2.4g)、桑ノ木津留産黒曜石1点(0.6g)、礫29点が出土し、8層からは頁岩製の石器39点(1737.9g)、流紋岩製石器2点(26.8g)、砂岩製石器23点(3523.8g：石材を含む)、チャート製石器3点(108.2g)、ホルンフェルス製石器1点(14g)、日東産黒曜石2点(8.4g)、礫245点(礫群の礫も含まれる)という状況である。

#### 2. 第1文化層の遺構

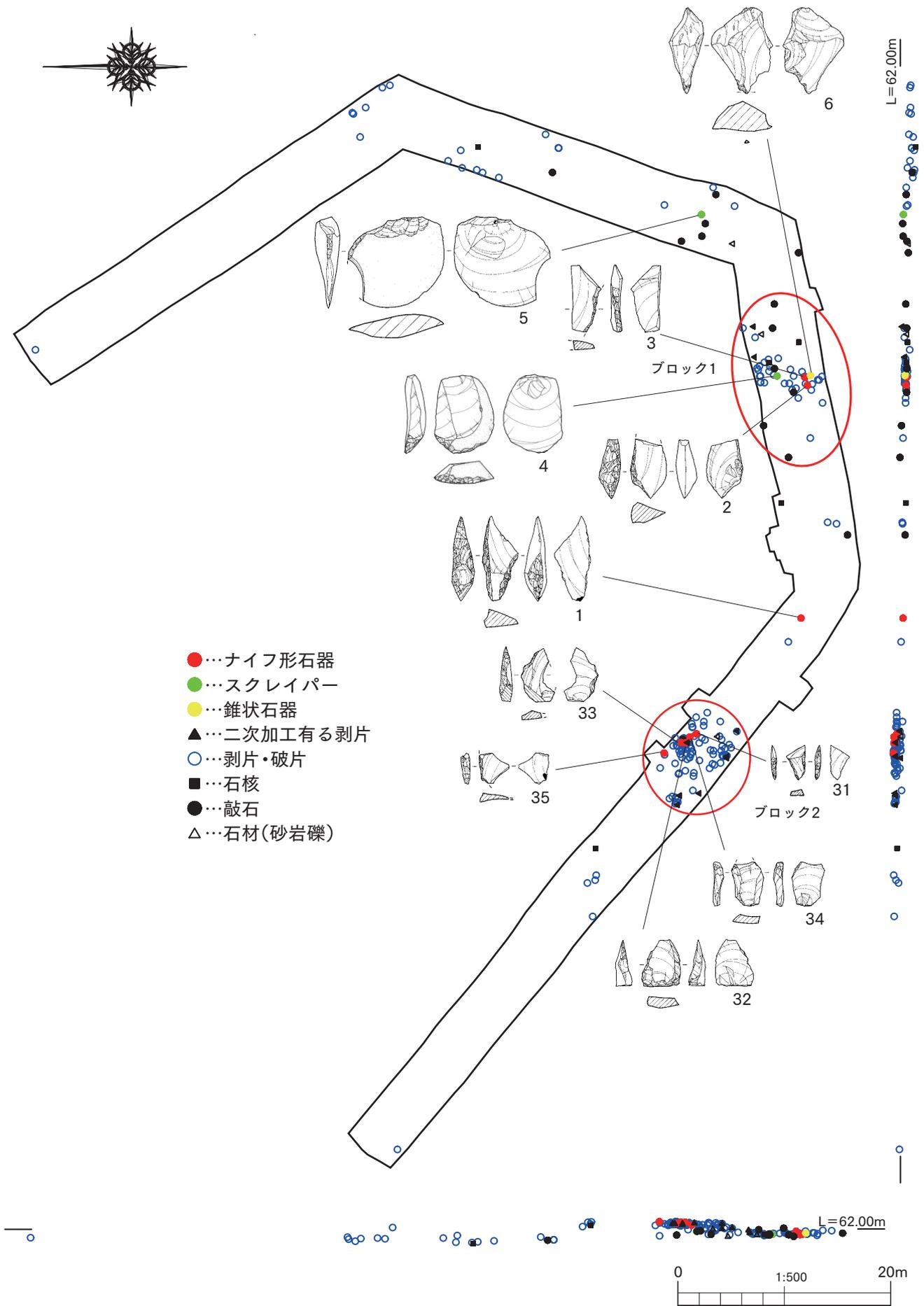
ブロック1からは2つの礫が密集する礫群(SR-1・2)が検出されたため、それらの図化をおこなった。2つの礫群共に検出された層位は基本層序の8(2)層である。以下に個別に報告を行う。

SR-1：構成礫の範囲は4.6m×2.6mを測り、構成礫数は107点、総重量は19.5kgを量る。礫の接合を試みたところ、本礫群の中で22点の礫が接合し、また遺物包含層中の礫と2点が接合した。さらにSR-2との構成礫とも1点が接合するという結果が得られた。SR-1と遺物包含層中の礫2点との接合関係は平面分布上近い距離のもので、もともとはSR-1の構成礫だった可能性が高いと考えられる。

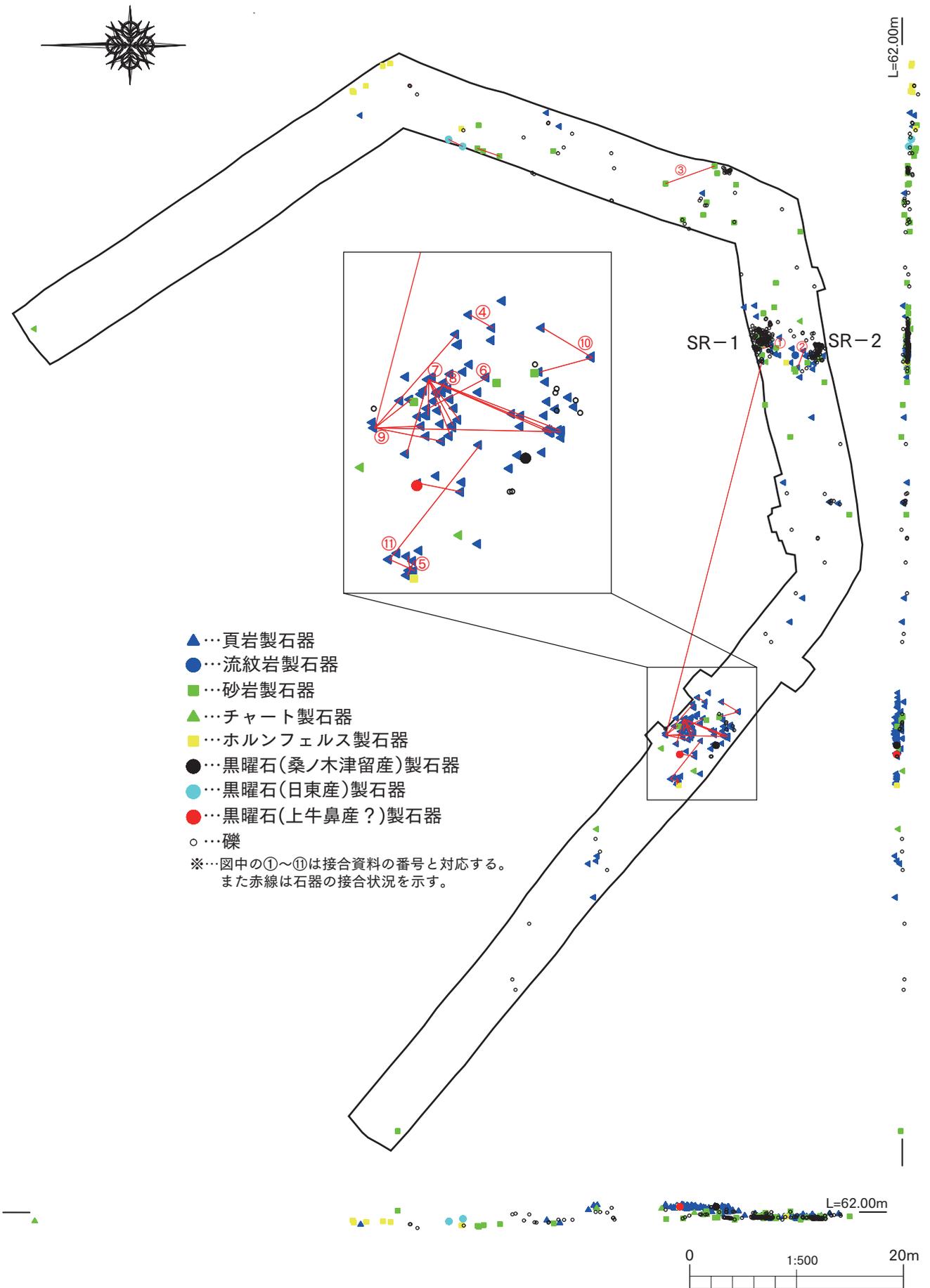
SR-2：構成礫の範囲は3.1m×1.8mを測り、構成礫数は61点、総重量は6.95kgを量る。礫の接合を試みたところ、本礫群の中で7点の礫が接合し、また遺物包含層中の礫と3点が接合した。この3点の礫は平面分布上近い距離のものであり、もともとはSR-2の構成礫だった可能性が高いと考えられる。前述のとおりSR-1の構成礫と接合関係があったため、この2基の礫群は同時に存在していたものと考えられる。

#### 3. 第1文化層の遺物

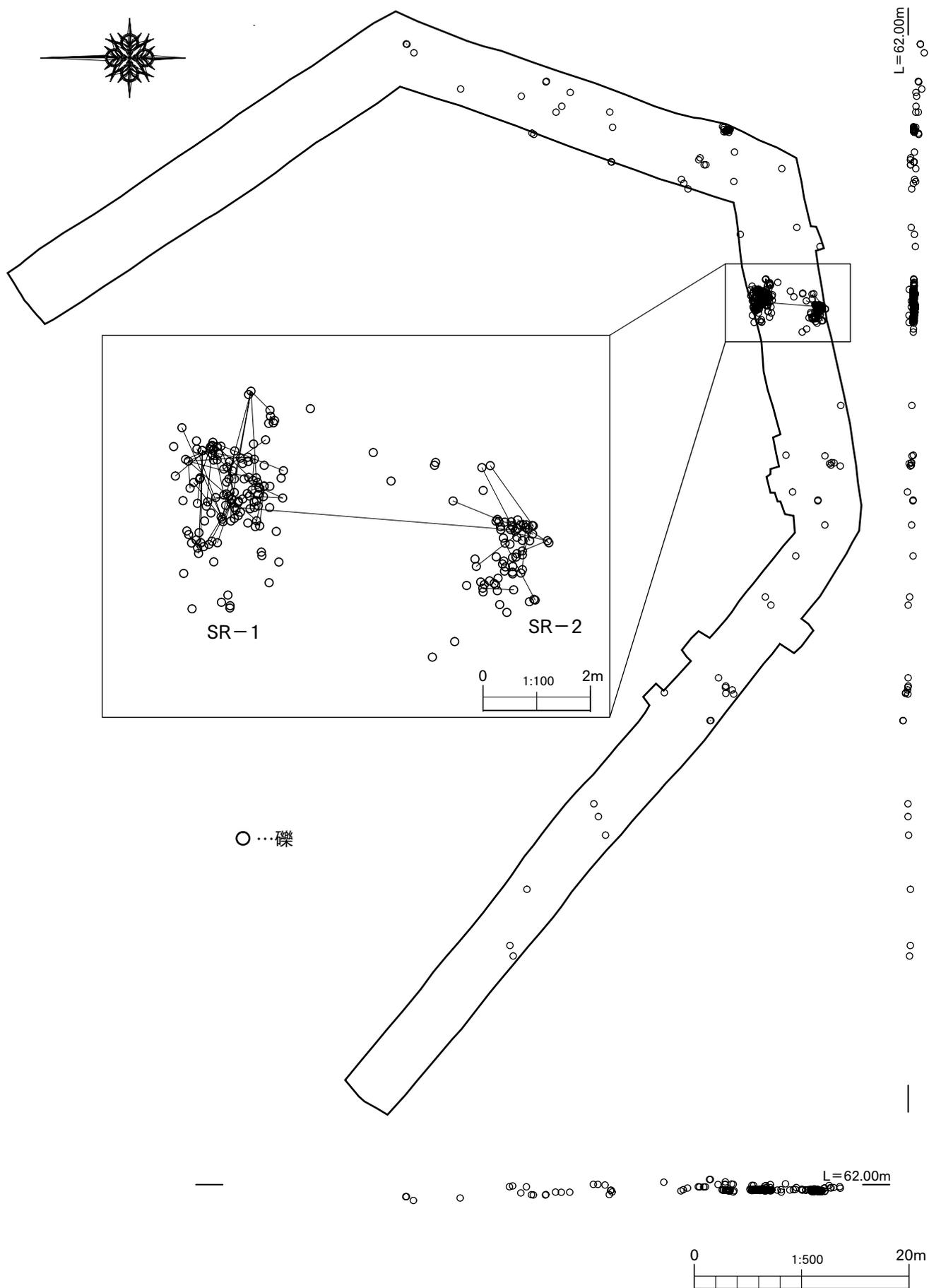
第1文化層の遺物としてはナイフ形石器3点、スクレイパー2点、錐状石器1点、敲石13点、剥片・碎片56点(二次加工有る剥片2点を含む)、石核4点、石材と考えられる砂岩礫3点と礫259点(SR-1・2の構成礫も含まれる)が出土している。以下に製品類を中心に報告を行う。



第4図 旧石器時代遺物包含層出土石器分布図 (S=1/500)



第5図 旧石器時代遺物包含層出土遺物分布図 (S=1/500)



第6図 旧石器時代遺物包含層出土礫分布図 (S=1/500・1/100)

### ナイフ形石器(1～3)

1は自然面を残す幅広の剥片を素材とする二側縁加工の切り出し型のナイフ形石器である。左側縁の刃潰し加工は先端部と基部付近は腹面側から施されており、体部中央付近は背面と腹面との両面から調整が行われている。右側縁の刃潰し加工は腹面側から施されている。既存の分類では狸谷型ナイフ形石器に分類される。2は横長剥片を素材とする一側縁加工のナイフ形石器である。先端部を欠損する。刃潰し加工は素材剥片の背面側からのみ施されているが、素材剥片の打点部は残存しており、いわゆる国府型ナイフ形石器とは異なるものである。3は大半を欠損しており、全容がわからないが側縁部に刃潰し加工が観察されるため、ナイフ形石器と分類したものである。いずれの資料も灰色系の色調を呈した頁岩製のナイフ形石器である。

### スクレイパー(4・5)

4は自然面を残す縦長剥片を素材としてその下端部に刃部加工を施しているスクレイパーである。刃部加工のある部分には使用の痕跡と考えられる光沢が観察される。5は自然面を大きく残す斜め剥ぎの剥片である。欠損しているが素材の背面側の左側縁部に刃部加工が確認される。4・5共に円形の刃部を持つ搔器として使用されたものと考えられる。

### 錐状石器(6)

本調査区からは2点出土している流紋岩製の石器の1つであり、本資料は搬入品と考えられるものである。不定形な剥片の一端に調整を施し、錐部を作り出している。

### 二次加工有る剥片(7)

頁岩製の不定形な横長剥片の一端に両面からの調整を施している。主要剥離面側からの調整の一つは槌状剥離とも考えられ、彫刻刀形石器の可能性もある。

### 敲石(8～16)

砂岩製の円礫や棒状礫の一端に敲打痕が観察されるものである。敲打痕は数箇所見られるものもある。重量や規模から円礫や棒状礫を使用する350g以上のもの(8～10)、棒状礫を使用する250g～100gのもの(12・14)、棒状礫を使用する100g以下のもの(11・13・15・16)といくつかの種類に細分が可能であり、石器製作の工程によって各種が使い分けられていたものであろう。11～13は敲打の結果、生じた剥離の痕跡も確認される。16はSR-1の礫群の構成礫となっていたものである。

### 頁岩製石器(17～26)

前述の頁岩製石器(製品類)のほかに33点の頁岩製の石器が出土している。接合資料①・②は縦長剥片2点の接合資料で剥片剥離の工程が復元される。接合資料①は18→17の順で剥片剥離が行われている。17は4に平面形が類似しておりスクレイパー(搔器)の素材剥片の可能性もある。接合資料②は20→19の順序で剥片剥離が行われている。21～24は剥片である。21は縦長剥片で主要剥離面側の一部に変色したような部分が観察される。22はやや不定形な幅広の縦長剥片で規模からは狸谷型ナイフ形石器の素材剥片の可能性も考えられる。25・26は作業面を転回しながら不定形な剥片を作出したと考えられる石核である。25は自然面を大きく残すものでその一部には敲打痕が確認される。

### チャート製石器(27)

4点のチャート製の石器が出土している。27は石核である。角礫の節理面を作業面として平坦面の一端に打面調整を施し、不定形な剥片を作り出している。

### 砂岩製石器(28～30)

前述の敲石を除いて13点の砂岩製の石器が出土している。接合資料③は不定形な幅広の剥片2点の接合資料である。29は自然面を有しており、29→28の順序で剥片剥離が行われている。30は石核である。砂岩の角礫を素材とし、その平坦面を打面に設定して打面調整を行わず大振りな剥片を作り出している。

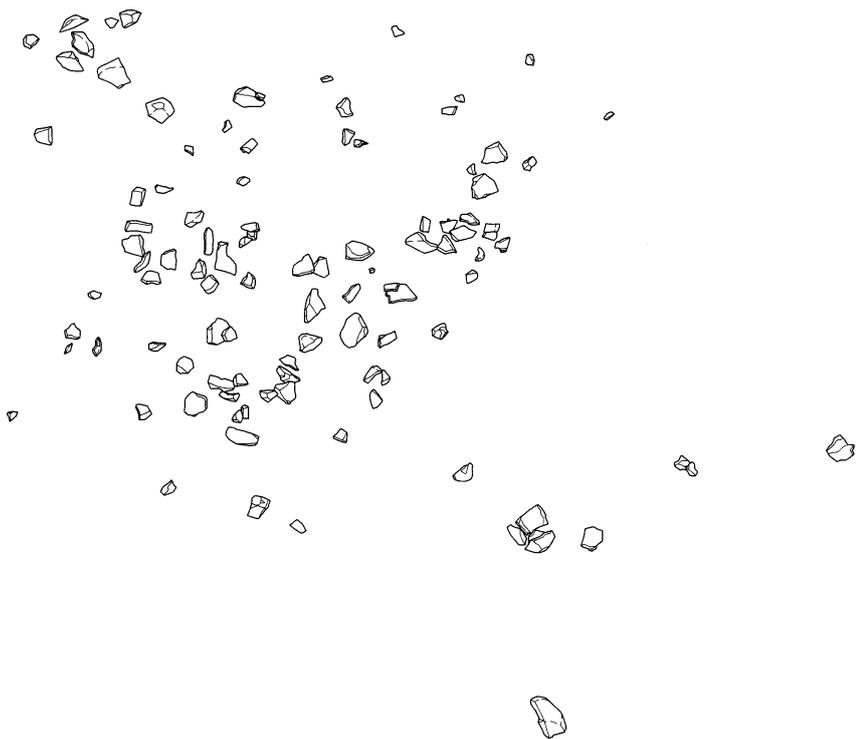
砂岩製石器はこのほかに図示していないが礫片1点と剥片1点の接合資料が出土している。

### 黒曜石製石器・流紋岩製石器・ホルンフェルス製石器

欠損している日東産黒曜石製の剥片の折れ面同士の接合資料が1組出土している。また流紋岩製の剥片1点・ホルンフェルス製の剥片7点が出土している。いずれも図示していない。

## 4. 第2文化層の遺物

第2文化層の遺物としてはナイフ形石器5点、剥片・碎片92点(二次加工有る剥片7点を含む)、石核3点と礫15点が出土している。第1文化層より礫が少ない点が特徴的である。以下に製品類を中心に報告を行う。



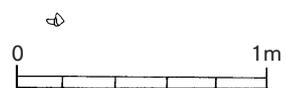
L=61.70m

SR-1

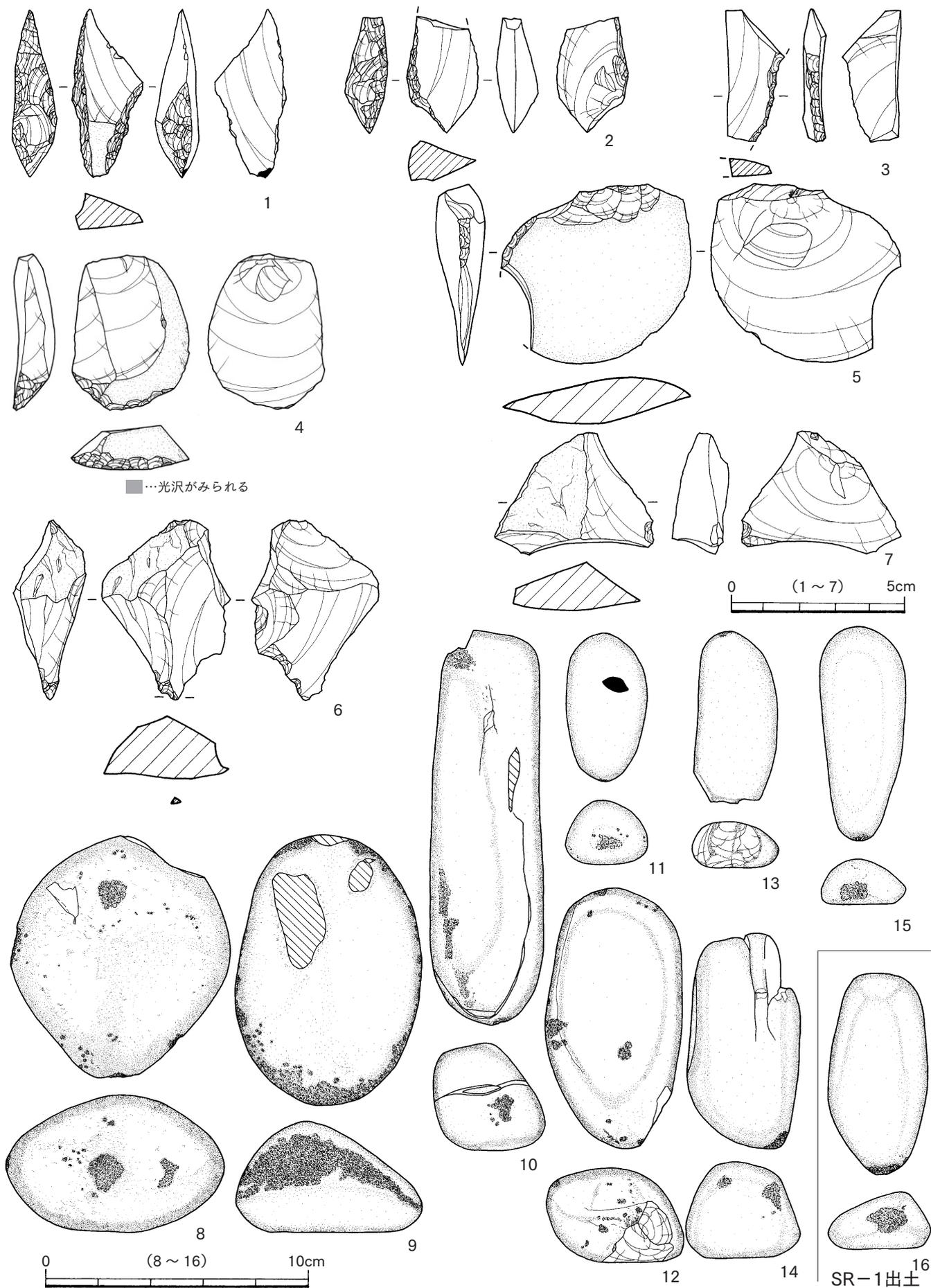


L=60.90m

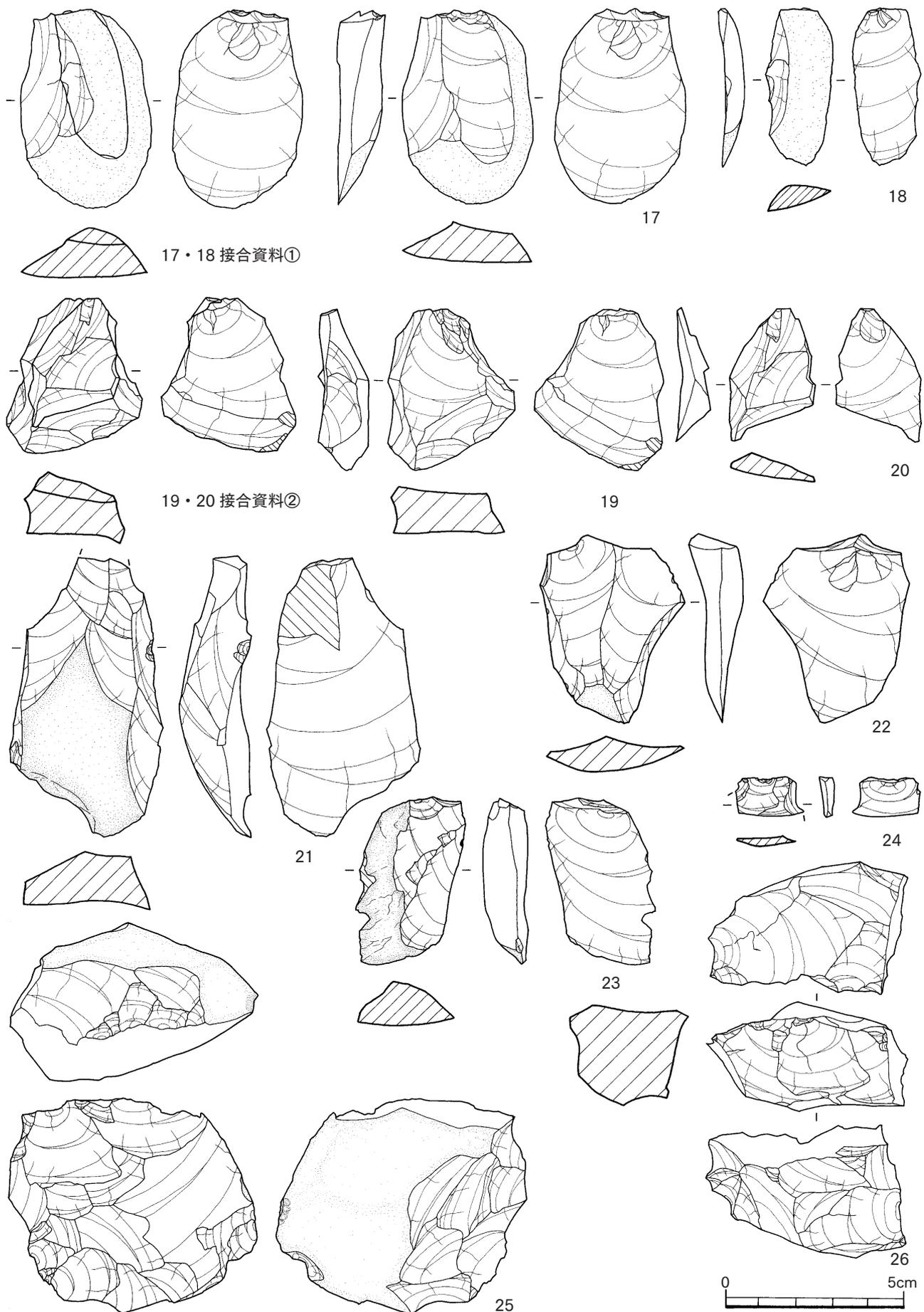
SR-2



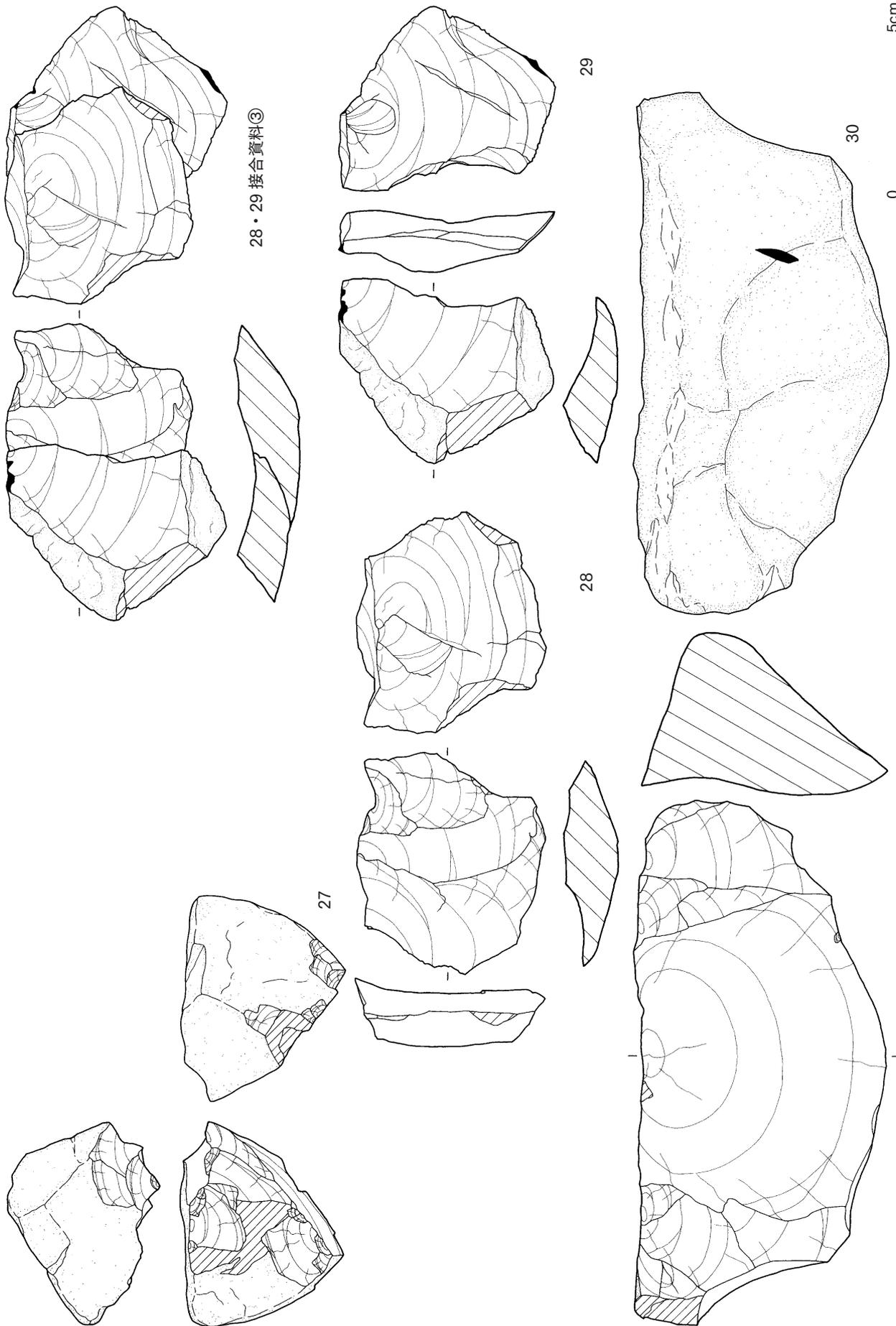
第7図 旧石器時代礫群実測図 (S=1/30)



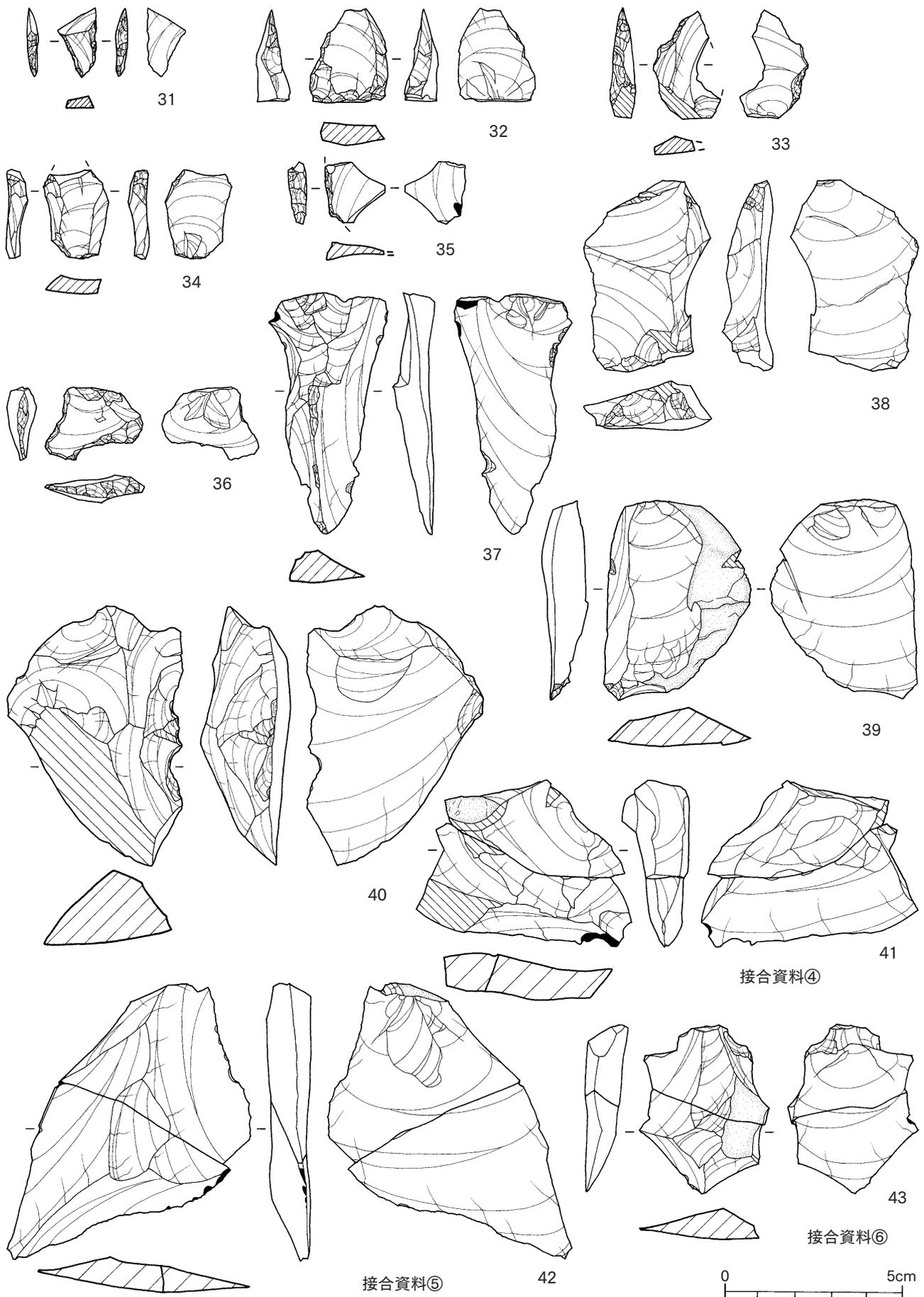
第8図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3・1/2)



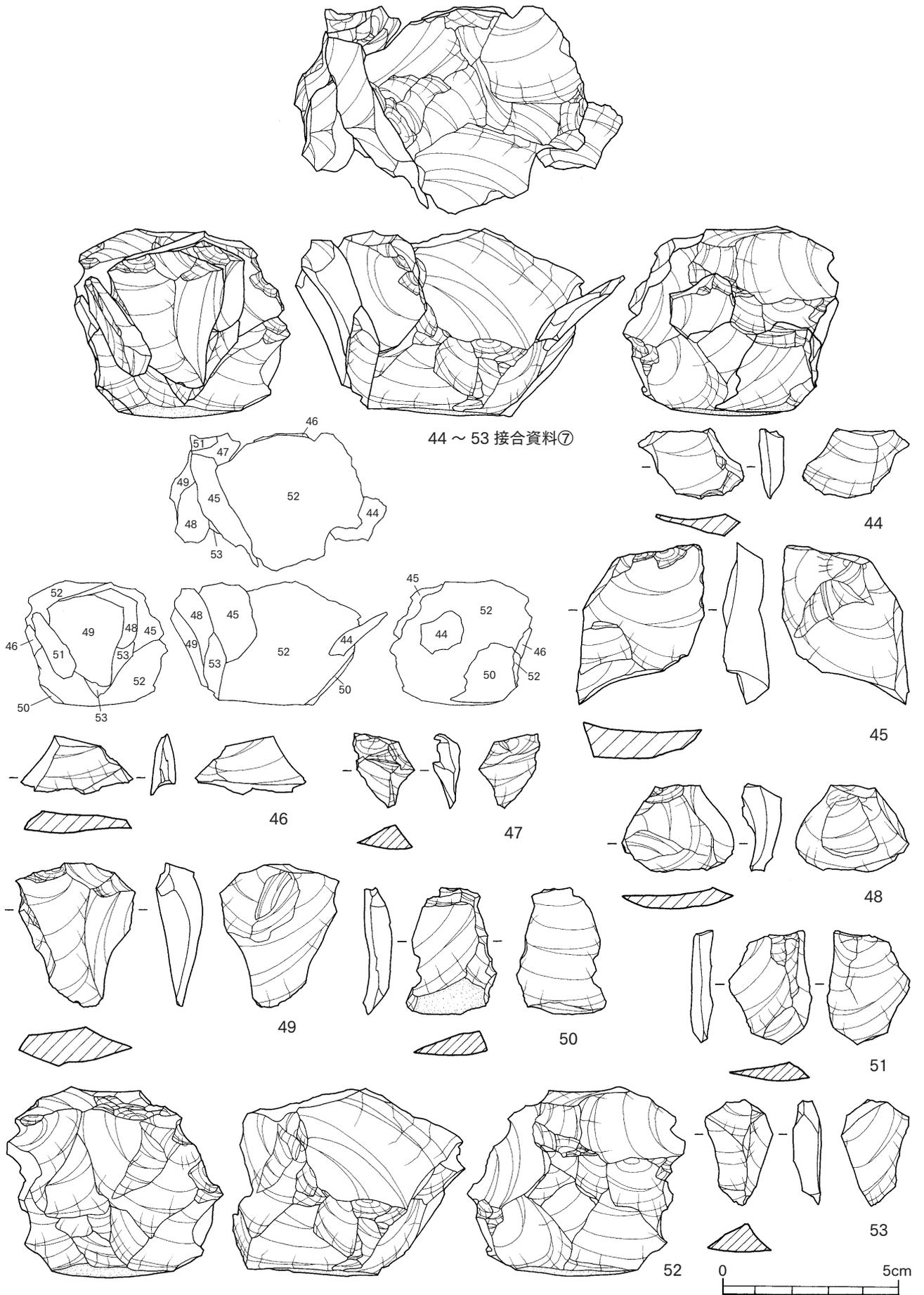
第9図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



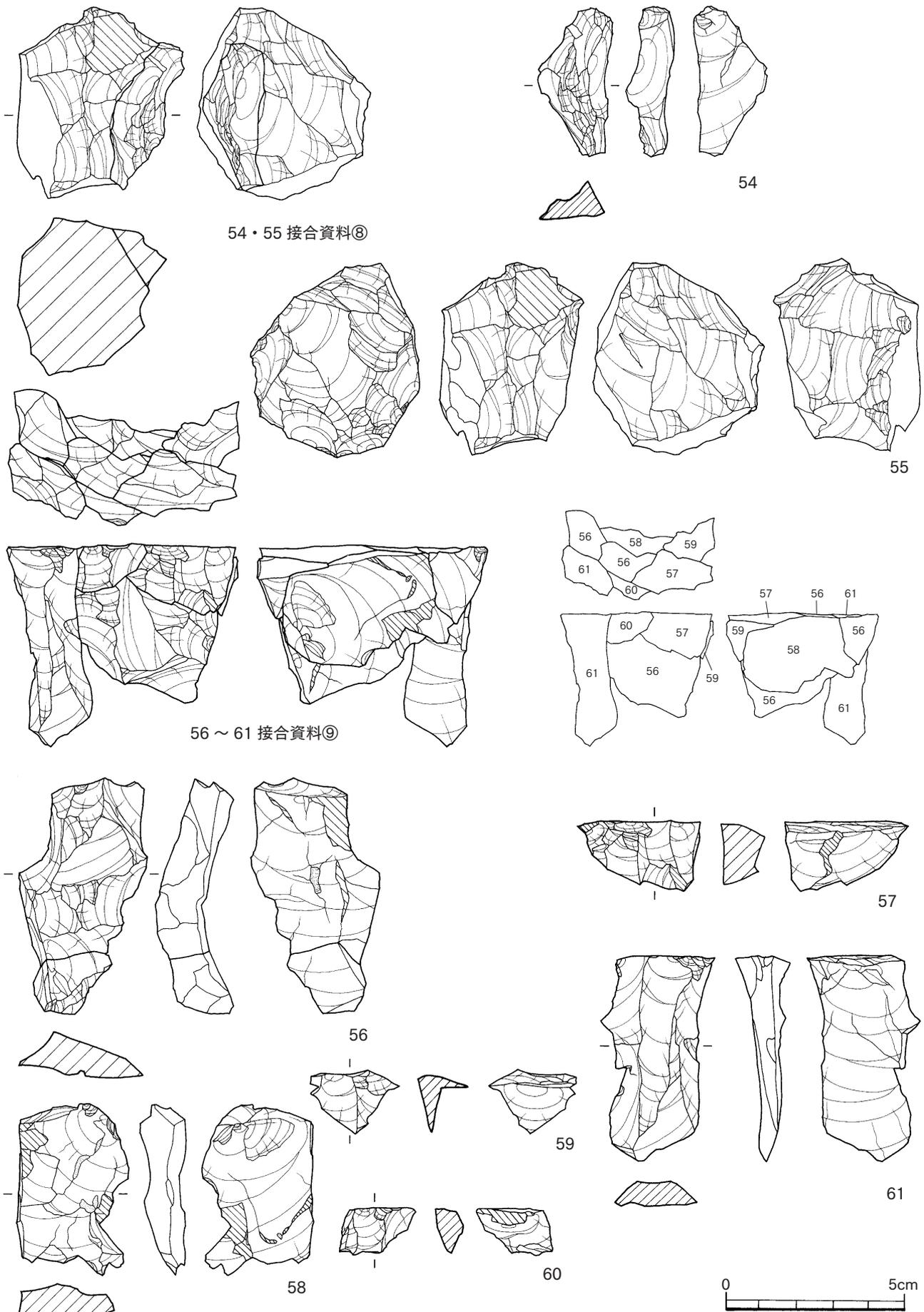
第10図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)



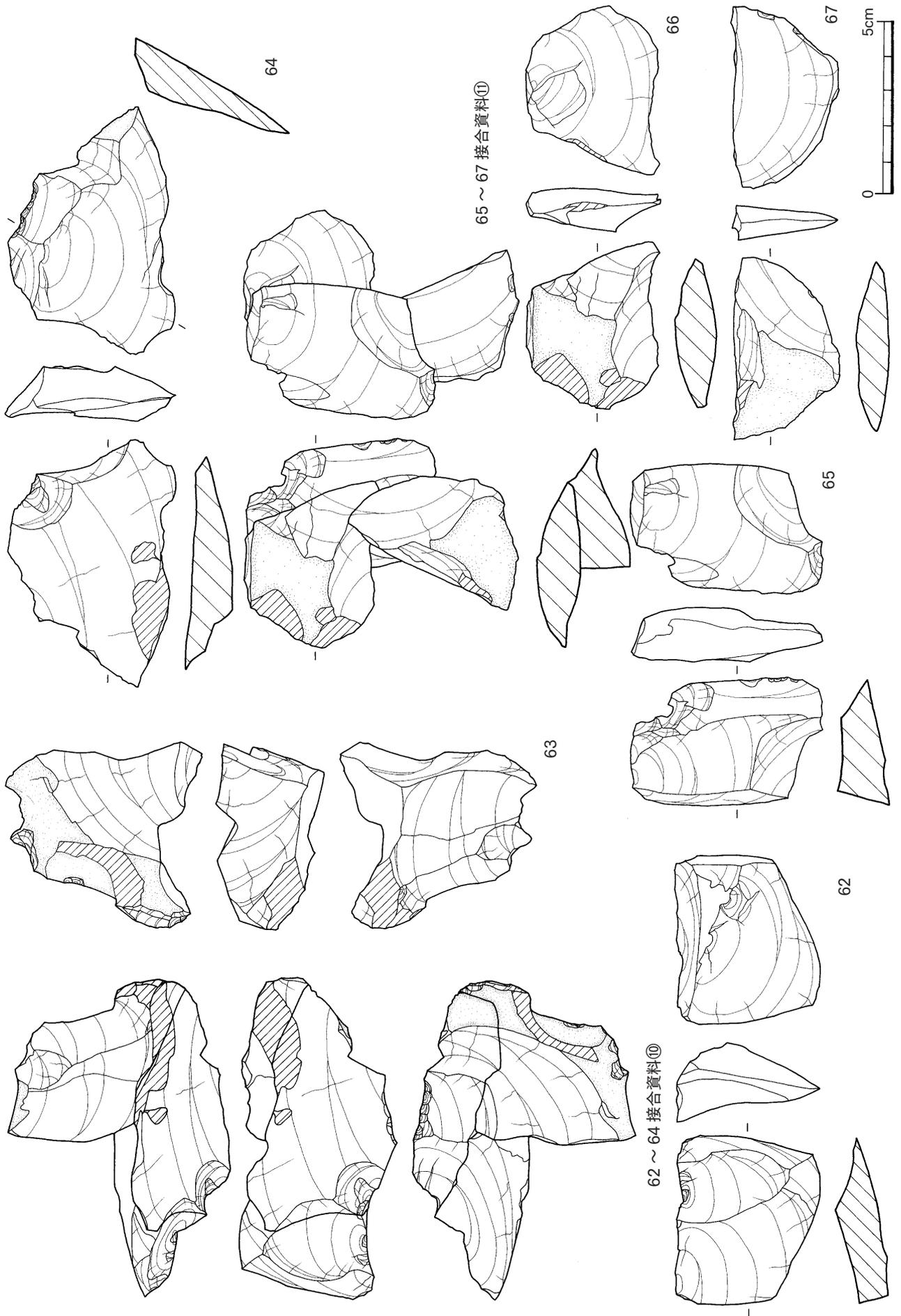
第11図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)



第12図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



第13図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)



第14図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)



第15図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)

ナイフ形石器(31～35)

31 は二側縁加工の切り出し型のナイフ形石器である。1 よりも小型で基部の挟りは弱い。32～34 は寸詰まりの縦長剥片を素材としたナイフ形石器である。素材剥片の打面部を基部に設定しており、刃潰し加工は一側縁加工又は部分加工である。いずれも欠損している。35 は欠損部位が著しく全容が不明だが、刃潰し加工が確認されるためナイフ形石器として報告を行う。

## 二次加工有る剥片(36～40)

36は寸詰まりの剥片を素材として左側縁から下端部にかけて二次加工を施している。37は縦長剥片の背面体部中央付近に稜上調整のような二次加工が確認される。38・39は縦長剥片の下端部に二次加工が施されている。40は大振りの不定形な剥片の打面部から側縁部にかけて二次加工が確認される。二次加工の剥離面は大きく剥片を作出したものの可能性が考えられるため、石核に分類されるかもしれない。この他に図示していないが、4点の二次加工有る剥片が出土している。

## 頁岩製石器(41～76)

接合資料④～⑥は剥片の折れ面同士の接合資料である。接合資料⑦は剥片9点と石核1点の接合資料である。作出された剥片は不定形な縦長剥片が多い。剥片剥離の工程は51→49→48→53→47→45の順番が復元されるが、50・46・44について石核52と接合関係だけで他の剥片との接点がないため剥片剥離の順序は不明である。接合資料⑧は石核1点と剥片1点との接合資料である。石核55は作業面を転回しながら剥片を作出しているようである。接合資料⑨は剥片6点の接合資料である。縦長剥片61を作出後、寸詰まりの剥片60→57を作出して、打面を90°転回して剥片56→58を作出している。59は58の作出前に剥がれた不整形な剥片である。接合資料⑩は剥片2点と石核1点の接合資料である。3点の資料が接合した状態で瀬戸内技法に類するような山形の打面を作り、横長剥片を連続的に作出しているような剥離面が確認されている。その後、今までの作業面を打面として剥片64が作出され、63→62の順にもともとの石核からは作出されている。剥片64には二次加工が施されている。接合資料⑪は不定形な剥片3点の接合資料である。剥片剥離の工程は67→66→65となる。68～70は打面再生剥片である。71～75は不定形な縦長剥片である。76は不定形な幅広の剥片である。

頁岩製石器ではこの他に図示していないが、剥片2点の接合資料が2組出土している。

## チャート製石器(77)

77は背面に節理面を有する剥片である。この他に図示していないが剥片1点・碎片1点が出土している。

## 黒曜石製石器(78)

78はおそらく上牛鼻産黒曜石製の細見の縦長剥片である。下端部に自然面を残している。この資料の他に黒曜石の資料としては桑ノ木津留産黒曜石の碎片1点が出土している。

## ホルンフェルス製石器

図示していないがホルンフェルス製の剥片1点が出土している。

第2表 旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表①

報告書 No.	実測 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
1	899	ナイフ形石器	8	頁岩	(4.8)	2.1	1.2	(7.9)	基部欠損(狸谷型ナイフ)
2	897	ナイフ形石器	8	頁岩	(3.3)	2	1.2	(5.9)	先端部欠損
3	895	ナイフ形石器	8	頁岩	(3.8)	(1.7)	(0.6)	(4.1)	左半部欠損
4	901	スクレイパー	8	頁岩	4.5	3.3	1.2	18.4	搔器・使用痕の光沢有
5	814	スクレイパー	7	頁岩	5.2	(5.4)	1.5	(34.5)	刃部欠損
6	894	錐状石器	8	流紋岩	5.2	3.7	2.1	23.7	
7	898	二次加工有る剥片	7	頁岩	3.5	4.6	1.6	17.4	彫刻刀形石器の可能性有
8	804	敲石	8	砂岩	9.3	8.3	5.2	428.3	
9	788	敲石	7	砂岩	10.4	7.1	4.3	377.8	
10	787	敲石	7	砂岩	15.2	4.2	4.1	376	
11	786	敲石	8	砂岩	5.65	3.1	2.45	57.4	
12	784	敲石	8	砂岩	9.9	5.2	3.6	243.4	
13	803	敲石	8	砂岩	6.55	3.2	1.8	50.8	
14	782	敲石	8	砂岩	8.3	4.3	3.7	183.8	
15	785	敲石	8	砂岩	8.2	3.3	1.7	57.6	
16	783	敲石	SR-1	砂岩	7.75	3.75	2.2	84.6	
17	830	剥片	8	頁岩	5.4	3.6	1.3	26.6	接合資料①
18	831	剥片	8	頁岩	4.4	1.9	0.7	5	接合資料①
19	833	剥片	8	頁岩	4.5	3.5	1.4	19.9	接合資料②
20	834	剥片	8	頁岩	3.7	2.4	0.9	4.6	接合資料②
21	805	剥片	7	頁岩	(7.8)	4.3	2	(59.5)	打面部欠損
22	797	剥片	8	頁岩	5.3	4.1	1.5	17.8	
23	811	剥片	8	頁岩	4.7	3.1	1.3	17.1	

( )の値は残存値を示す

第3表 旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表②

報告書 No.	実測 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
24	810	剥片	8	頁岩	1.1	1.9	0.4	0.6	
25	863	石核	8	頁岩	5.9	5.9	4.4	163.6	
26	862	石核	8	頁岩	3.1	5.6	3.7	58.6	
27	861	石核	8	チャート	4.5	5.7	4.2	86.5	
28	848	剥片	8	砂岩	5.2	6.2	1.9	48.4	接合資料③
29	847	剥片	8	砂岩	5.9	5.1	1.7	33.8	接合資料③
30	864	石核	8	砂岩	7	14.5	6.3	497.3	
31	900	ナイフ形石器	7	頁岩	1.9	1.1	0.4	0.5	
32	902	ナイフ形石器	7	頁岩	2.6	2.2	0.9	4.4	
33	896	ナイフ形石器	7	頁岩	3.1	(1.9)	0.7	(2.5)	右側縁欠損
34	904	ナイフ形石器	7	頁岩	(2.5)	1.8	0.6	(2.3)	先端部欠損
35	906	ナイフ形石器	7	頁岩	(1.7)	(1.7)	(0.5)	(0.9)	右半部欠損
36	903	二次加工有る剥片	7	頁岩	2	2.7	0.8	3.3	
37	812	二次加工有る剥片	7	頁岩	6.8	3.4	1.2	14.2	
38	860	二次加工有る剥片	7	頁岩	5.3	3.6	1.4	19.7	
39	807	二次加工有る剥片	7	頁岩	5.6	4.2	1.3	26.6	
40	865	二次加工有る剥片	7	ホルンフェルス	7.3	4.9	2.6	57.5	石核の可能性有
41	815	剥片	7	頁岩	4.7	6.1	1.9	37.8	接合資料④
42	817	剥片	7	頁岩	7.8	6.8	1.3	43.7	接合資料⑤
43	816	剥片	7	頁岩	4.7	3.6	1.2	15.9	接合資料⑥
44	841	剥片	7	頁岩	2	3	0.7	2.9	接合資料⑦
45	843	剥片	7	頁岩	4.6	3.6	1.3	16.2	接合資料⑦
46	842	剥片	7	頁岩	1.7	3.1	0.7	2.7	接合資料⑦
47	836	剥片	7	頁岩	2.1	1.7	0.8	1.6	接合資料⑦
48	844	剥片	7	頁岩	2.5	3.2	1.1	6.4	接合資料⑦
49	840	剥片	7	頁岩	4.1	3.3	1.4	13	接合資料⑦
50	838	剥片	7	頁岩	3.6	2.5	0.8	6.3	接合資料⑦
51	837	剥片	7	頁岩	3.2	2.3	0.7	3.8	接合資料⑦
52	845	石核	7	頁岩	5.3	6.5	6.1	200.2	接合資料⑦
53	839	剥片	7	頁岩	3	1.9	0.8	3.1	接合資料⑦
54	855	剥片	7	頁岩	4.2	2.1	1.2	6.5	接合資料⑧
55	854	石核	7	頁岩	5.4	4	4.5	101.7	接合資料⑧
56	825	剥片	7	頁岩	6.6	3.6	2.2	28	接合資料⑨
57	828	剥片	7	頁岩	2	1.2	1.7	7.8	接合資料⑨
58	824	剥片	7	頁岩	4.8	3.1	1.3	16.1	接合資料⑨
59	826	剥片	8	頁岩	1.7	2.4	1.5	2.2	接合資料⑨
60	827	剥片	7	頁岩	1.3	2.1	0.9	1.8	接合資料⑨
61	823	剥片	7	頁岩	5.7	3.1	1.5	15.1	接合資料⑨
62	859	剥片	7	頁岩	4.1	4.8	2.3	32.1	接合資料⑩
63	857	剥片	8	頁岩	3.1	5.3	5.5	59.2	接合資料⑩
64	858	剥片	8	頁岩	4.8	7.1	1.6	40.4	接合資料⑩
65	850	剥片	7	頁岩	5.4	3.6	1.6	30.8	接合資料⑪
66	852	剥片	7	頁岩	3.7	4.8	1.2	20.3	接合資料⑪
67	851	剥片	7	頁岩	3	5.3	1.1	14.6	接合資料⑪
68	819	打面再生剥片	7	頁岩	3.4	3.8	1.2	11.8	
69	820	打面再生剥片	7	頁岩	4.1	3.5	1.5	17.1	
70	818	作業面調整剥片	7	頁岩	4.6	2.7	1.2	10.1	
71	798	剥片	7	頁岩	6.7	2.7	0.9	10	
72	808	剥片	7	頁岩	4.8	2.3	0.9	7.6	
73	821	剥片	7	頁岩	4	2.5	1.1	9.3	
74	905	剥片	7	頁岩	3.3	(3)	0.85	(5.6)	右側縁部欠損
75	813	剥片	7	頁岩	5.6	3.3	1	17.3	
76	806	二次加工有る剥片	7	頁岩	6	8	2.1	79.8	
77	809	剥片	8	チャート	2.2	1.5	0.6	1.1	
78	876	剥片	7	黒曜石(上牛鼻産?)	2.9	1.4	1	2.4	

( ) の値は残存値を示す

## 第2節 細石器文化期の遺物

### 1. 遺物の出土状況と使用石材について

本調査区において細石器文化期の遺物は基本層序の3(2)層下部から5層にかけて縄文時代草創期・早期の遺物と混在して出土しており、調査中に明確に文化層が確認されたわけではない。細石器文化期の遺物とされる細石刃・細石刃核が分布する範囲で、それらの石材として使用されている桑ノ木津留産黒曜石製の石器を同時期の遺物とみなしてここで報告を行うが、出土状況からは縄文時代の遺物が含まれている可能性が考えられる。

本調査区から出土した細石刃・細石刃核の石材として使用されている桑ノ木津留産黒曜石であるが、今回報告を行う資料は視覚的に2種類(A類・B類)に分類される。その特徴としてA類は黒色又はコーラ色で透明度が高いものがあり、ほとんど混入物がない。従来より桑ノ木津留産黒曜石の特徴とされているものである。一方、B類は黒色で白い粒状の混入物が多く含まれており、全く光を通さないものである。両者を比べるとちがう原産地のもののような印象をうけるが、この種類の黒曜石が桑ノ木津留で採集できることが最近判明している。

今回報告する細石刃文化期の桑ノ木津留産黒曜石A類製の石器の出土点数は58点・107.3gで、B類製の石器の出土点数は38点・74gである。なお、この分類については今回の報告にのみ使用される分類である。

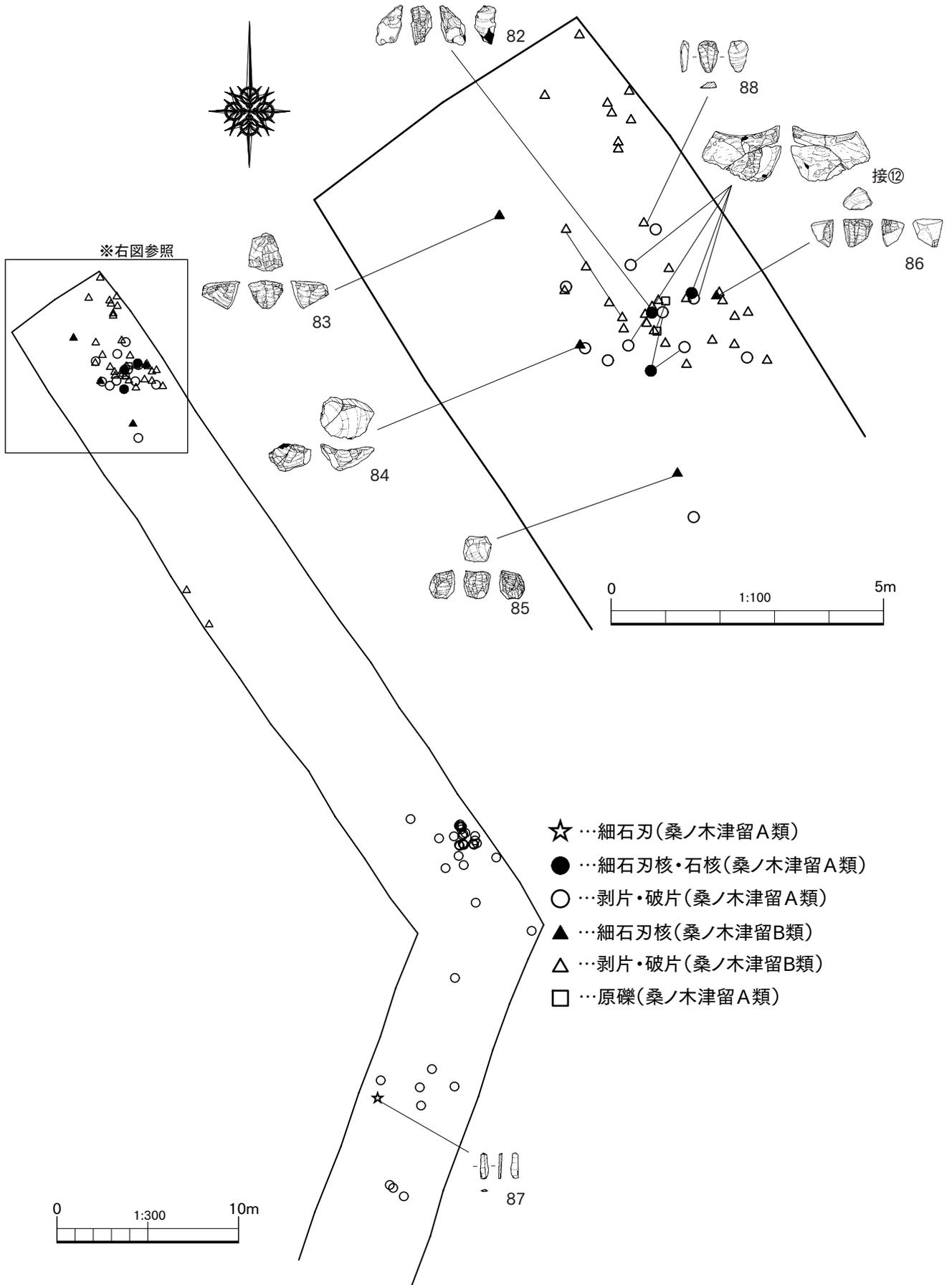
### 2. 細石器文化期の遺物

接合資料⑫は細石刃核1点と剥片2点の接合資料である。接合状態から細石刃核81の素材は角礫であり、角礫の平坦面を打面として剥片80を作出し、そこで得られた平坦面を打面として側面調整剥片79を作出している。なお、細石刃生産のための打面調整は行われていない。82は81と同タイプの細石刃核である。83は厚手の剥片の下端部を作業面に設定している細石刃核である。側面調整における打面調整は行っているが、細石刃生産のための打面調整は行っていない。同タイプの細石刃核は同台地上の五反畑遺跡B地区で出土している。84は剥片素材で側縁部を作業面として細石刃を作出している。85・86は小礫を素材とする細石刃核である。本調査区から出土した細石刃核には打面調整は見られない。87は細石刃である。88は作業面再生剥片であり、89は打面再生剥片であるが、共に細石刃の可能性も考えられる。90～101は桑ノ木津留産黒曜石B類製の剥片である。

第4表 細石器文化期遺物包含層出土石器計測分類表

報告書 No.	実測 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
79	890	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.1	2.9	1.3	4.7	桑ノ木津留 A類 接合資料⑫
80	889	剥片	3・4	黒曜石 (桑ノ木津留)	4.6	1.9	2.1	11.3	桑ノ木津留 A類 接合資料⑫
81	888	細石刃核	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.9	1.2	2	4.6	桑ノ木津留 A類 接合資料⑫
82	884	細石刃核	3	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.2	1.2	1.4	2.7	桑ノ木津留 A類
83	886	細石刃核	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.5	1.9	2.1	4.6	桑ノ木津留 B類
84	874	細石刃核	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.5	2.9	2.3	6.5	桑ノ木津留 B類
85	885	細石刃核	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.6	1.5	1.4	3.9	桑ノ木津留 B類
86	875	細石刃核	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.4	1.65	1.3	2.4	桑ノ木津留 B類
87	873	細石刃	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.4	4.5	0.2	<0.1	桑ノ木津留 A類
88	892	作業面調整剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.75	1.1	0.4	0.6	桑ノ木津留 B類 細石刃の可能性有
89	891	打面再生剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1	2.2	0.4	0.6	桑ノ木津留 B類
90	877	剥片	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.7	3.2	1.15	8.2	桑ノ木津留 B類
91	868	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.9	2.5	0.9	3.3	桑ノ木津留 B類
92	872	剥片	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.7	2.5	0.65	2.2	桑ノ木津留 B類
93	893	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	(1.8)	3	1	(3.6)	桑ノ木津留 B類 上部欠損
94	869	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.75	2.25	0.8	2.6	桑ノ木津留 B類
95	880	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.8	1.7	0.7	1.2	桑ノ木津留 B類
96	886	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.9	1.55	0.5	1.1	桑ノ木津留 B類
97	871	剥片	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.95	1.4	0.4	0.9	桑ノ木津留 B類
98	879	剥片	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.8	1.55	0.55	1.5	桑ノ木津留 B類
99	867	剥片	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.35	1.8	0.6	1.7	桑ノ木津留 B類
100	870	剥片	3	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.85	1.9	0.95	3.2	桑ノ木津留 B類
101	878	剥片	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	3.05	(2.45)	0.8	(4.5)	桑ノ木津留 B類 上部欠損

原産地推定結果あり ( ) の値は残存値を示す



第16図 細石器文化期遺物分布図 (S=1/300・1/100)



第17図 細石器文化期遺物包含層出土石器実測図 (S=2/3)

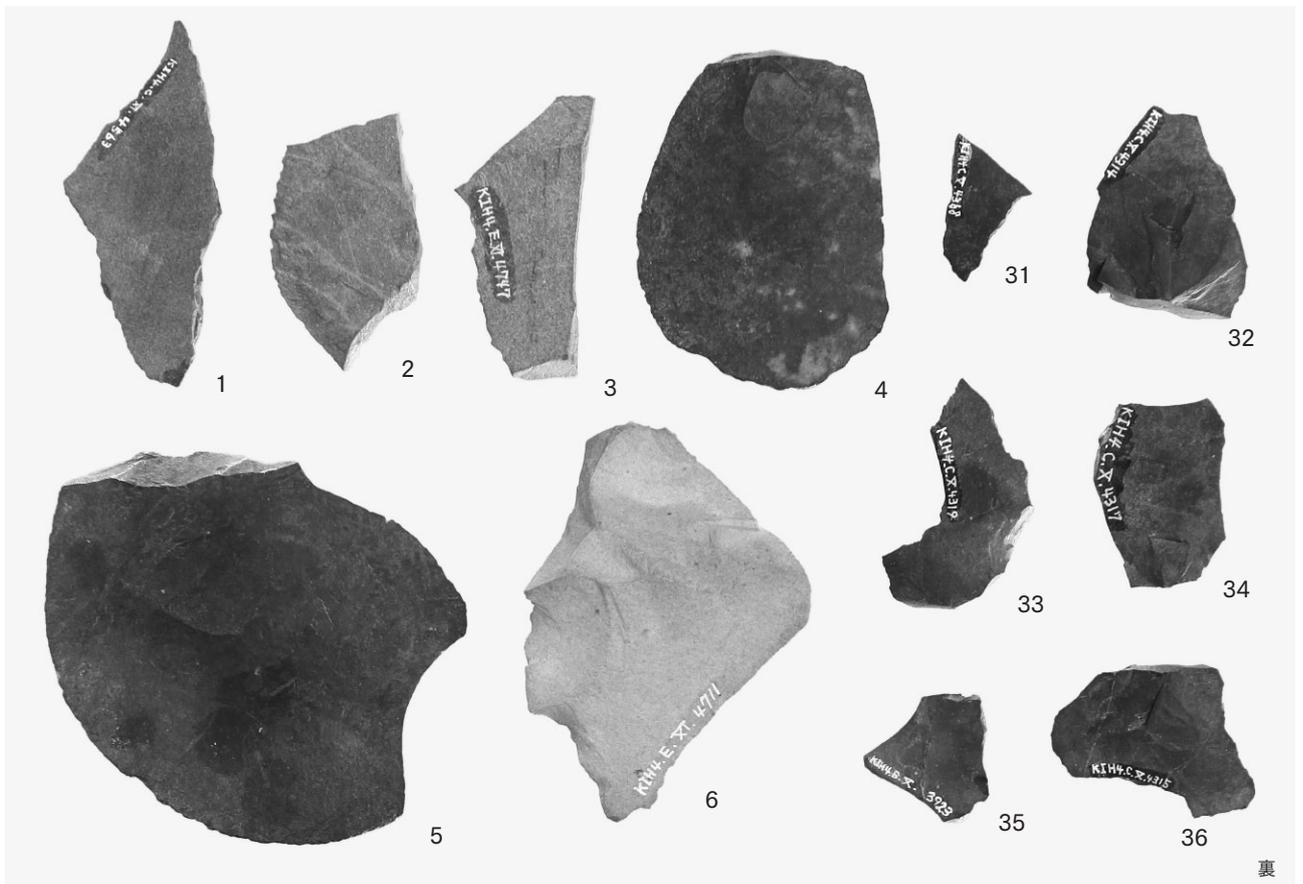
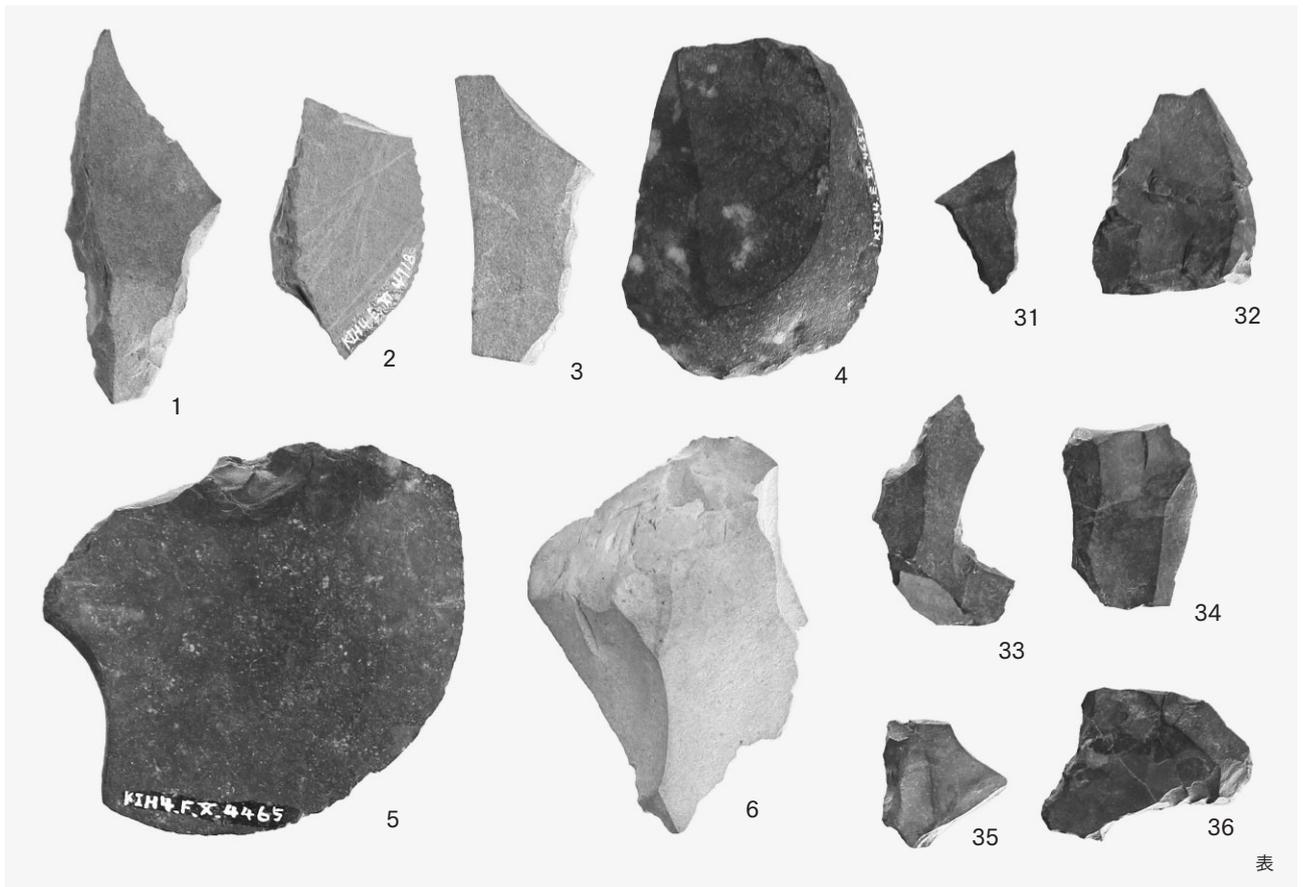


SR-1 南から

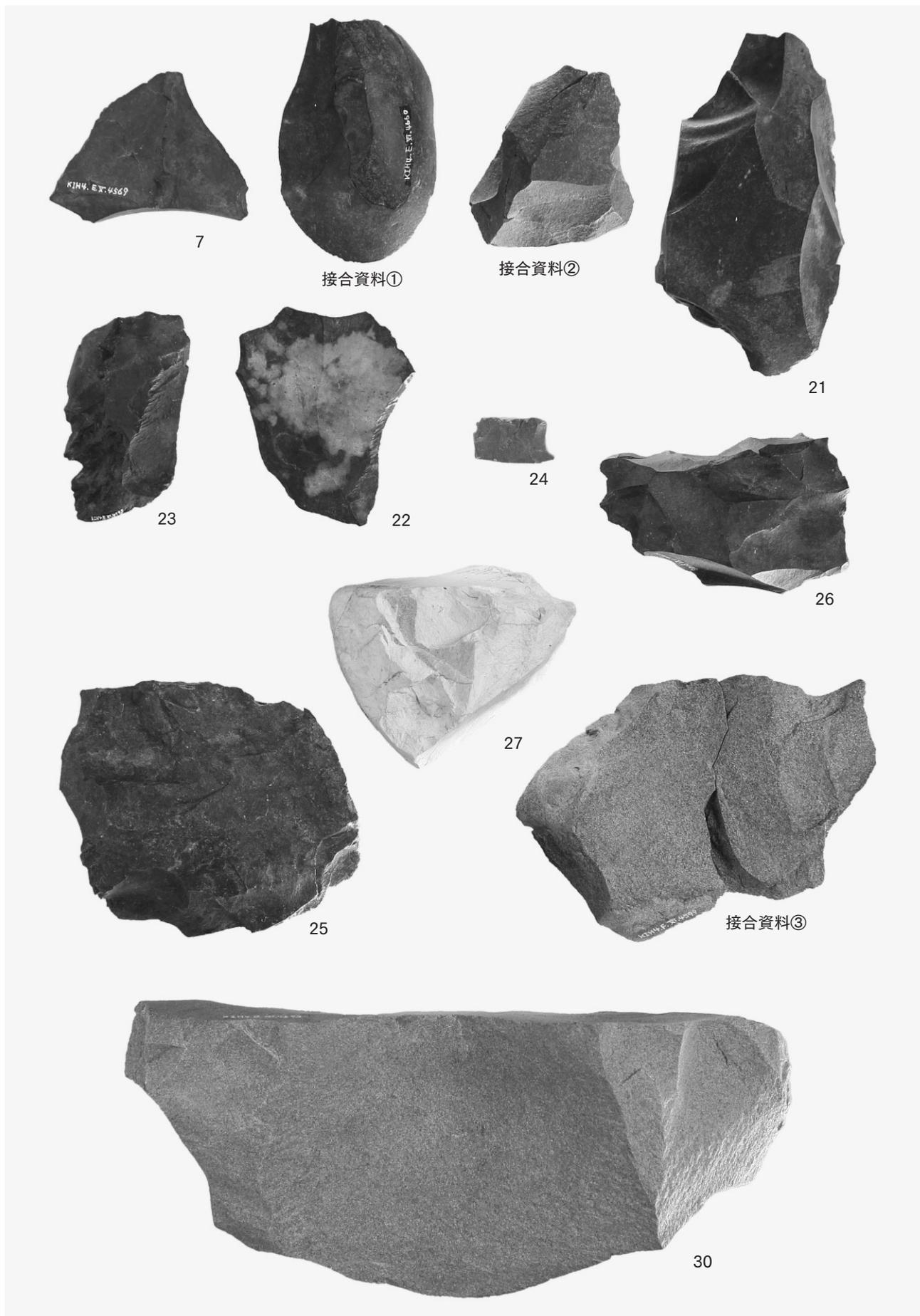


SR-2 北から

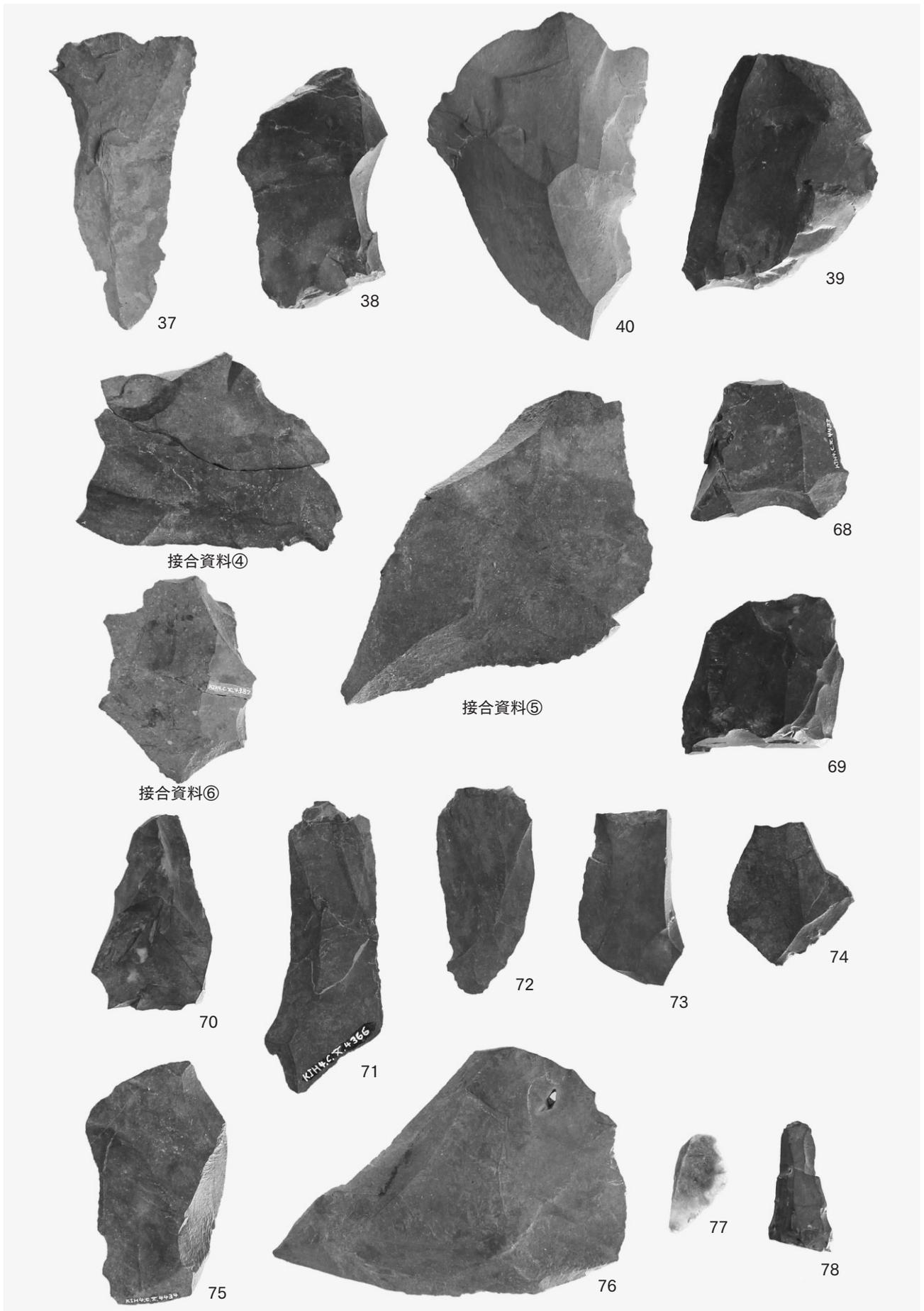
写真図版6 旧石器時代礫群



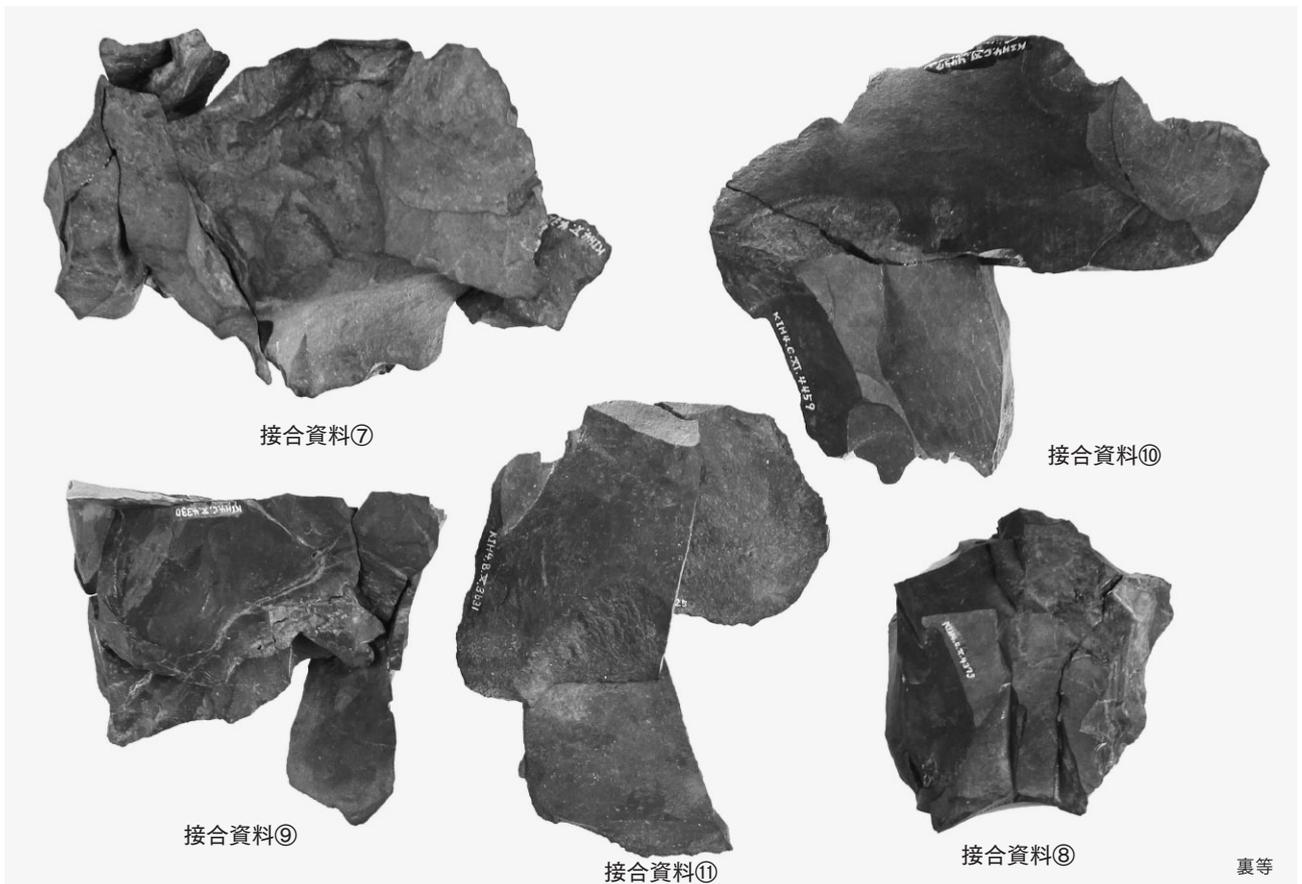
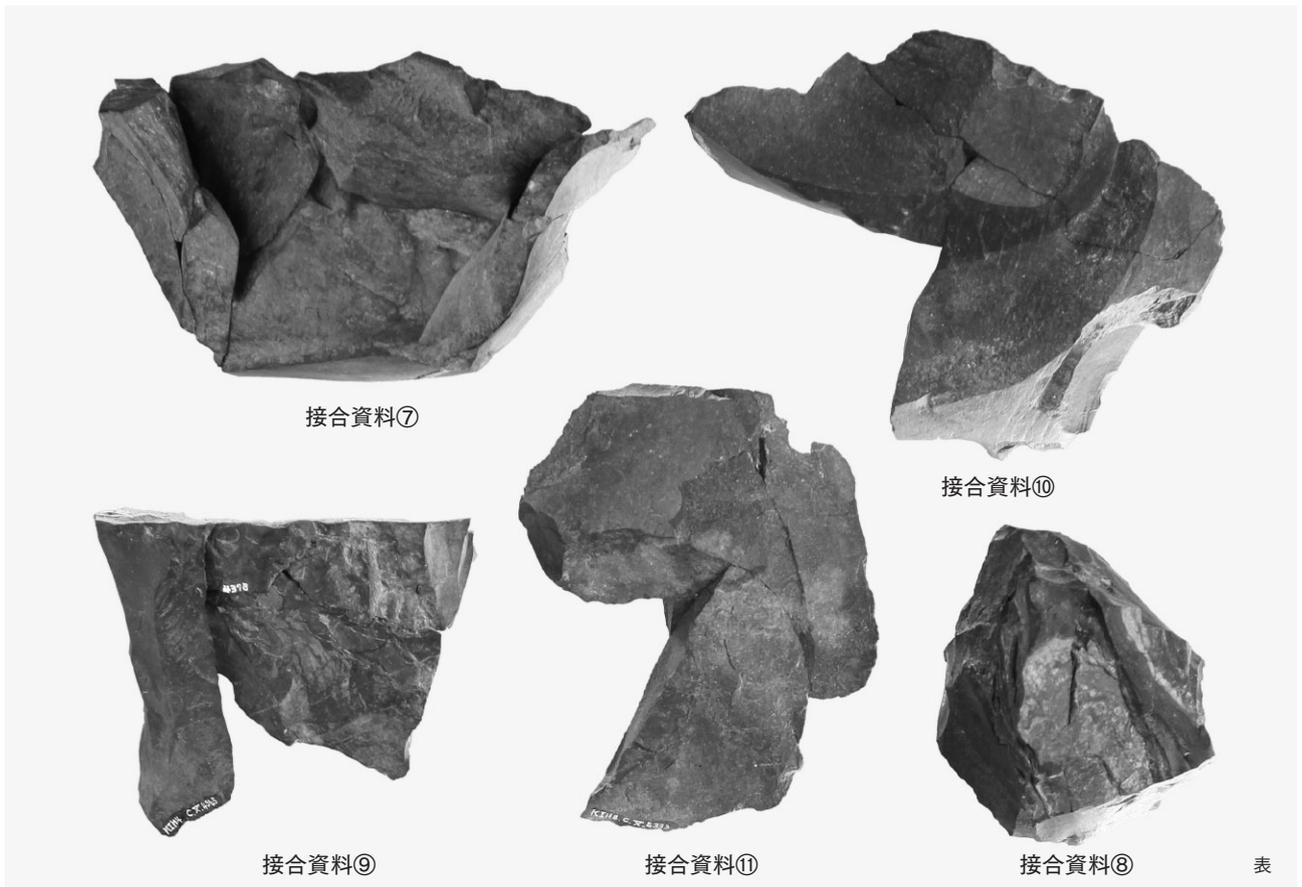
写真図版7 旧石器時代遺物包含層出土石器①



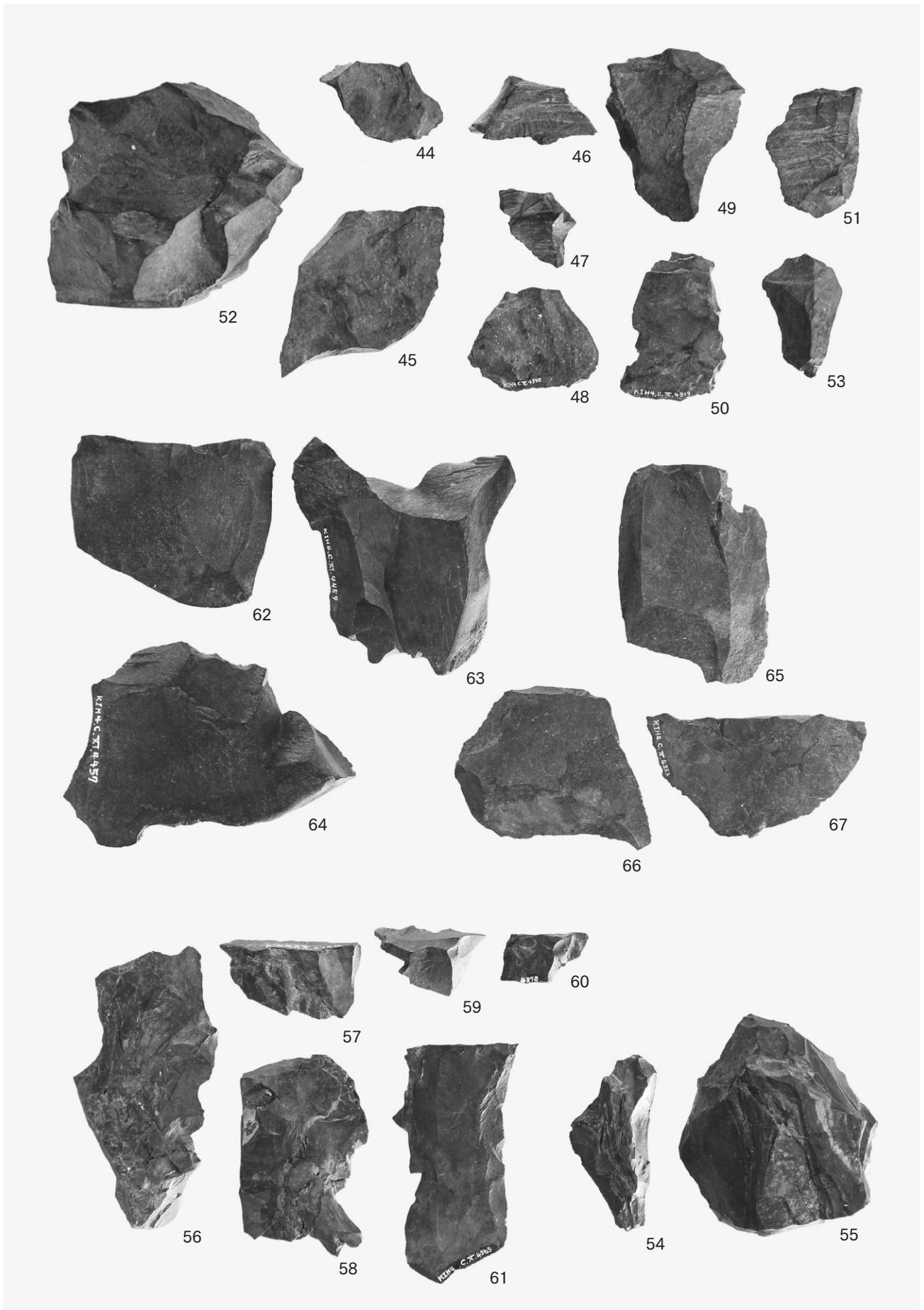
写真図版 8 旧石器時代遺物包含層出土石器②



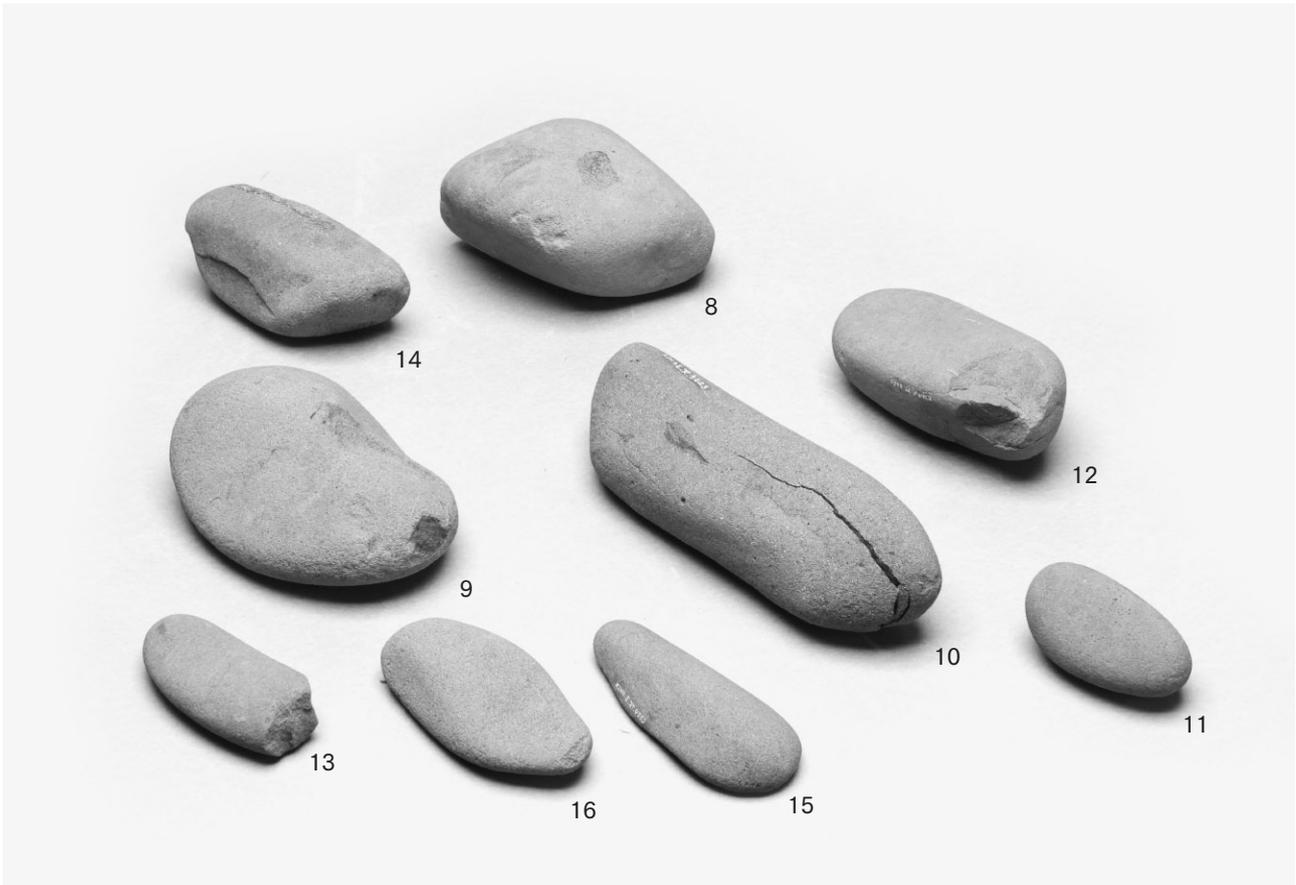
写真図版9 旧石器時代遺物包含層出土石器③



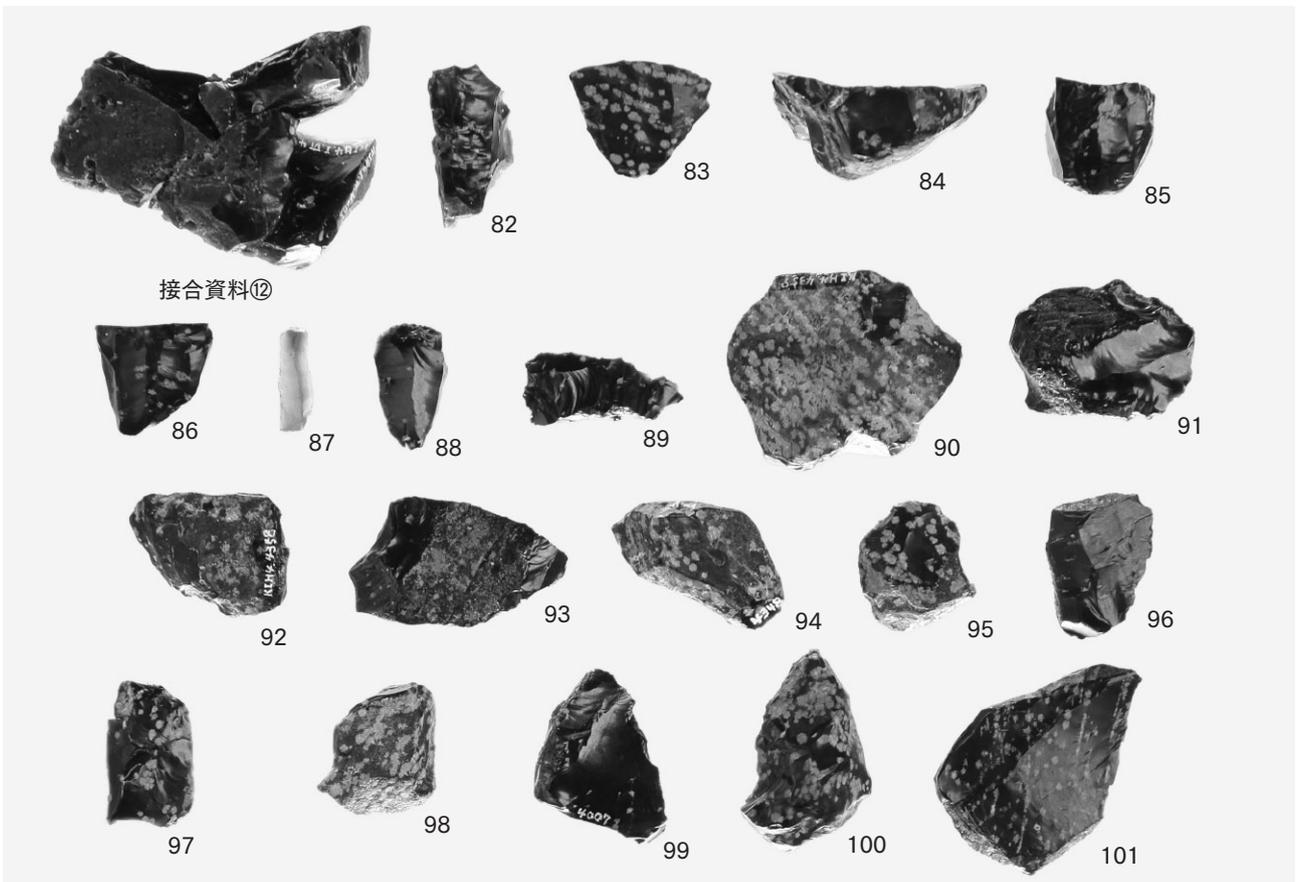
写真図版10 旧石器時代遺物包含層出土石器④



写真図版11 旧石器時代遺物包含層出土石器⑤



写真図版12 旧石器時代遺物包含層出土石器⑥



写真図版13 細石器文化期遺物包含層出土石器

# 第Ⅲ章 縄文時代草創期・早期の調査

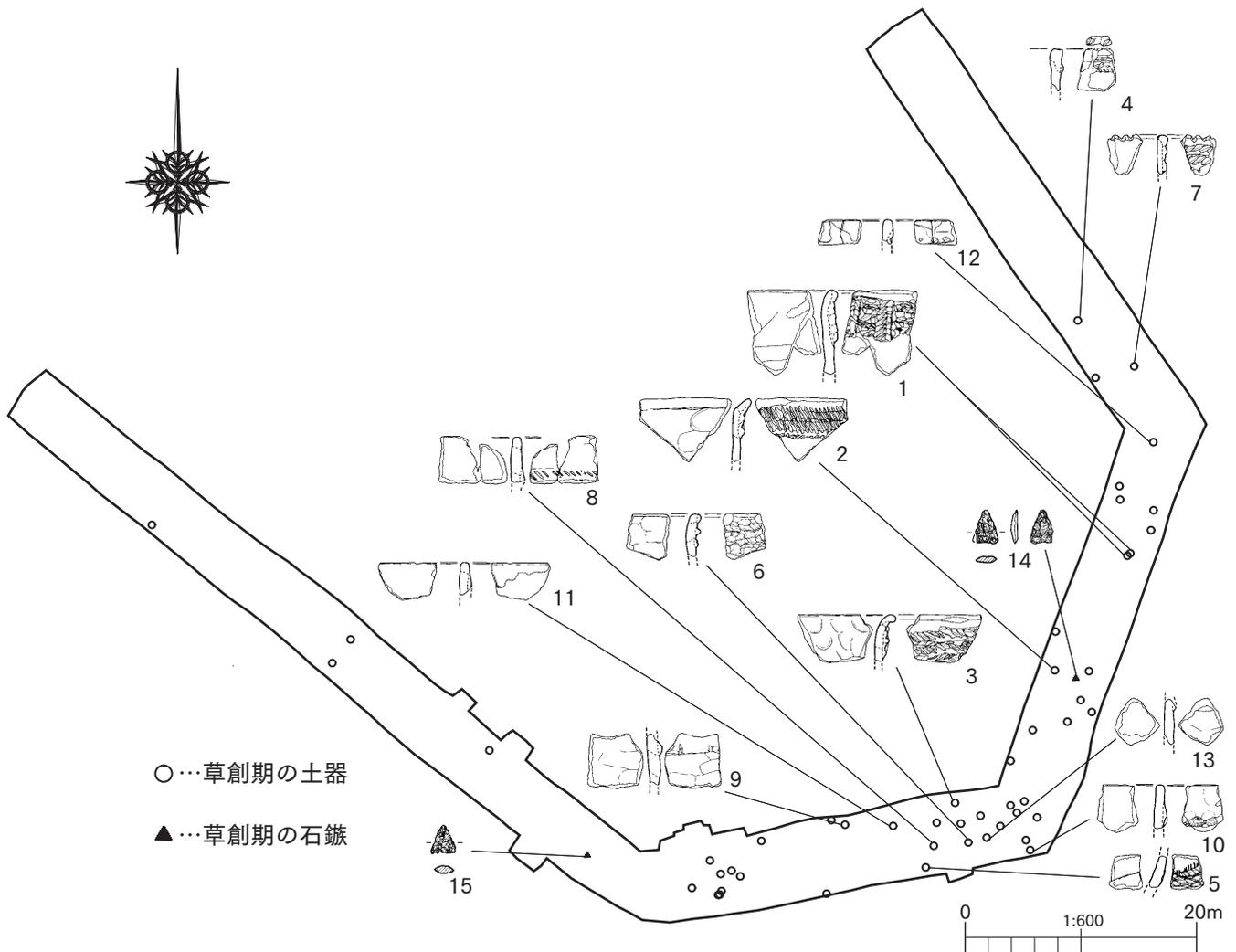
## 第1節 縄文時代草創期の遺物の出土状況

縄文時代草創期の遺物は基本層序の4層から5層にかけて早期の遺物と混在して出土している。草創期と早期を層位的に分ける鍵層となる薩摩火山灰は調査中に確認されなかった点や、草創期の遺物は早期の遺物と比べると非常に出土量が少ない点から草創期を文化層として捉えることはできなかった。本調査区の中央付近に草創期の遺物が集中するような分布状況が見受けられるが、これは東側に草創期の遺構・遺物が多数検出された清武上猪ノ原遺跡第5地区が隣接するためであろう。本調査区では草創期の遺構と考えられるものは検出されていない。

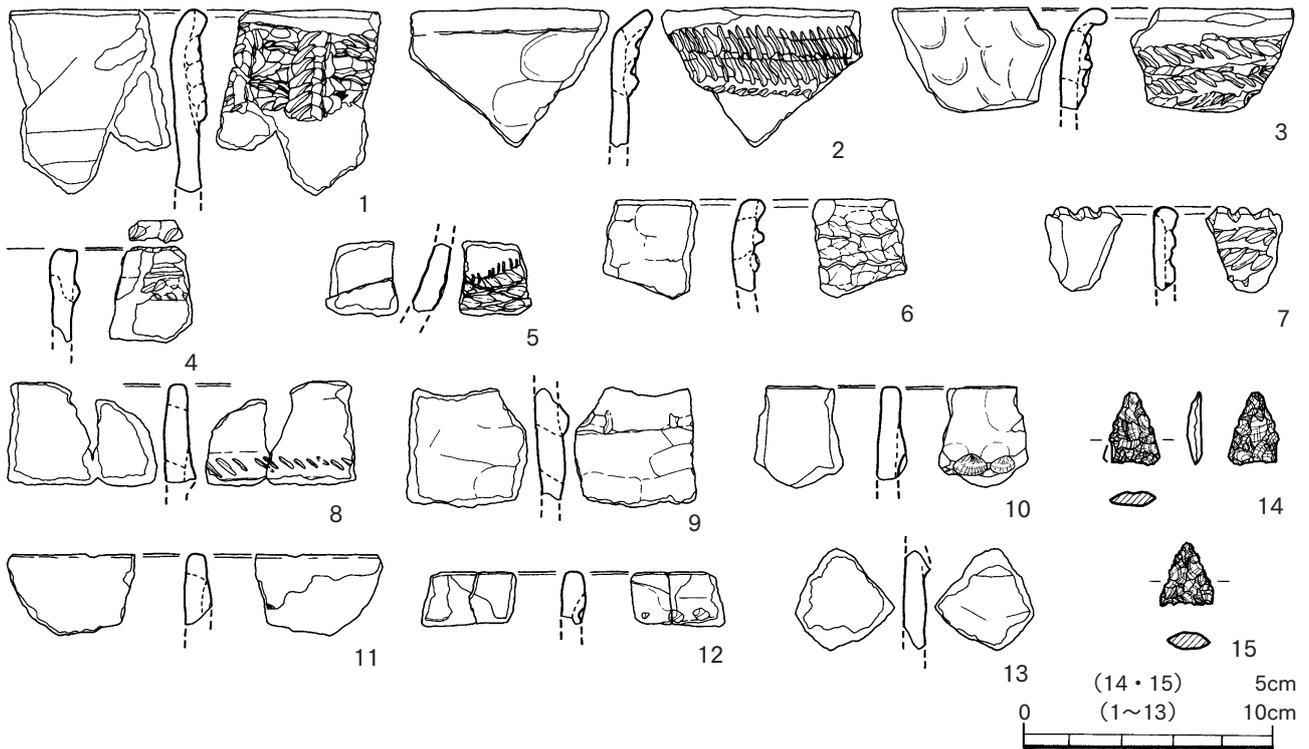
## 第2節 縄文時代草創期の遺物

遺物の洗浄作業中に草創期の隆帯文土器や爪形文土器の有文部分の破片を選別し、その土器片の色調や胎土を参考にして無文の土器片の中から草創期のものと考えられる資料の選別を行った。また、石器については詳細に草創期のものと早期のものを分類することができなかったが、ここで報告する2点の石鏃については近年の船引地区遺跡群の調査成果から草創期に帰属する可能性が高いと考えられるのでここで報告を行う。早期の石器として報告されるものの中に草創期の資料が混在している可能性は十分に考えられる。

1～7は隆帯上に爪形文を施したものである。8～13は口縁部よりやや下に隆帯を施して口縁部付近に肥厚帯を持たせているように見せているもので、その隆帯上には爪や貝殻などで施文している。14・15は桑ノ木津留産黒曜石製の石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈し、小規模で挟りが浅く、やや厚みのある資料である。



第18図 縄文時代草創期遺物分布図 (S=1/600)



第19図 縄文時代草創期遺物包含層出土遺物実測図 (土器S=1/3・石器S=2/3)

第5表 縄文時代草創期遺物包含層出土土器観察表

報告書No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No.	
				外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐	半透明			金雲母
1	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(指先によるつまみ)	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○	○	○				605
2	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(指先によるつまみ)	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐		○		○			指押さえ有り スス付着	764
3	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(指先によるつまみ)	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐			○		○		穿孔あり 指押さえ有り	510
4	5	深鉢	口縁部	ナデ、沈線文 隆帯文(指先によるつまみ)	不明瞭	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐		○	○	○	○		口唇部に刻目 スス付着	767
5	4	深鉢	胴部	ナデ、隆帯文(指先によるつまみ)	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○			771
6	SC2	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(指先によるつまみ)	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○			769
7	5	深鉢	口縁部	隆帯文(爪形)	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○	○	○	○		口唇部に刻目	371
8	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(爪形)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐		○	○	○	○			768
9	4	深鉢	胴部	工具によるナデ 隆帯文(爪形)	工具による ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙		○	○	○	○			765
10	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(貝殻押圧)	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	2.5YR4/3 にぶい赤褐			○		○		指押さえ有り	329
11	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(貝殻押圧)	ナデ	5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR4/2 灰赤	○	○	○		○			714
12	4	深鉢	口縁部	ナデ、隆帯文(刺突)	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	2.5YR4/1 黄灰		○	○	○				509
13	4	深鉢	胴部	ナデ、隆帯文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR8/1 灰白		○	○	○	○			766

第6表 縄文時代草創期遺物包含層出土石器計測分類表

報告書No.	実測No.	器種	出土地点	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
14	85	打製石鏃	F	4	黒曜石(桑ノ木津留)	1.45	(1)	0.25	(0.5)	左脚部欠損
15	56	打製石鏃	C	4	黒曜石(桑ノ木津留)	1.25	1	0.3	0.4	

■ 原産地推定結果有り ( ) の値は残存値を示す

### 第3節 縄文時代早期の遺構

#### 1. 遺構の検出状況

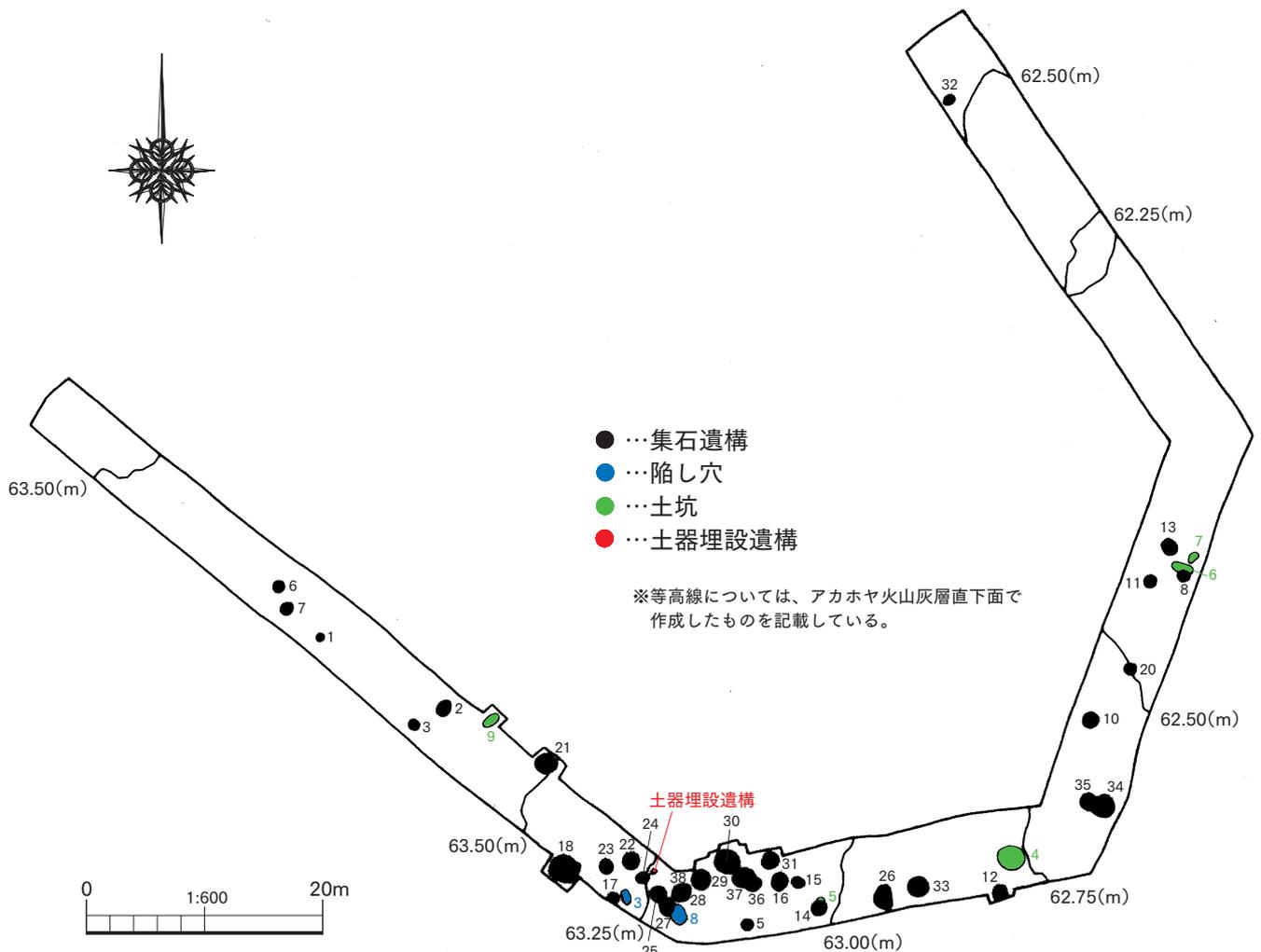
当遺跡の縄文時代早期文化層である3層から4層において、集石遺構36基、陥し穴状遺構2基、土坑5基、また、土器埋設遺構が1基確認された。それぞれの遺構の検出状況については、次のとおりである。

##### ○集石遺構

- 3層下位において焼礫が他よりも密集する範囲が確認され、トレンチ等でより注意深く観察を行った結果、浅い皿状の掘り込みを伴う小型の集石遺構が検出された。
- 4層の上位から中位において焼礫が多量に出土し、そのなかに黒ずんだ円形の範囲が確認された。その範囲について黒色土を一部掘り下げるなどの確認作業を行った結果、皿状やボウル状、またV字状などの断面形状を呈する掘り込みを有する集石遺構が確認された。  
\*なお、当遺跡において確認されたほとんどの集石遺構については、bの検出状況であった。

○陥し穴状遺構：集石遺構の検出層とほぼ同層位で、やや不自然な状況の茶黒色のシミが確認された。ただし、その検出面でのプランの確定はかなり困難な状況であったため、それぞれの遺構において意図的にやや検出面を下げて遺構を確認し、その後掘り下げ作業を行っていった。

○土坑：集石遺構と陥し穴状遺構とほぼ同じ検出面でプランを確認した。また、プランの確定が困難なものについては、トレンチ調査等で確認しながら、より確実な情報の収集に努めた。



第20図 縄文時代早期遺構配置図 (S=1/600)

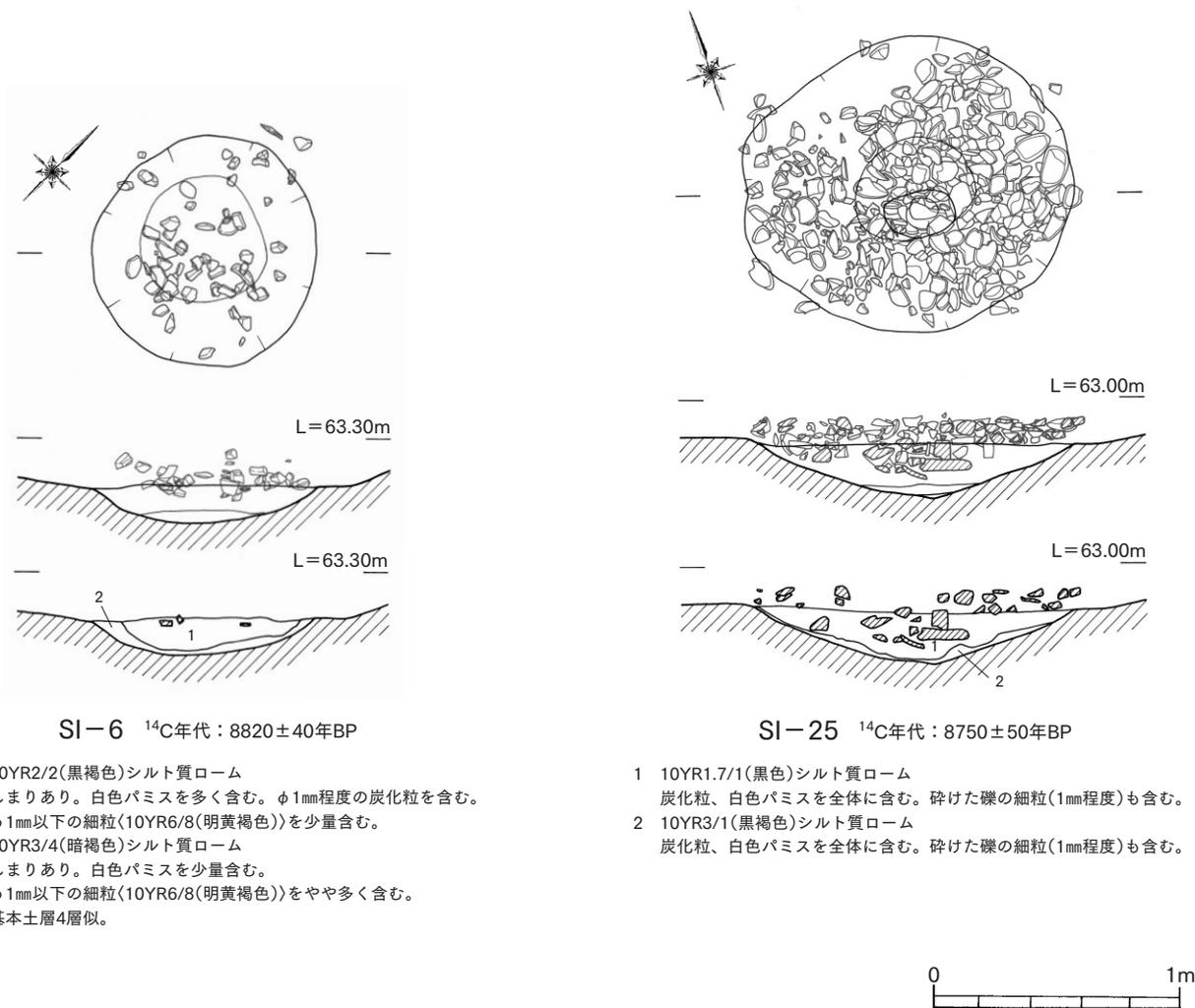
## 2. 集石遺構

- SI-6：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8820±40年BP》というデータを得ている。
- SI-17：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は密であった。掘り込みの埋土については、黒褐色(10YR3/2)シルト質ローム土で、炭化物を全体に含んでおり、そこで採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8750±50年BP》というデータを得ている。
- SI-25：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどだが、円礫や亜円礫もわずかに見られ、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8750±50年BP》というデータを得ている。
- SI-21：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどだが、円礫や亜円礫もわずかに見られ、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8720±40年BP》というデータを得ている。
- SI-13：4層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8710±50年BP》というデータを得ている。
- SI-12：4層で検出された。平面が円形で断面がV字状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8660±50年BP》というデータを得ている。
- SI-16：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8660±40年BP》というデータを得ている。
- SI-5：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8620±40年BP》というデータを得ている。
- SI-23：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8610±50年BP》というデータを得ている。
- SI-28：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8600±50年BP》というデータを得ている。
- SI-18：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8560±50年BP》というデータを得ている。尚、当集石遺構においては、断面形状確認のためのトレンチ調査を行っている。
- SI-31：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどだが、円礫や亜円礫もわずかに見られ、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8530±60年BP》というデータを得ている。
- SI-36：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんど

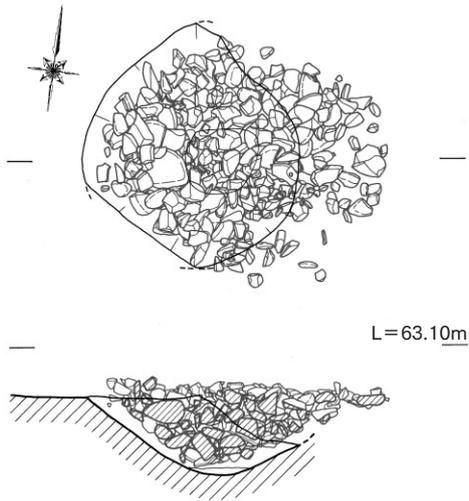
で、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8520±40年BP》というデータを得ている。

- SI-30：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8500±50年BP》というデータを得ている。
- SI-34：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8460±50年BP》というデータを得ている。
- SI-27：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8450±50年BP》というデータを得ている。
- SI-37：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。また、掘り込み埋土には炭化粒・炭化物を含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8240±50年BP》というデータを得ている。
- SI-1：3層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。掘り込みの埋土については、黒褐色(10YR2/2)シルト質ローム土で、炭化物を全体に含んでおり、そこで採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《7820±50年BP》というデータを得ている。また、この集石遺構の周辺では、貝殻条痕文土器が多数出土している。
- SI-22：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、掘り込みの埋土については、黒褐色(10YR3/1)シルト質ローム土で、炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-29：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-26：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。尚、この集石遺構については、本調査前に行われた試掘調査により、その一部を破壊してしまっている。
- SI-35：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-14：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-8：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-33：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-3：3層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。また、掘り込みの埋土については、黒色(10YR1.7/1)シルト質ローム土で、炭化粒と砕けた焼礫破片を全体に含んでいた。
- SI-10：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-24：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。また、掘り込みの埋土については、黒褐色(10YR2/3)シルト質ローム土で、炭化粒・炭化物を全体に含んでいた。
- SI-7：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、掘り込みの埋土については炭化粒・炭化物を全体に含んでいた。

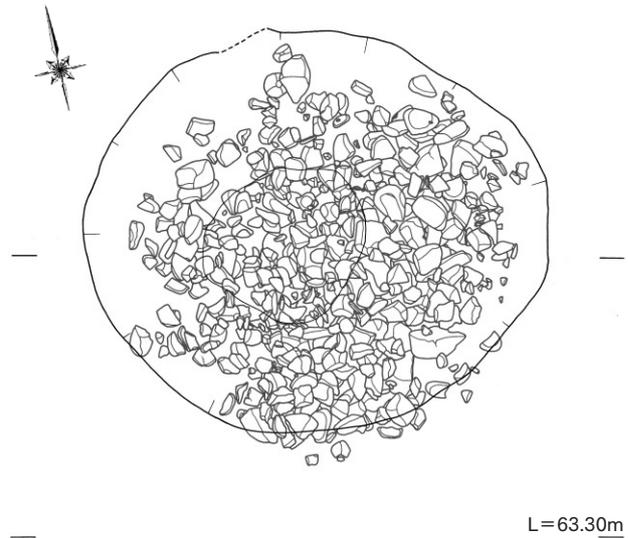
- SI-20：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-32：円形に礫が集中する範囲が4層で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。
- SI-15：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、掘り込みの埋土については、黒褐色(10YR3/2)シルト質ローム土で、炭化粒と砕けた焼礫破片を全体に含んでいた。
- SI-2：3層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、掘り込みの埋土については、黒褐色(10YR3/1)シルト質ローム土で、炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-38：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。
- SI-4：円形に礫が集中する範囲が3層で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。
- SI-11：4層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどだが、円礫や亜円礫もわずかに見られ(尾鈴山酸性岩もあり)、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、掘り込みの埋土については炭化粒を全体に含んでいた。



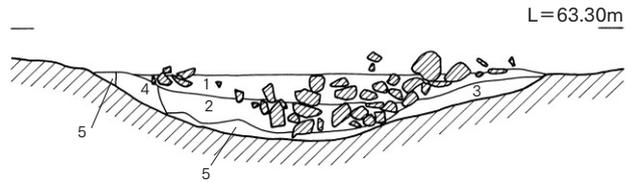
第21図 縄文時代早期集石遺構実測図① (S=1/30)



SI-17  $^{14}\text{C}$ 年代：8750±50年BP



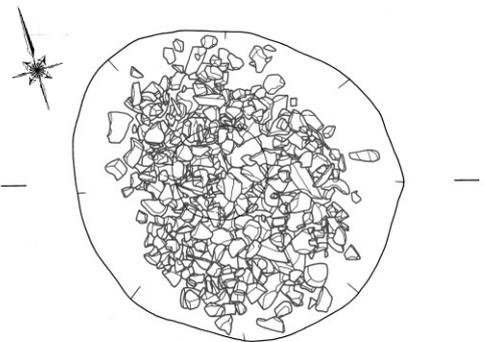
L=63.30m



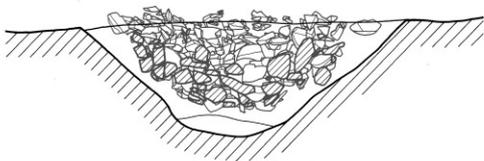
L=63.30m

SI-21  $^{14}\text{C}$ 年代：8720±40年BP

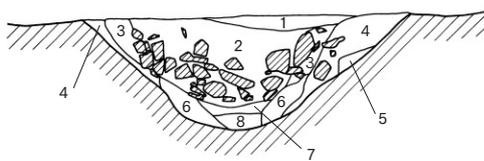
- 1 10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒を多く含む。白色パミスを多く含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
炭化粒を多く含む。砕けた礫の小粒を含む。
- 3 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。砕けた礫の小粒を含む。
- 4 攪乱土(3層が入り込む)
- 5 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
炭化粒を極わずかに含む。基本土層4層似。



L=62.10m

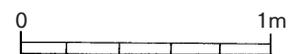


L=62.10m

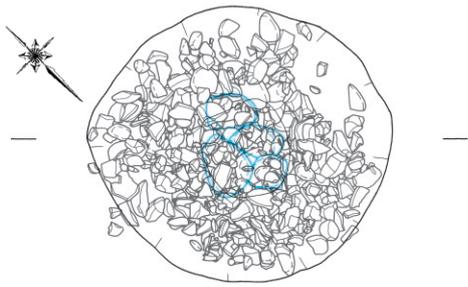


SI-13  $^{14}\text{C}$ 年代：8710±50年BP

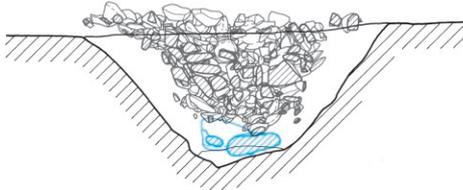
- 1 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
やや硬、白色パミスを全体に含む。  
炭化粒を極わずかに含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
白色パミスを全体に含む。  
(1より少なめ)炭化粒を全体に多く含む。
- 3 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
1とほぼ同質だがやや炭化粒の量が多い。
- 4 10YR4/4(褐色)シルト質ローム  
基本土層4層によく似ている。  
炭化粒をわずかに含んでいる。
- 5 10YR4/4(褐色)シルト質ローム  
やや硬、白色パミスをわずかに含む。
- 6 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
白色パミス、炭化物、黄色の粒を全体に含む。
- 7 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
白色パミスをわずかに含む。  
炭化物、黄色の粒を全体に含む。
- 8 10YR4/6(褐色)シルト質ローム  
白色パミスをわずかに含む。



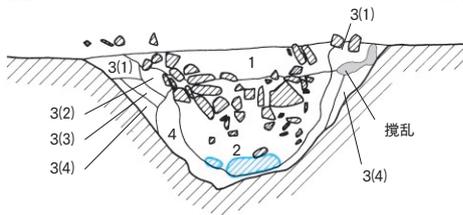
第22図 縄文時代早期集石遺構実測図② (S=1/30)



L=62.70m

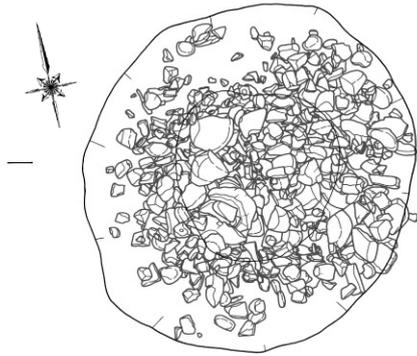


L=62.70m

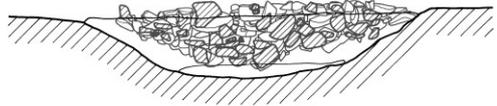


SI-12 <sup>14</sup>C年代：8660±50年BP

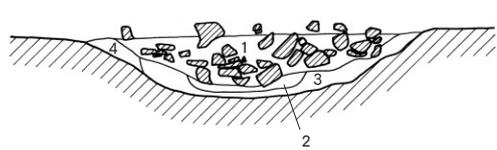
- 1 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム やや硬、白色パミスを全体に含む。砕けた礫の小粒及び炭化粒をわずかに含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム やや硬、炭化粒及び炭化物を多く含むためやや粘。
- 3(1) 10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒、白色パミスを含む。
- 3(2) 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒、白色パミス、砕けた礫の小粒を含む。
- 3(3) 10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒を含む。
- 3(4) 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム 炭化粒をわずかに含む。
- 4 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム



L=62.90m

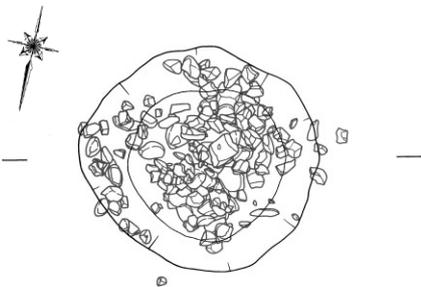


L=62.90m

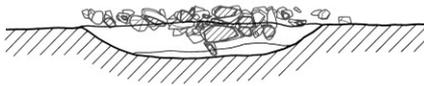


SI-16 <sup>14</sup>C年代：8660±40年BP

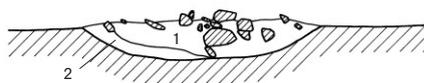
- 1 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム 炭化粒を全体に含む。礫下の埋土と比べると、炭化粒の量が少ない。
- 2 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒を多く含む。砕けた礫の小粒(2mm~2cm)を含む。
- 3 10YR3/1(黒褐色)シルト質ローム 1とほぼ同じだが炭化粒の量が少ない。
- 4 10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒を極わずかに含む。



L=63.00m

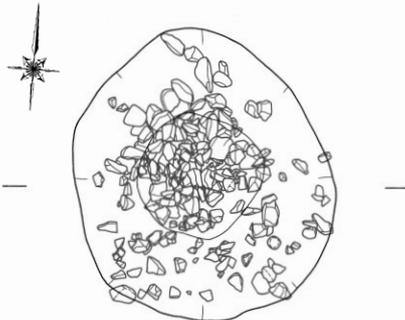


L=63.00m



SI-5 <sup>14</sup>C年代：8620±40年BP

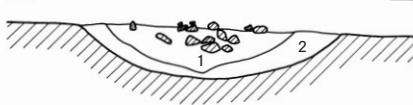
- 1 2.5Y3/2(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒及び白色パミスを含む。
- 2 2.5Y4/2(暗灰黄色)シルト質ローム 炭化粒及び白色パミスを極わずかに含む。



L=63.10m

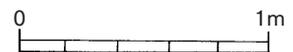


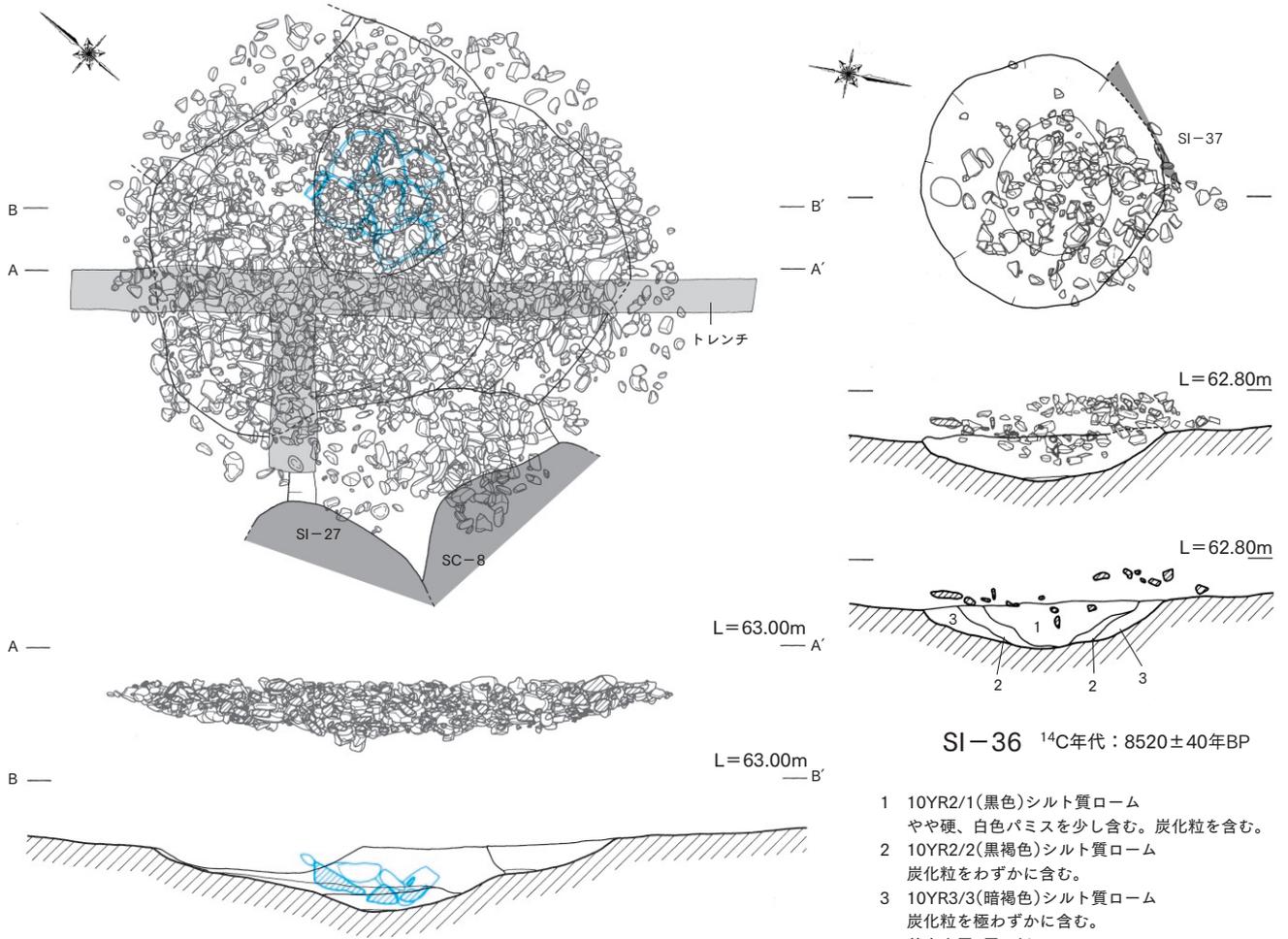
L=63.10m



SI-23 <sup>14</sup>C年代：8610±50年BP

- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒を多く含む。白色パミスを少量含む。
- 2 10YR3/4(暗褐色)シルト質ローム 炭化物を微量含む。基本土層4層似。

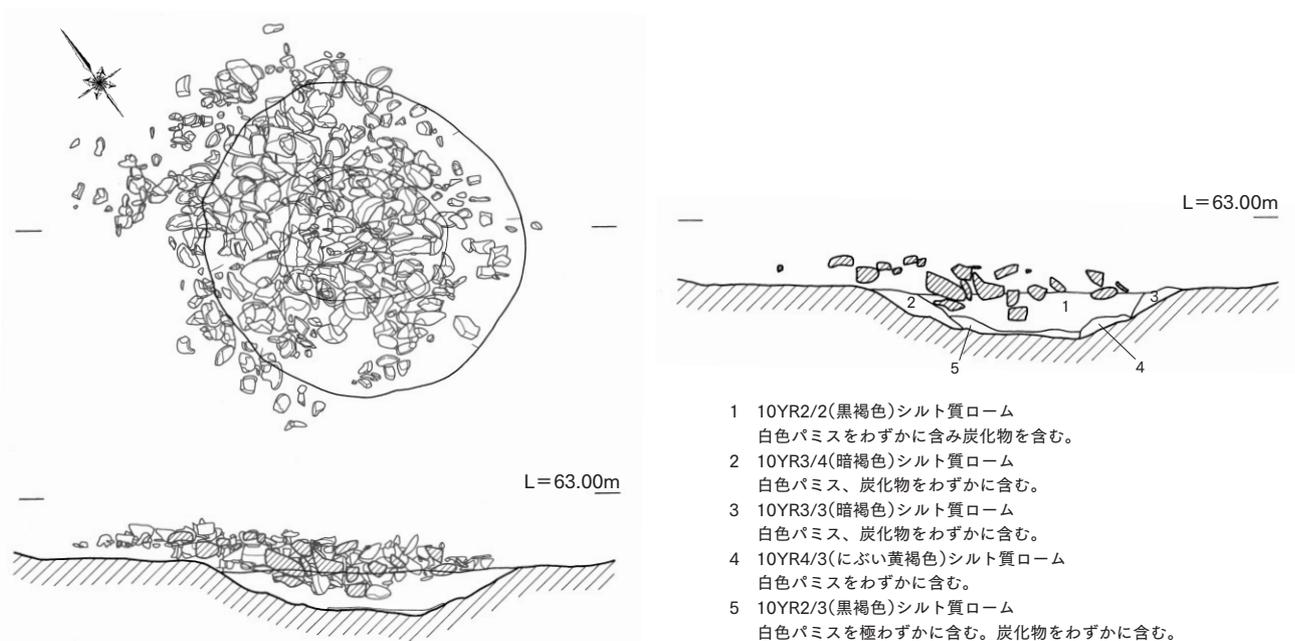




SI-28  $^{14}\text{C}$ 年代：8600±50年BP

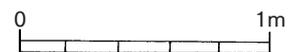
SI-36  $^{14}\text{C}$ 年代：8520±40年BP

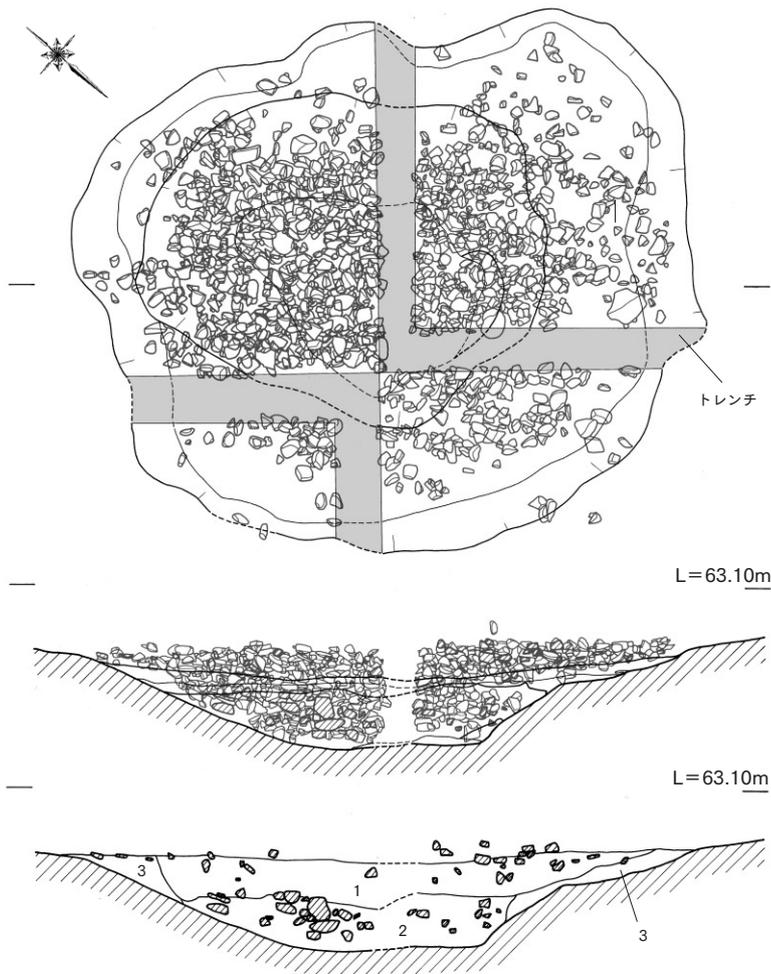
- 1 10YR2/1(黒色)シルト質ローム  
やや硬、白色パミスを少し含む。炭化粒を含む。
- 2 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 3 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
炭化粒を極わずかに含む。  
基本土層4層に似ている。



SI-31  $^{14}\text{C}$ 年代：8530±60年BP

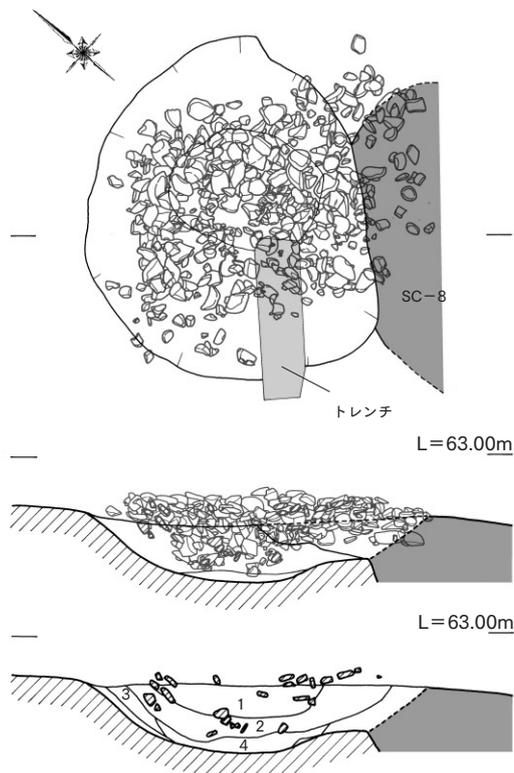
- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
白色パミスをわずかに含む炭化物を含む。
- 2 10YR3/4(暗褐色)シルト質ローム  
白色パミス、炭化物をわずかに含む。
- 3 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
白色パミス、炭化物をわずかに含む。
- 4 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
白色パミスをわずかに含む。
- 5 10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム  
白色パミスを極わずかに含む。炭化物をわずかに含む。





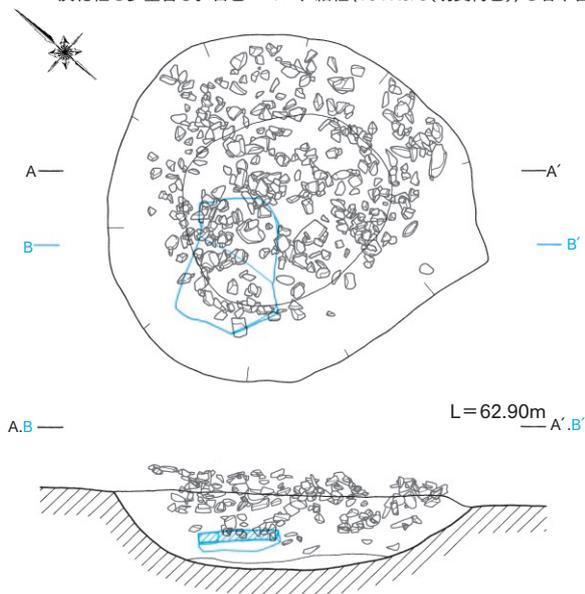
SI-18 <sup>14</sup>C年代：8560±50年BP

- 1 10YR2/1(黒色)シルト質ローム  
2に比べやや硬い。炭化粒、炭化物を多く含む。  
白色パミスを多く含む。細粒(10YR6/8(明黄褐色))をやや多めに含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
1よりも粘りけがある。炭化粒、炭化物を多く含む。  
白色パミス、細粒(10YR6/8(明黄褐色))をやや多めに含む。
- 3 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
炭化粒を少量含む。白色パミス、細粒(10YR6/8(明黄褐色))を若干含む。



SI-27 <sup>14</sup>C年代：8450±50年BP

- 1 10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム  
白色パミスを多めに含む。  
細粒(10YR6/8(明黄褐色))を少量含む。
- 2 10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム  
シルト質ロームブロック(10YR4/4(褐色))を含む。  
基本土層4層似。
- 3 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
炭化粒を極わずかに含む。基本土層6層似。
- 4 2とほぼ同質だがわずかに炭化粒を含む。

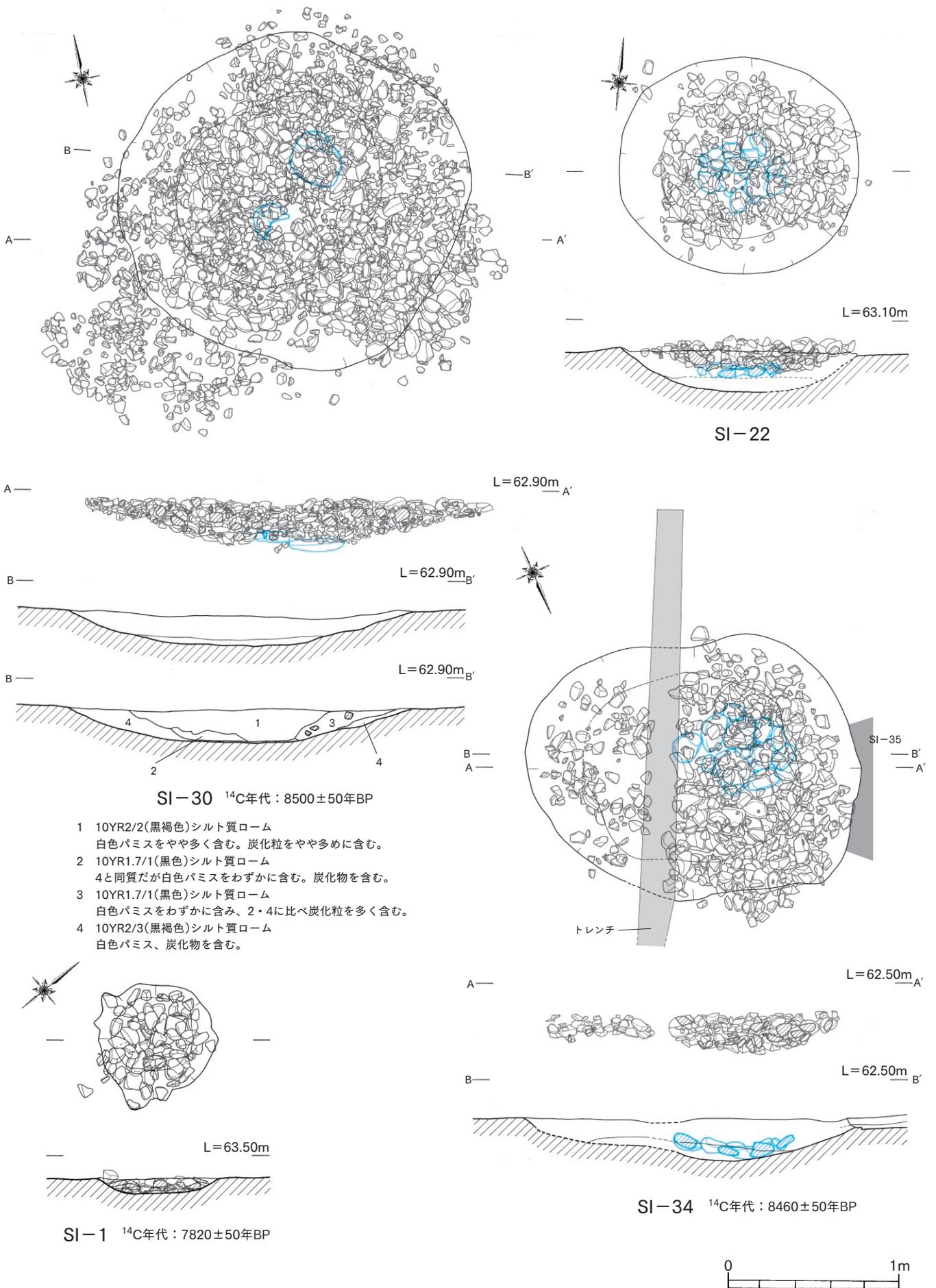


SI-37 <sup>14</sup>C年代：8240±50年BP

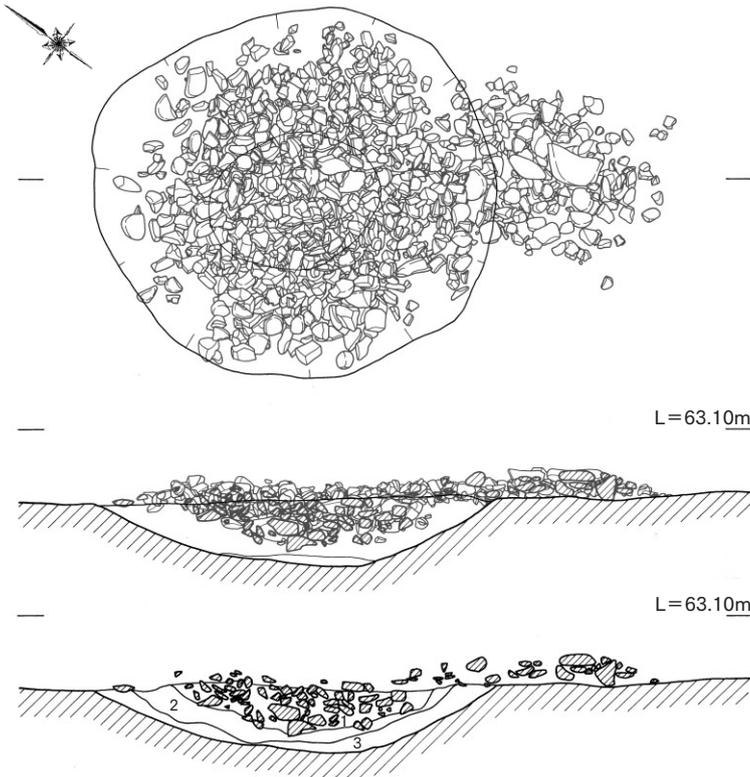
- 1 10YR2/1(黒色)シルト質ローム  
白色パミスをわずかに含み、炭化粒、炭化物を全体に含む。
- 2 10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 3 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
基本土層4層酷似。
- 4 2に小林軽石のブロック(2cm~4cm)を20%程含む。



第25図 縄文時代早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)



第26図 縄文時代早期集石遺構実測図⑥ (S=1/30)

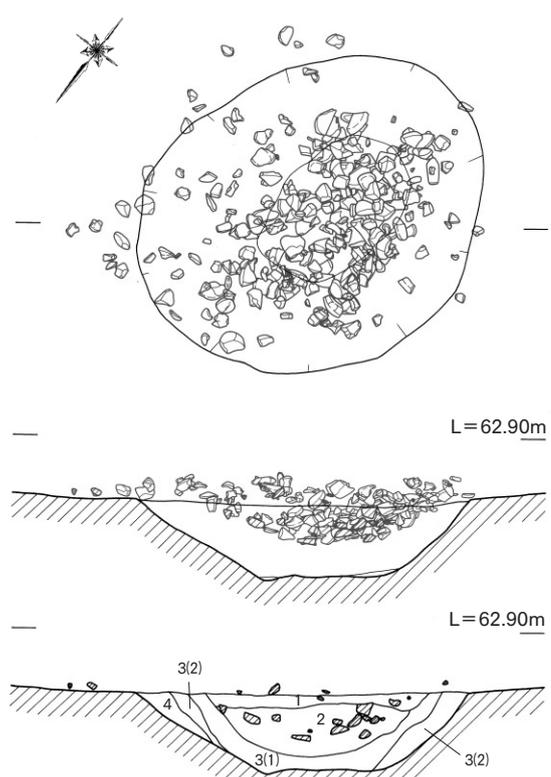


L=63.10m

L=63.10m

SI-29

- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒及び白色パミスを含みます。  
下記の2とほぼ同質だが礫の小粒は2程はみられない。
- 2 10YR3/1(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒、白色パミスを含みます。砕けた礫の小粒を含む。
- 3 10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。基本土層4層似。

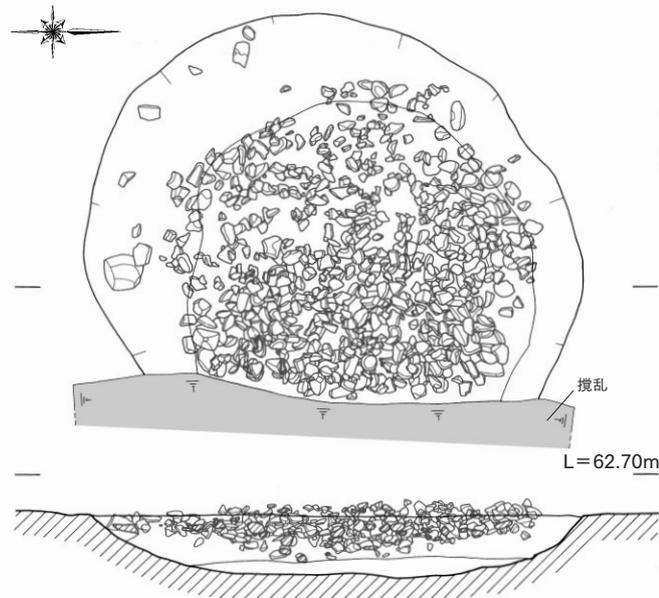


L=62.90m

L=62.90m

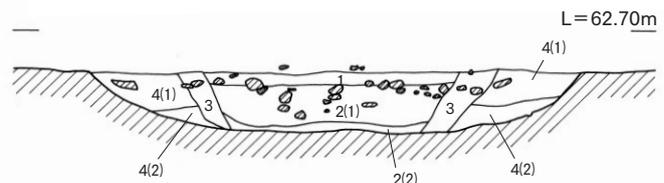
SI-14

- 1 10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒を含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
炭化粒及び砕けた礫の粒を多く含む。
- 3(1) 10YR4/2(暗灰黄色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含み、3(1)とほぼ同質だが炭化粒がやや少なめ。
- 3(2) 10YR4/4(褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 4 10YR4/6(褐色)シルト質ローム  
炭化粒を極わずかに含む。



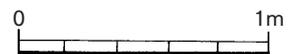
L=62.70m

SI-26

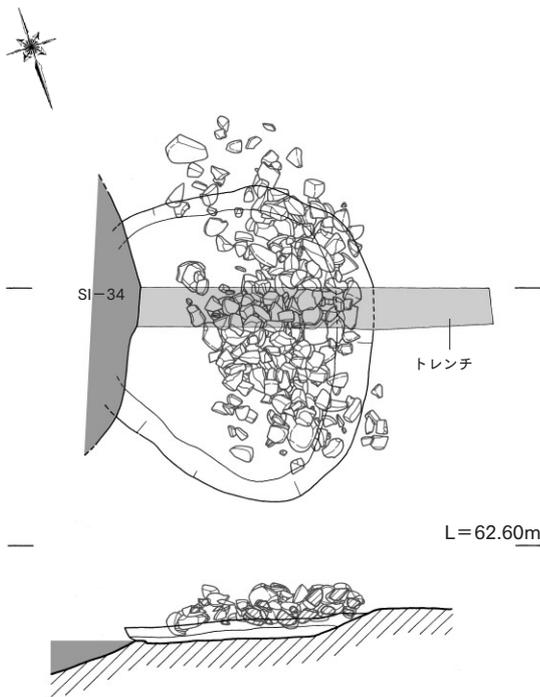


L=62.70m

- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒及び白色パミスを含みます。
- 2(1) 10YR2/1(黒色)シルト質ローム  
炭化粒を多く含む。やや軟で粘。
- 2(2) 10YR2/1(黒色)に小林軽石のブロックを含む。
- 3 10YR4/1(褐灰色)シルト質ローム  
炭化粒を含む。
- 4(1) 10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 4(2) 1(1)に小林軽石の小ブロックを含む。

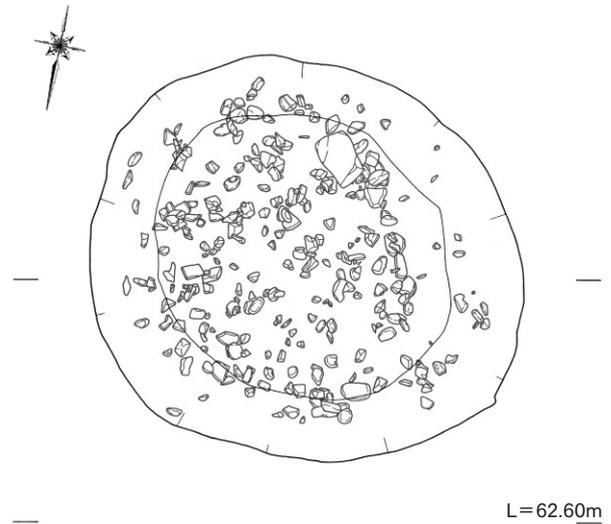


第27図 縄文時代早期集石遺構実測図⑦ (S=1/30)

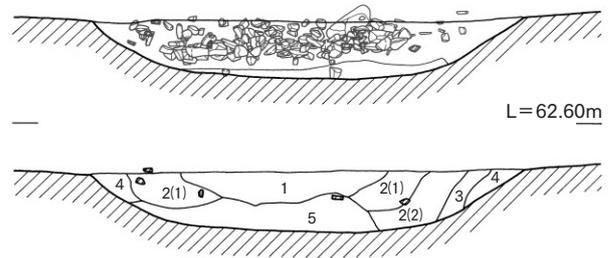


L=62.60m

SI-35



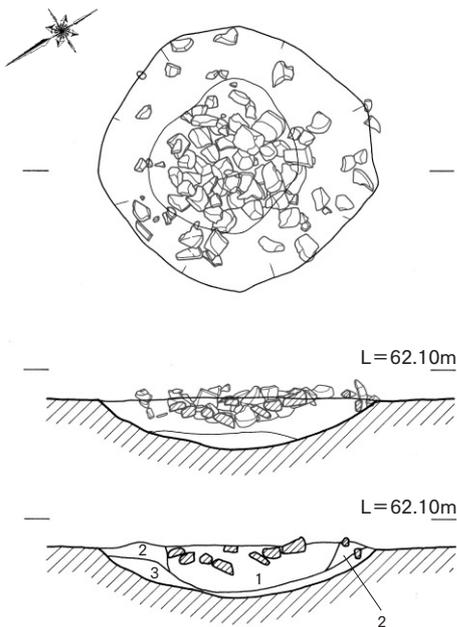
L=62.60m



L=62.60m

SI-33

- 1 2.5Y3/2(黒褐色)シルト質ローム  
やや硬質、白色パミス、炭化粒を全体に含む。
- 2(1) 2.5Y3/3(暗オリーブ褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 2(2) 2.5Y3/3(暗オリーブ褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。小林軽石小ブロックを含む。
- 3 2.5Y4/3(オリーブ褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 4 2.5Y4/6(オリーブ褐色)シルト質ローム  
基本土層4層によく似ている。
- 5 2.5Y3/1(黒褐色)シルト質ローム  
硬質、炭化粒を多く含む。白色パミス及び小林軽石小ブロックを含む。

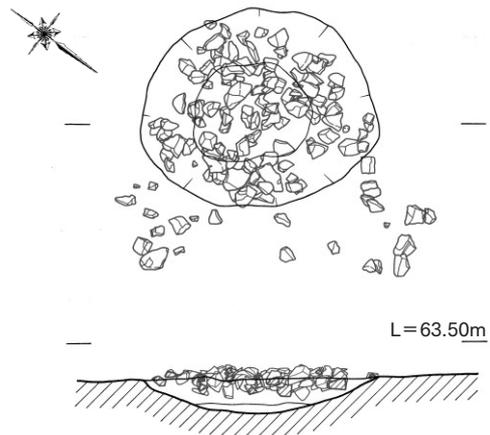


L=62.10m

L=62.10m

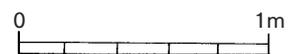
SI-8

- 1 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
炭化粒を多く含むためやや粘、又、砕けた礫の粒も全体に含んでいる。
- 2 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
わずかに炭化粒を含む。基本土層4層酷似。
- 3 10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒を含む。

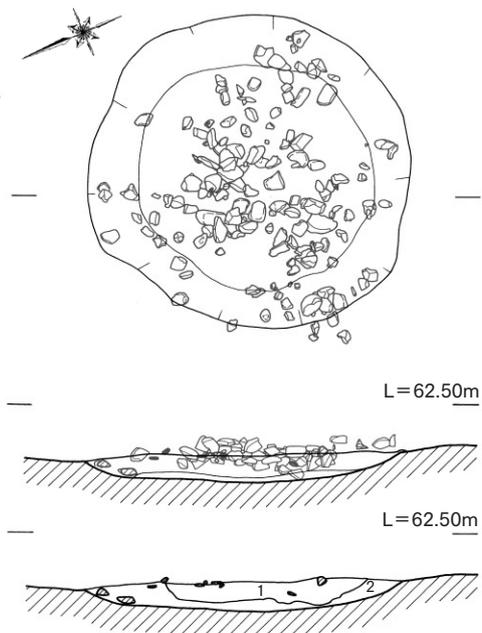


L=63.50m

SI-3

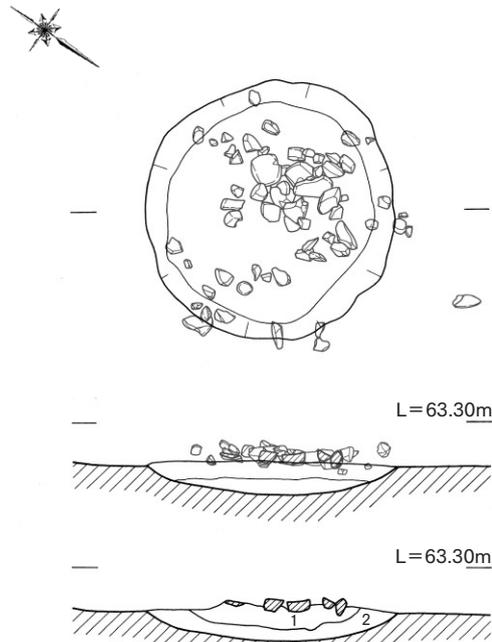


第28図 縄文時代早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30)



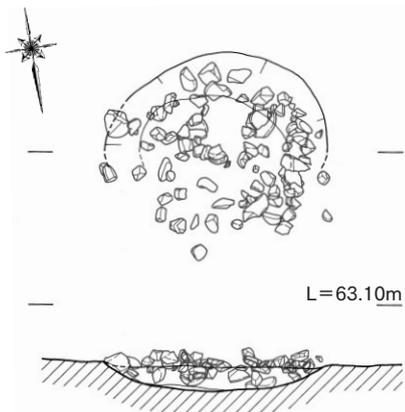
SI-10

- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒を多く含む。シルト質ロームの粒(10YR6/8(明黄褐色))を少量含む。
- 2 10YR3/4(暗褐色)シルト質ローム  
炭化粒を少量含む。基本土層4層似。

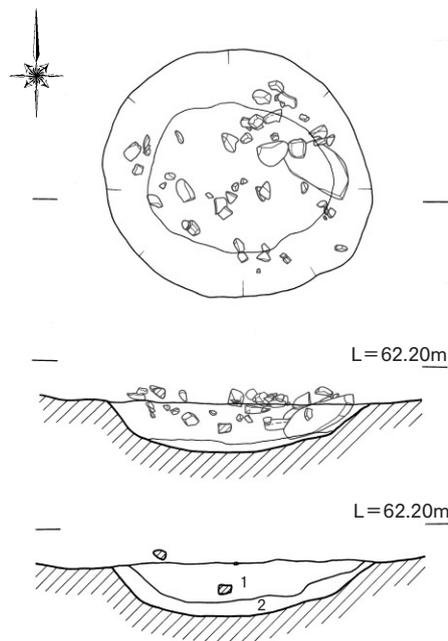


SI-7

- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
しまりあり。白色パミスを多く含む。  
φ1mm以下の細粒(10YR6/8(明黄褐色))を少量含む。  
φ1mm程度の炭化粒を少量含む。
- 2 10YR4/4(褐色)シルト質ローム  
しまりあり。白色パミスを少量含む。  
φ1mm程度の細粒(10YR6/8(明黄褐色))を少量含む。  
φ1mm以下の炭化粒を極少量含む。基本土層4層似。

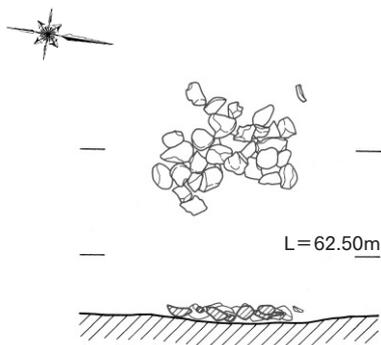


SI-24

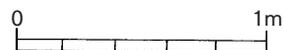


SI-20

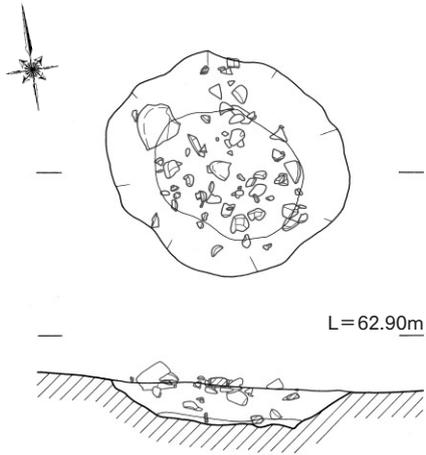
- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
白色パミスを多く含む。炭化粒を少量含む。
- 2 10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム  
白色パミスを少量含む。



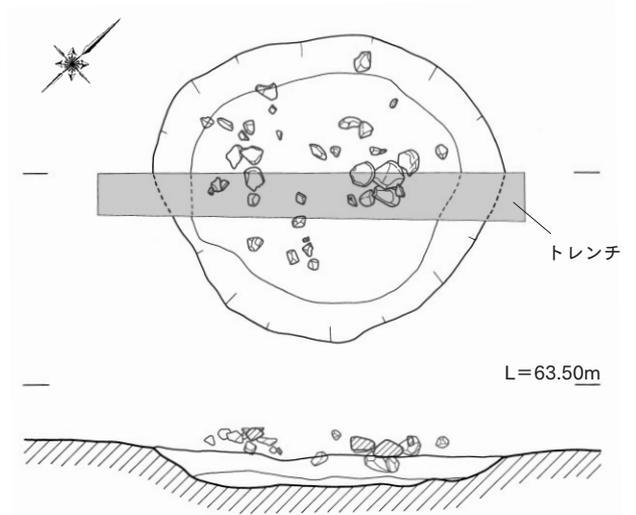
SI-32



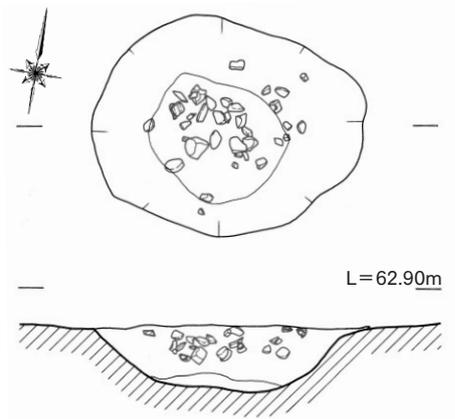
第29図 縄文時代早期集石遺構実測図⑨ (S=1/30)



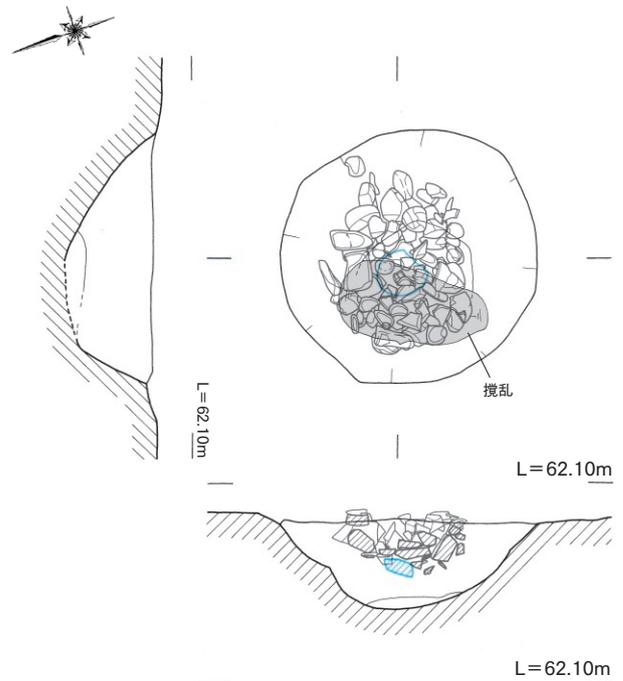
SI-15



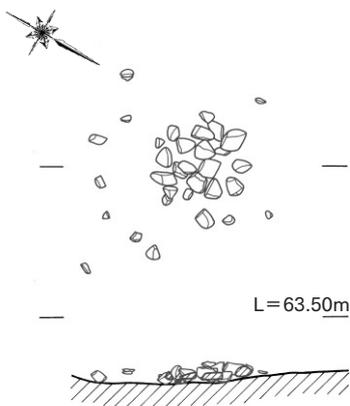
SI-2



SI-38

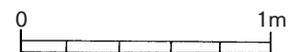


SI-11



SI-4

- 1 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
炭化粒をわずかに含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム  
炭化粒を多く含む。そのためやや粘性あり。
- 3 10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム  
白色パミス、炭化粒を多く含む。細粒(10YR6/8(明黄褐色))を少量含む。
- 4 10YR4/4(褐色)シルト質ローム  
白色パミスを少量含む。細粒(10YR6/8(明黄褐色))を少量含む。  
基本土層6層似。



第30図 縄文時代早期集石遺構実測図⑩ (S=1/30)

第7表 縄文時代早期集石遺構観察表

遺構 番号	<sup>14</sup> C年代 (年BP)	使用礫				掘り込み				底石		炭化物 の有無	備 考	
		礫分布範囲 (m)	総礫数 (個)	総重量 (kg)	一個あたり の重量 (kg)	有無	断面 形状	長軸×短軸 (m)	深さ (m)	有無	重量 (kg)			
1	SI-6	8820±40	1×0.8	77	5.2	0.07	有	皿状	0.93×0.9	0.15	×		有	
2	SI-17	8750±50	1.1×0.9	556	106.8	0.19	有	皿状	1.0×0.9+α	0.3	×		有	
3	SI-25	8750±50	1.4×1	452	95.6	0.21	有	皿状	1.34×1.23	0.25	×		有	
4	SI-21	8720±40	1.7×1.7	684	202.8	0.3	有	皿状	1.85×1.62	0.25	×		有	
5	SI-13	8710±50	1.3×1	540	95.3	0.18	有	ボウル状	1.37×1.2	0.45	×		有	
6	SI-12	8660±50	1.2×1	701	135.3	0.19	有	V字状	1.22×1.1	0.54	○	11.6	有	
7	SI-16	8660±40	1.4×1.3	755	129.5	0.17	有	皿状	1.46×1.28	0.25	×		有	
8	SI-5	8620±40	1.1×0.8	173	26	0.15	有	皿状	0.96×0.9	0.15	×		有	
9	SI-23	8610±50	1.2×0.9	233	24.1	0.1	有	皿状	1.16×1.01	0.2	×		有	
10	SI-28	8600±50	2.4×2.1	3186	241.6	0.08	有	皿状	2×1.6	0.27	○	30.6	有	
11	SI-18	8560±50	2.4×2.3	1615	103.1	0.06	有	皿状	2.6×2.2	0.35	×		有	
12	SI-31	8530±60	1.9×1.5	574	119.1	0.21	有	皿状	1.3×1.2	0.2	×		有	
13	SI-36	8520±40	1×0.9	101	6.4	0.06	有	皿状	1.05×1	0.18	×		有	SI-37と切り合っている
14	SI-30	8500±50	2.9×2.2	2211	391.5	0.18	有	皿状	2.08×2	0.2	○	20.4	有	
15	SI-34	8460±50	1.8×1.6	681	118.7	0.17	有	皿状	1.95×1.5	0.25	○		有	SI-35と切り合っている
16	SI-27	8450±50	1.6×1	684	49.9	0.07	有	皿状	1.4×1.1	0.25	×		有	SC-8と切り合っている
17	SI-37	8240±50	1.2×1	431	22.3	0.05	有	皿状	1.5×1.4	0.3	○	13.2	有	SI-36と切り合っている
18	SI-1	7820±50	0.9×0.7	95	21	0.22	有	(浅)皿状	0.75×0.7	0.8	×		有	周辺で見殻条痕文土器が多数出土
19	SI-22		1.5×1.2	399	90.5	0.23	有	皿状	1.4×1.3	0.24	○	14.5	有	
20	SI-29		2.2×1.4	1311	161.8	0.12	有	皿状	1.6×1.5	0.28	×		無	
21	SI-26		1.8×1.3	773	58	0.08	有	皿状	2×1.75	0.25	×		無	
22	SI-35		1.5×0.8	282	49.7	0.18	有	皿状	1.3×1.1	0.1	×		無	SI-34と切り合っている
23	SI-14		1.7×1.3	316	30.2	0.1	有	皿状	1.47×1.18	0.3	×		無	
24	SI-8		1.1×0.9	96	25.3	0.26	有	皿状	1.12×1.03	0.2	×		無	
25	SI-33		1.6×1.3	309	24.2	0.08	有	皿状	1.85×1.65	0.23	×		無	
26	SI-3		1.3×1.1	150	18.8	0.13	有	皿状	0.95×0.78	0.18	×		無	
27	SI-10		1.3×1.2	158	13.4	0.08	有	皿状	1.35×1.24	0.1	×		無	
28	SI-24		0.9×0.7	89	11.8	0.13	有	皿状	0.9×0.85	0.1	×		有	
29	SI-7		1.1×0.9	67	11.2	0.17	有	皿状	1.05×1	0.12	×		有	
30	SI-20		0.9×0.8	42	10	0.24	有	皿状	1.1×1	0.2	×		無	
31	SI-32		0.7×0.6	32	9	0.28	無	—	—	—	×		無	
32	SI-15		0.8×0.6	78	8.5	0.11	有	皿状	0.96×0.82	0.18	×		無	
33	SI-2		1×0.9	36	5.1	0.14	有	(浅)皿状	1.4×1.23	0.13	×		無	
34	SI-38		0.7×0.5	36	3	0.08	有	皿状	1.1×0.9	0.25	×		無	
35	SI-4		1×0.9	—	—	—	無	—	—	—	×		無	散礫の集中箇所の可能性もあり
36	SI-11		0.8×0.6	—	—	—	有	皿状	1.1×1.03	0.38	○		無	使用礫の中に尾鈴山酸性岩有り

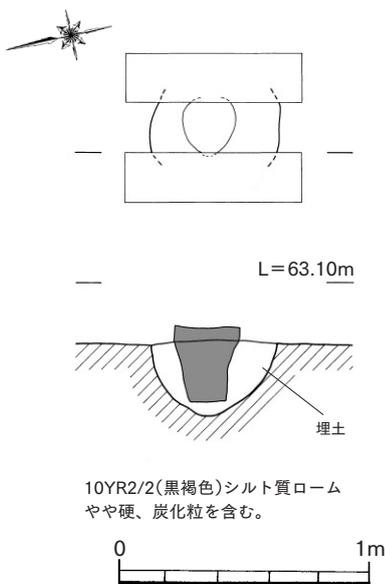
### 3. 土器埋設遺構

早期の遺物や焼礫が多量に出土する4層において、一枚一枚文化層を剥ぐ意識で掘り下げ作業を行っていたところ、貝殻円筒形土器の口縁が地層面に平行な状態で確認された。その出土状況が当地上で出土する他の早期遺物とかなり異なっていたため、円筒形土器の周囲1㎡についてより慎重に掘り下げ作業を行っていったところ、この貝殻円筒形土器は、その土器よりもひと回り大きい穴のなかに故意に埋められたような状態であったことが確認された。

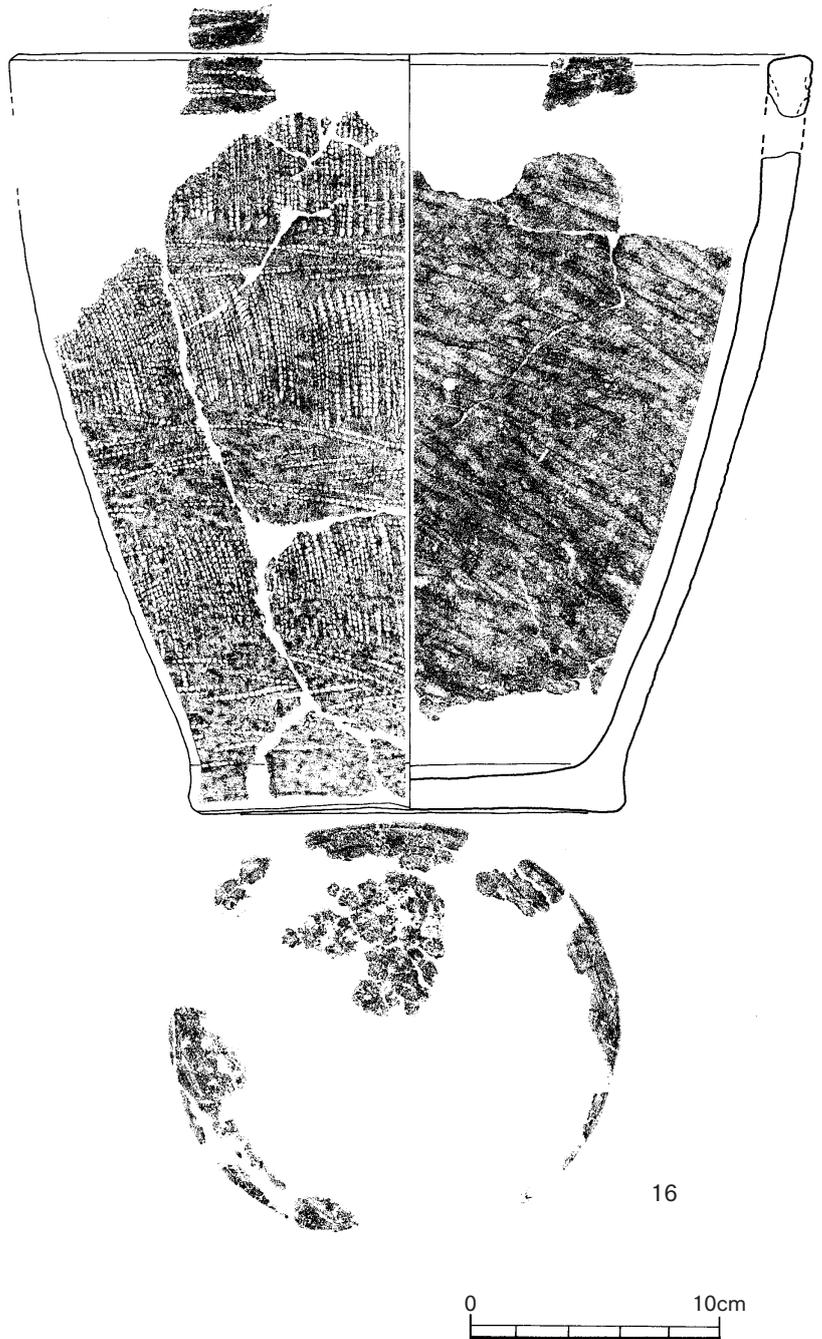
この土器埋設遺構出土土器については、その文様や形状からみて下剥峯式土器であり、ほぼ完全な状態で出土しているが、口縁部付近については、この遺構を認識する以前の掘り下げ作業で一部破損させてしまっている可能性も否めない。また、底部については、地面になかば溶けるような状態であったため、取り上げ作業の段階で上手く収集できない部分もあった。

#### \* 土器埋設遺構についての仮説

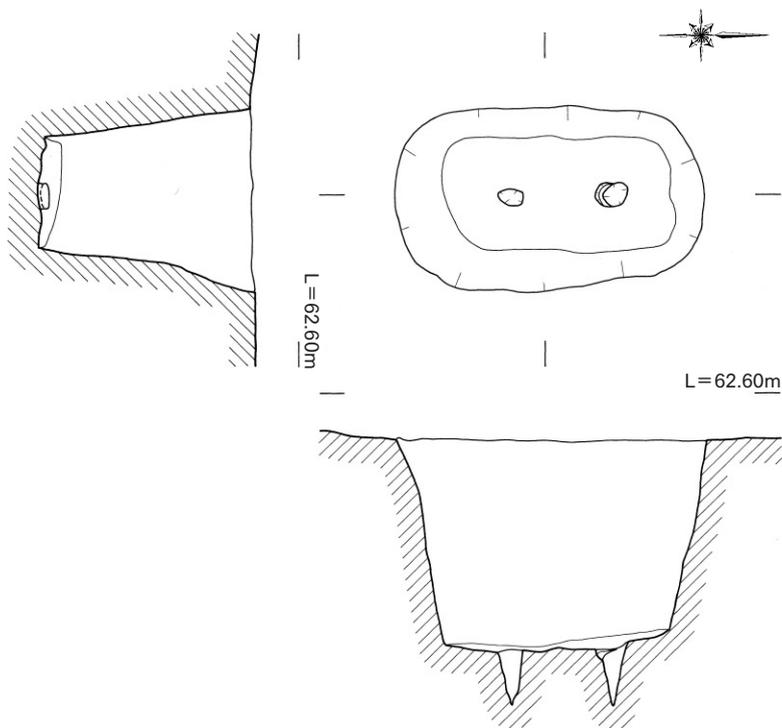
近隣の下猪ノ原遺跡第2地区では、土器埋設遺構を中心にして円形の範囲で土器片などが多数出土し、また、集石遺構も確認されている。周辺では装身具や異形石器なども出土しているため、下猪ノ原遺跡第2地区の土器埋設遺構は祭祀的な行事の際に意図的に設置されたものではないかと推測されている。当遺跡においては、調査区の都合上、下猪ノ原遺跡第2地区のような状況までは確認できないものの、諸要素からみて同様の目的をもっていた可能性が高いと思われる。



第31図 土器埋設遺構出土状況実測図 (S=1/30)



第32図 土器埋設遺構出土土器実測図 (S=1/3)



SC-3  $^{14}\text{C}$ 年代：8810±50年BP

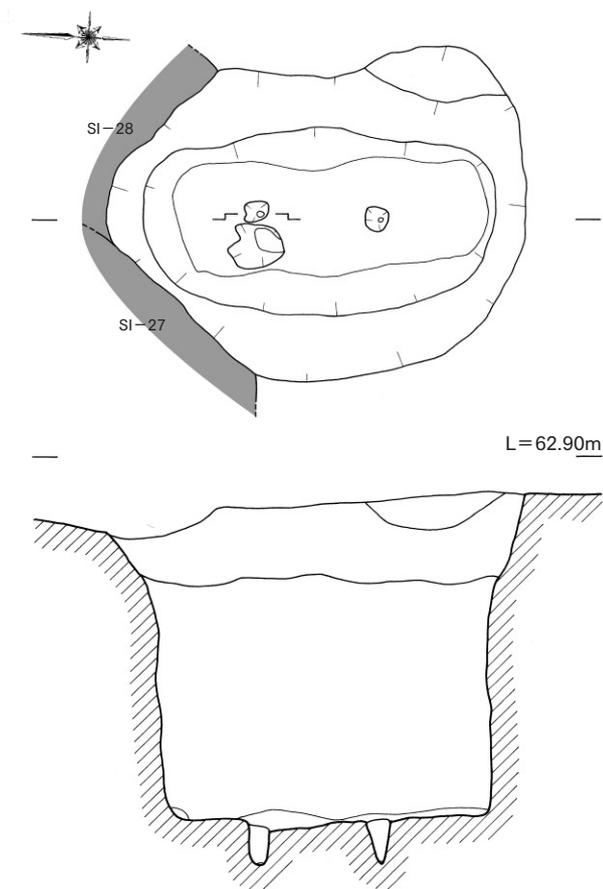
#### 4. 陥し穴状遺構

##### SC-3

4層においてぼんやりとしたプランは確認されていたが、より確実にプランを把握するため、霧島・小林軽石層上面において検出作業を行った。

平面プランは長軸約 1.25 m・短軸約 0.75 m の隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約 0.85 m である。おそらく 4 層から掘り込まれているため、実際はさらに数 10cm 深い陥し穴状遺構で、平面プランは円形か楕円形を呈していたことが推測される。断面形状については、長軸・短軸いずれも底面から垂直に近い形状で立ち上がっており、テラス等は見受けられない。また、底部には、短軸中央ラインに直線的に 2 個の逆茂木（円形）が配置されており、それぞれ直径は約 0.1 m で底面からの深さは約 0.25 m である。

なお、埋土は霧島・小林軽石の小ブロックを含む硬質の黒褐色シルト質ロームで、そこから採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8810 ± 50 年 BP》という結果が得られている。



SC-8

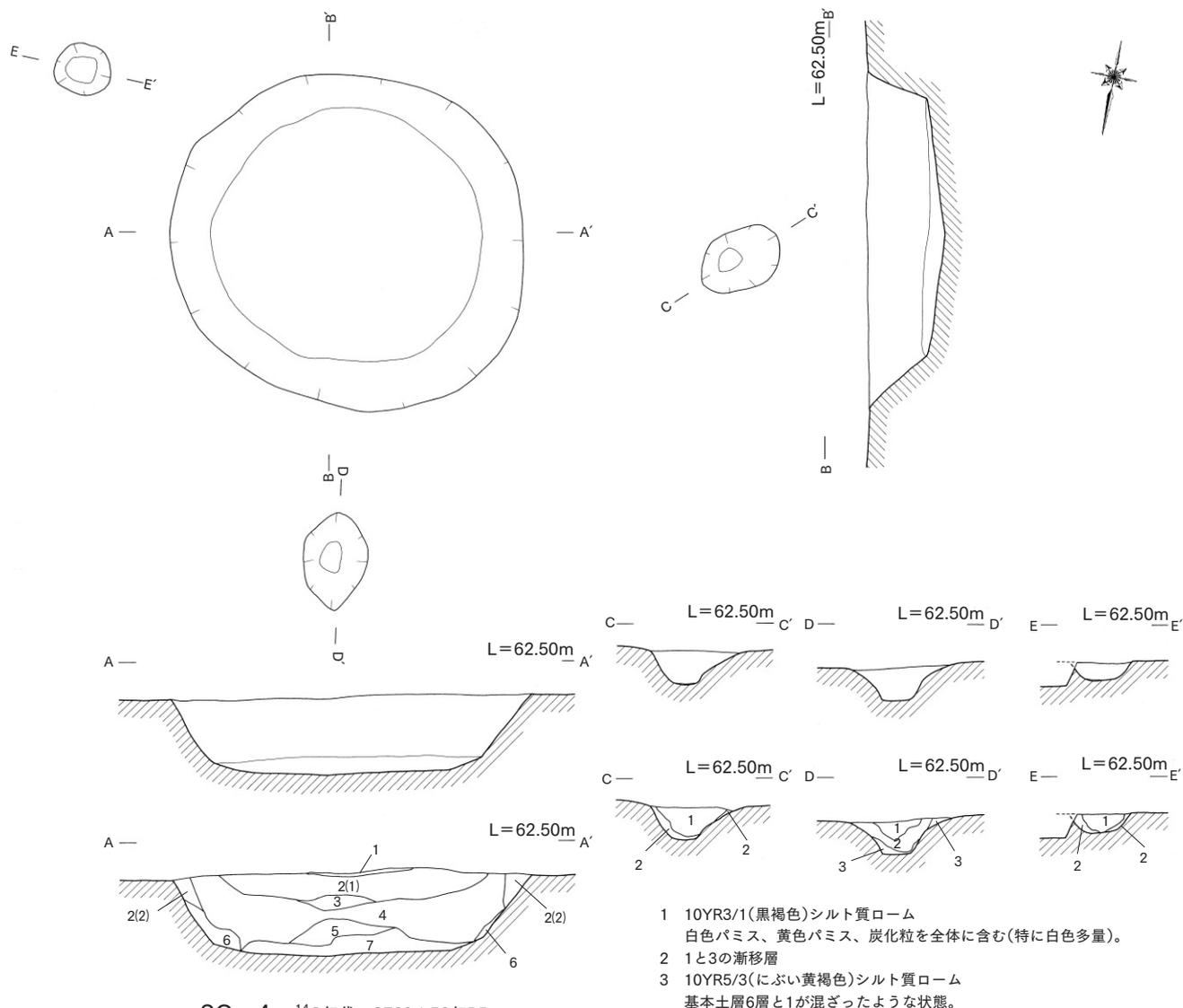
##### SC-8

4 層の掘り下げ作業及び集石遺構の検出作業を行っていたところ、他よりも焼礫の出土が少なく、またぼんやりと不整形な茶黒色のシミが広がる範囲が確認された。当初は集石遺構の可能性も視野に入れて調査を開始したが、部分的なトレンチ確認等で陥し穴状遺構であることが判明した。平面プランは長軸約 1.7 m・短軸約 1.25 m の長楕円形を呈し、検出面からの深さは約 1.2 m である。断面形状については、長軸・短軸いずれもほぼ垂直にちかい角度で底面から立ちあがっているが、霧島・小林軽石層のあたりで傾斜がやや緩くなっている（層の固さが要因か）。また、底部には、短軸中央ラインに直線的に 2 個の逆茂木（円形）が配置されており、それぞれ直径は約 0.1 m で底面からの深さは約 0.2 m である。

埋土については、掘り込み部が霧島・小林軽石の小ブロックを含む硬質の黒褐色シルト質ロームで、逆茂木が白色パミスを含むやや硬質なシルト質ロームであった。

尚、当遺構検出時、SI-27・28 と切り合う状態であったが、土層断面等で検討した結果、両集石遺構よりも古い時期に構築された陥し穴状遺構であることが確認されている。

第33 図 縄文時代早期陥し穴状遺構実測図 (S=1/30)



- 1 2.5Y3/3(暗オリーブ褐色)シルト質ローム 炭化粒を極わずかに含む。白色パミスを全体に含む。
- 2(1) 2.5Y4/6(オリーブ褐色)シルト質ローム 炭化粒をわずかに含む。
- 2(2) 2.5Y4/6(オリーブ褐色)シルト質ローム 炭化粒を極わずかに含む。
- 3 2.5Y4/1(黄灰色)シルト質ローム やや軟。
- 4 2.5Y3/1(黒褐色)シルト質ローム やや硬、炭化粒を全体に含む。
- 5 2.5Y3/2(黒褐色)シルト質ローム やや軟。
- 6 2.5Y5/2(暗灰黄色)シルト質ローム やや硬。
- 7 10YR4/6(褐色)シルト質ローム やや軟。

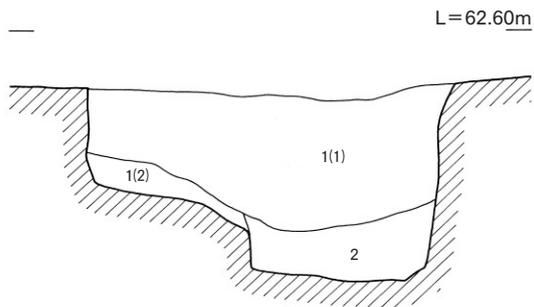
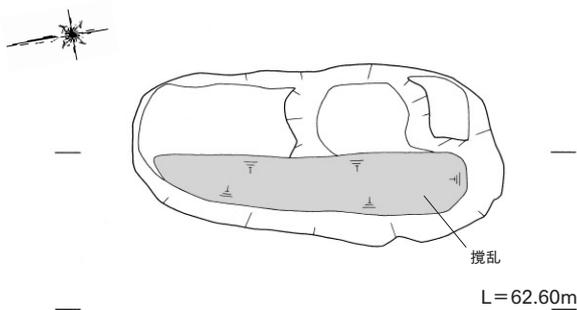
第34図 縄文時代早期土坑実測図① (S=1/40)

## 5. 土坑

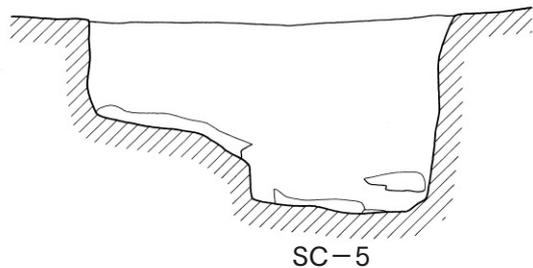
### SC-4

4層上面で検出された。平面プランは直径約2mの円形である。検出面からの深さは約0.45mで、底面は直径約1.5mの円形を呈している。埋土中からは貝殻円筒形土器や押型文土器が出土しており、また、そこから採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8720 $\pm$ 50年BP》という結果が得られている。

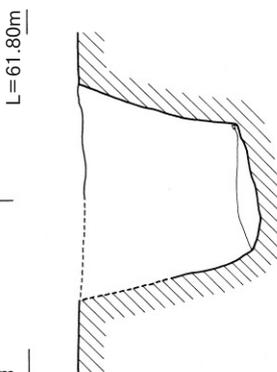
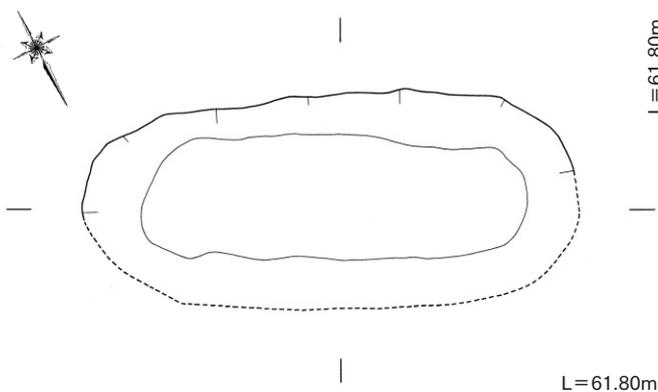
この遺構については、平面プランや床面の状態など形状からみて当台地でほとんど確認することが出来ない縄文時代早期の竪穴住居跡である可能性が考えられる。また、掘り込みの周辺では柱穴を予想させる3ヶ所のピットも検出されている。ただし、今回は、住居跡と確定するまでの十分な資料が確認されていないと判断し、土坑として報告する。



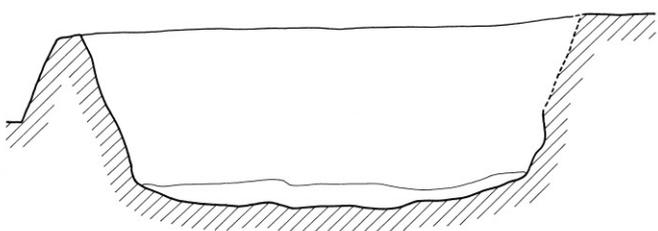
- 1(1) 10YR2/1(黒色)シルト質ローム 極硬。白色、橙色パミスを含む。
- 1(2) 1(1)にA層(基本土層4層灰黄(2.5Y6/2)にシルト質ロームの小ブロック(5mm~3cm)が縞状にまざったもの=以後A層)を20%程含む。
- 2 10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム 極硬。白色パミスとA層を5%程含む。



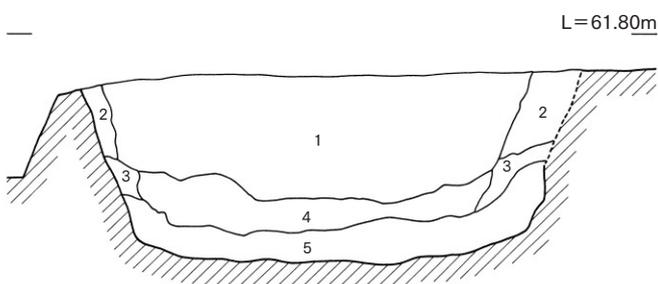
SC-5



SC-5 : 5層〔霧島・小林軽石風化層〕上面で検出された。平面プランは楕円形で、検出面から約0.5 m掘り込んだ後に底面の半分ほどを更に約0.2 m掘り下げている。用途については不明である。



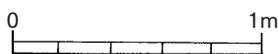
SC-6 : 4層中位で検出された。平面プランは長軸約2 m・短軸約0.9mの長楕円形で、断面についてはやや急な角度で底部から立ち上がっている。その形状からみて陥し穴状遺構の可能性も考えられるが、逆茂木も確認されておらず、その詳細については不明である。



SC-7 : 5層上面〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。平面プランは長軸約1 m・短軸約0.65mの楕円形で、断面形状は浅皿状である。埋土はかなり硬質な黒褐色(10YR2/2)シルト質ロームで、白色・黄色パミスを多く含んでいる。また、遺構の用途については不明である。

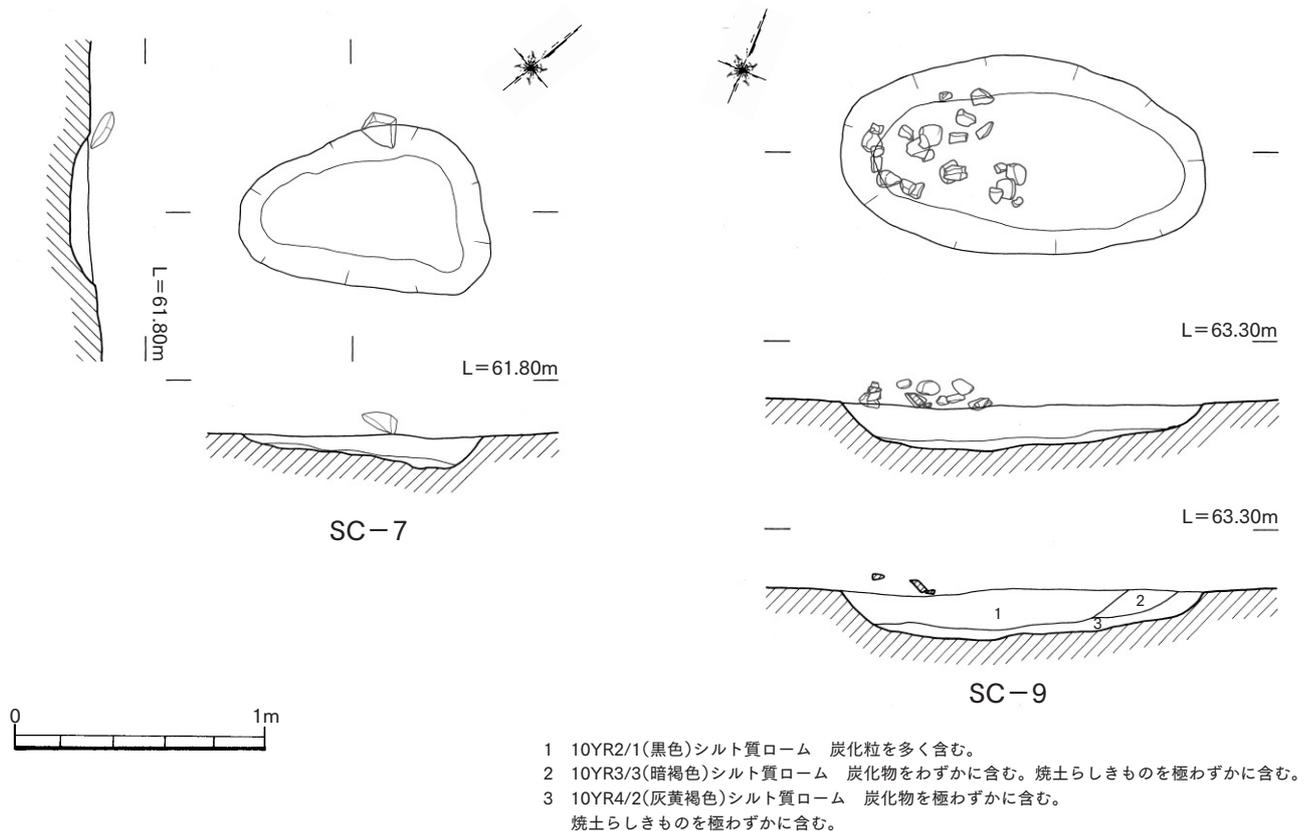
SC-6

- 1 10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム 硬。白色、橙色パミスを全体に含む。
- 2 10YR4/1(褐灰色)シルト質ローム 硬。白色、橙色パミスを全体に含む。
- 3 10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム 1によく似ているが白色パミスの量が少ない。
- 4 10YR2/1(黒色)シルト質ローム 硬。1とよく似ているが白色パミスの量が少ない。
- 5 4に基本土層9層のブロック(2cm~10cm)を10%程含む。



SC-9 : 5層上面〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。平面プランは長軸約1.45m・短軸約0.8mの楕円形で、断面形状は浅皿状である。底面がやや硬化しており、埋土に炭化物が含まれていることから炉穴の可能性も考えられるが、焼土等は確認されておらず、断定は不可能である。

第35図 縄文時代早期土坑実測図② (S=1/30)



第36図 縄文時代早期土坑実測図③ (S=1/30)

## 6. 遺構内遺物

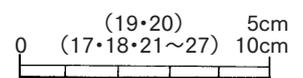
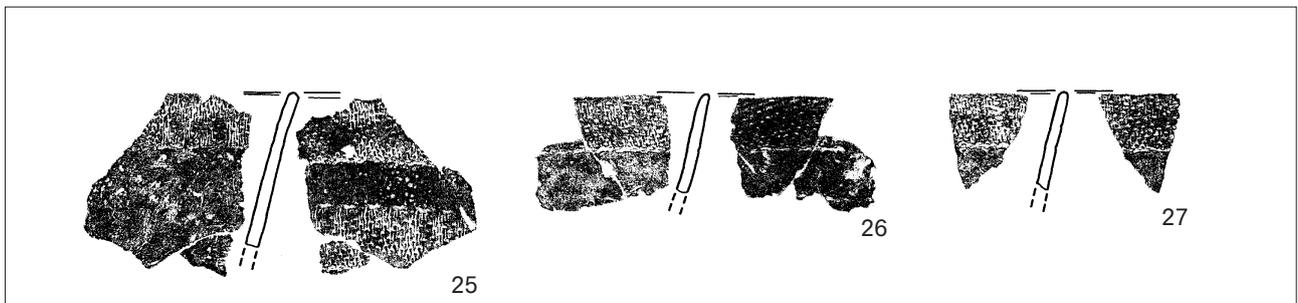
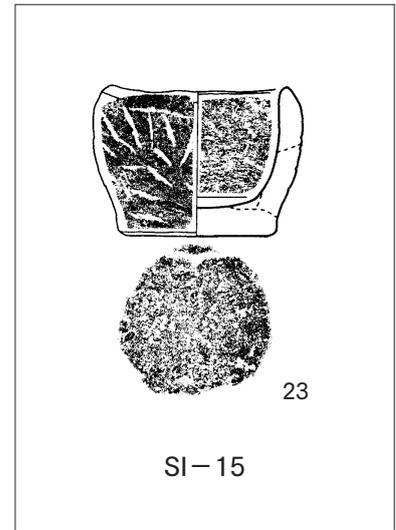
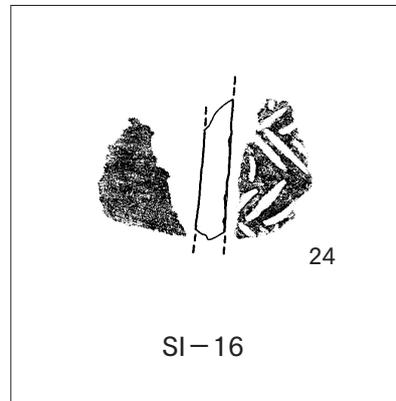
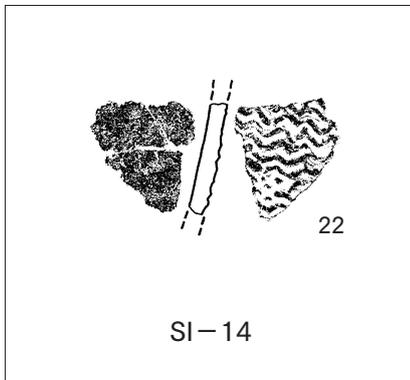
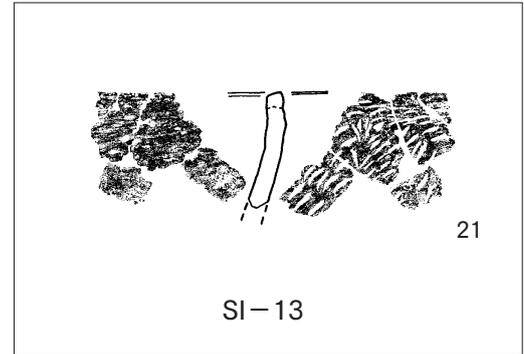
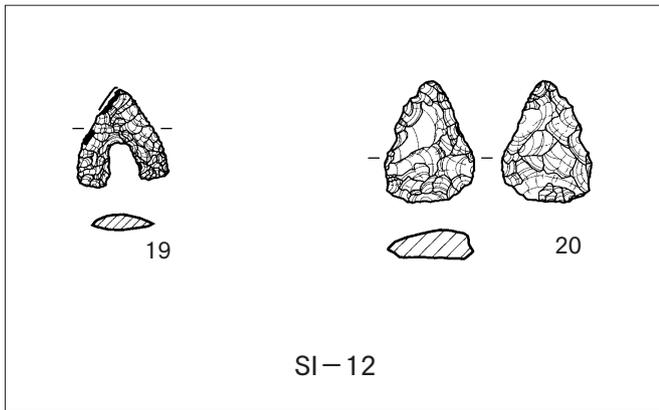
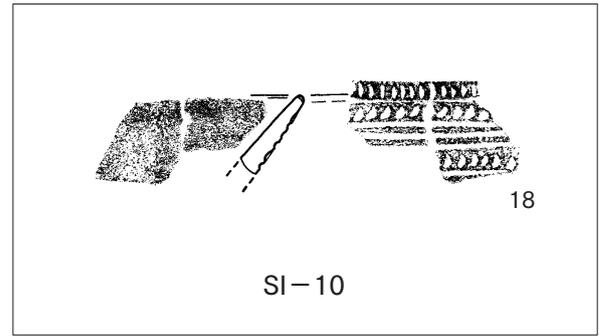
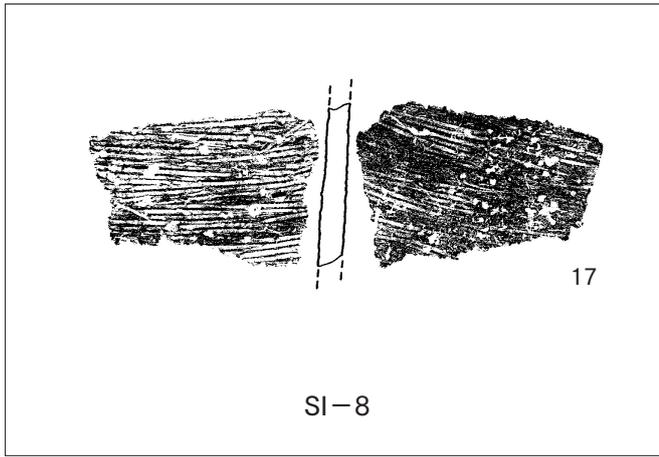
### ○集石遺構

集石遺構の埋土中からは、貝殻円筒形土器や押型文土器、そして打製石鏃などが出土している。主な出土遺構及び遺物は次のとおりである。尚、遺構と遺物の直接的な共伴関係は確認できないが、参考資料として遺構より採取された炭化物での自然科学分析結果を併記している。

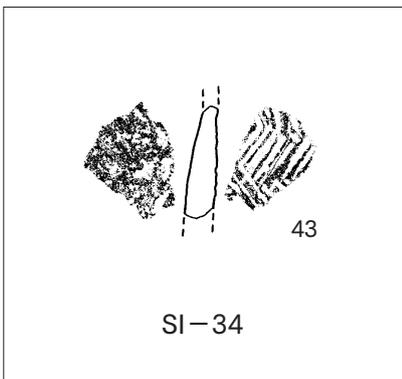
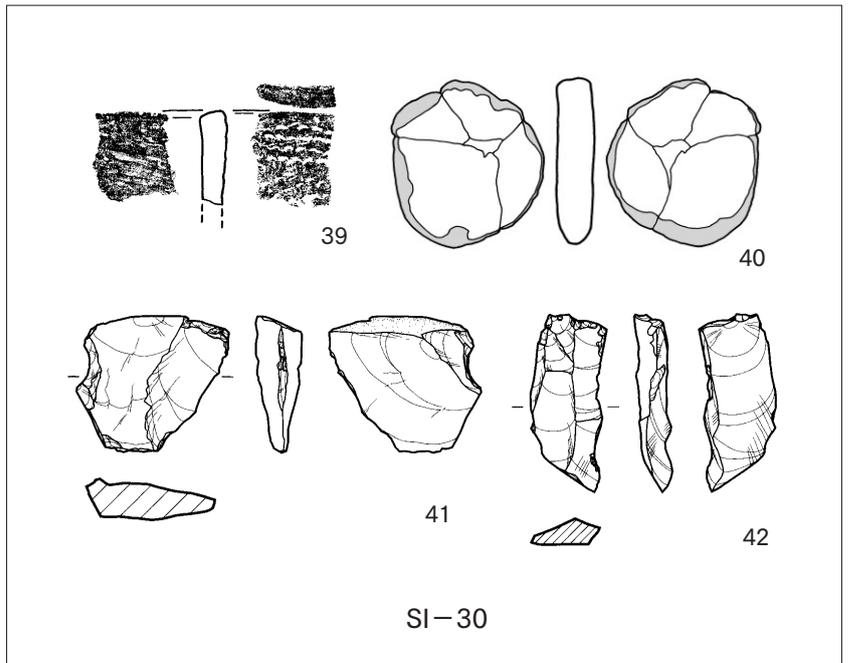
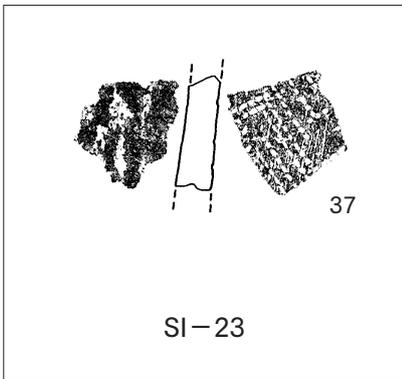
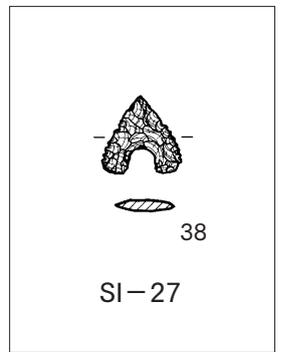
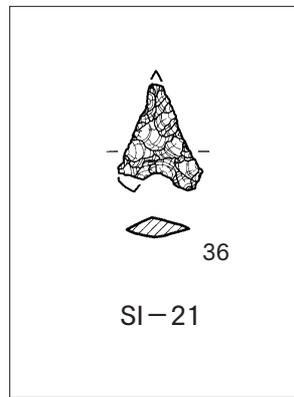
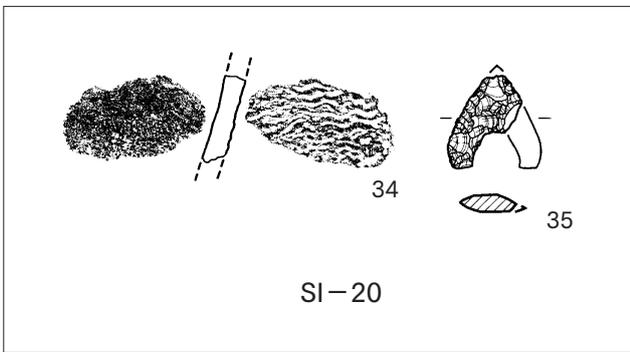
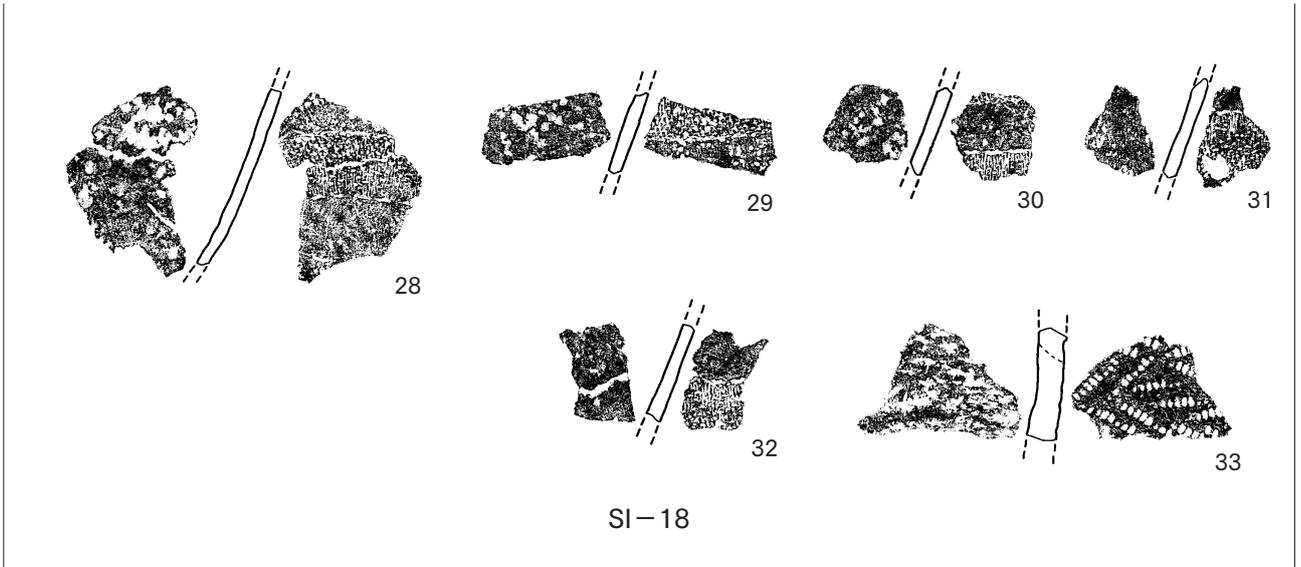
- ・ SI-21(8720±40年BP) 打製石鏃《チャート製》〈36〉
- ・ SI-23(8610±50年BP) 下剥峯式土器〈37〉
- ・ SI-18(8560±50年BP) 短枝回転文土器〈25~32〉、下剥峯式土器〈33〉
- ・ SI-36(8520±40年BP) 下剥峯式土器〈45〉
- ・ SI-30(8500±50年BP) 下剥峯式土器〈39〉、土製円盤〈40〉、剥片(ホルンフェルス製・黒曜石製)〈41・42〉
- ・ SI-34(8460±50年BP) 桑ノ丸式土器〈43〉
- ・ SI-27(8450±50年BP) 打製石鏃(安山岩製)〈38〉
- ・ SI-37(8240±50年BP) 下剥峯式土器〈46〉
- ・ SI-20 山形押型文土器〈34〉、打製石鏃(黒曜石製)〈35〉
- ・ SI-35 楕円押型文土器〈44〉

### ○土坑

SC-4の埋土中からは、前平式土器〈47〉、下剥峯式土器〈48・49・53〉といった貝殻円筒形土器や、山形押型文土器〈50~52・54~60〉、そして打製石鏃(頁岩製)〈61〉が出土している。いずれも埋土の中位からの出土であったため、遺構に直接結びつくものとは考えにくい。ちなみに、SC-4の埋土から採取された炭化物での自然科学分析結果は8720±50年BPである。

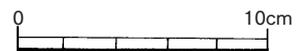
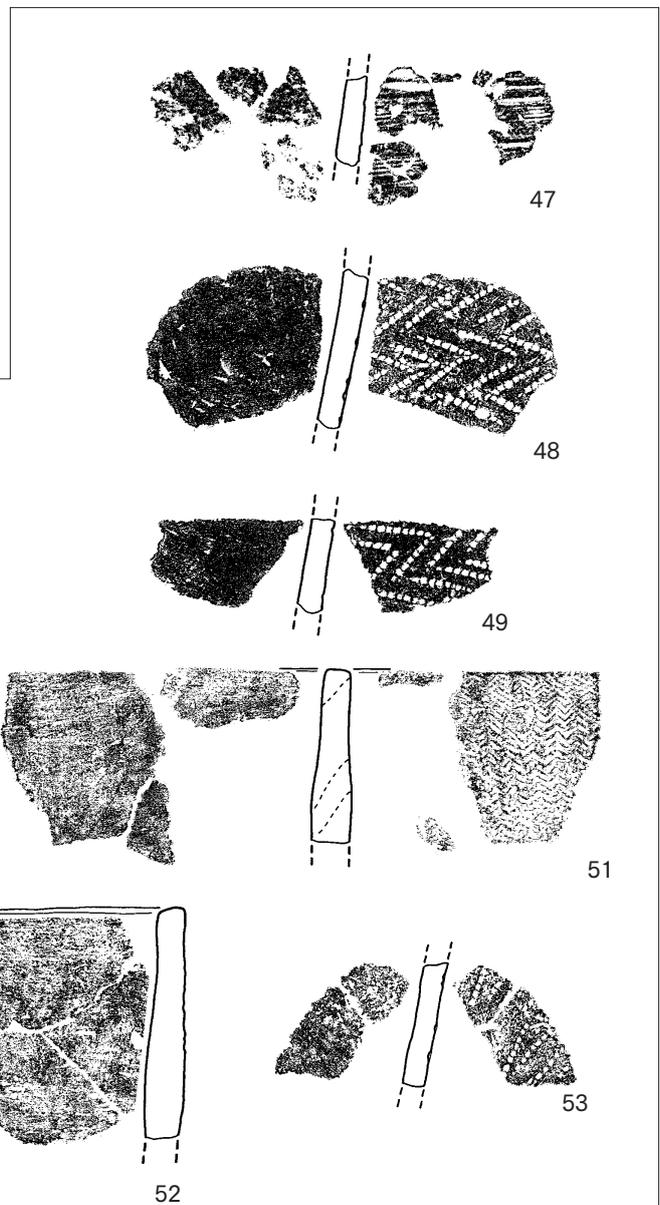
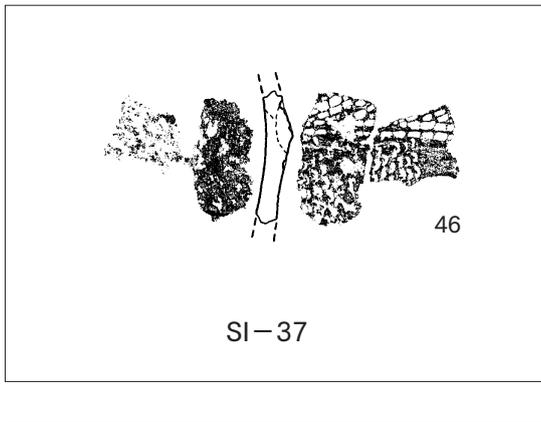
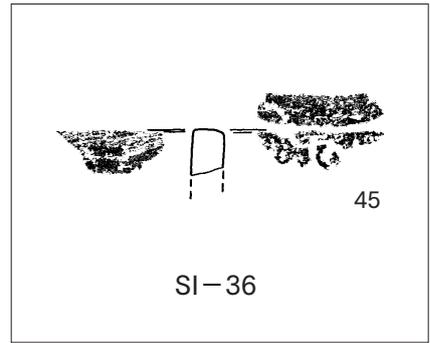
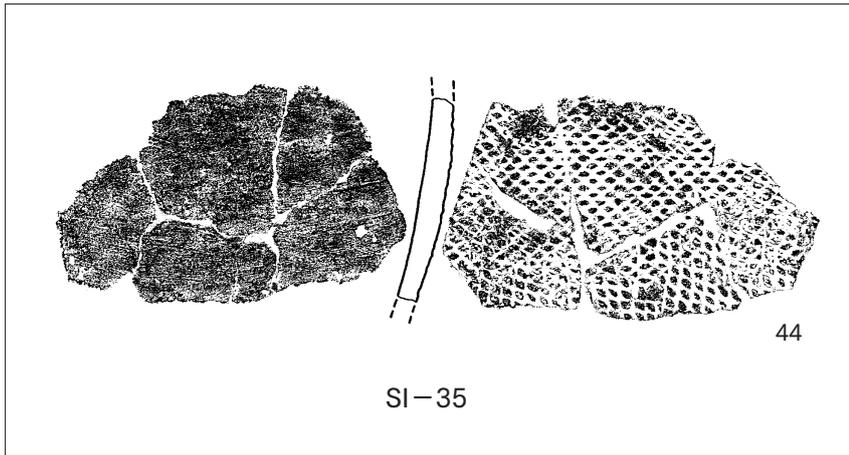


第37図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図① (土器 S=1/3・石器 S=2/3)

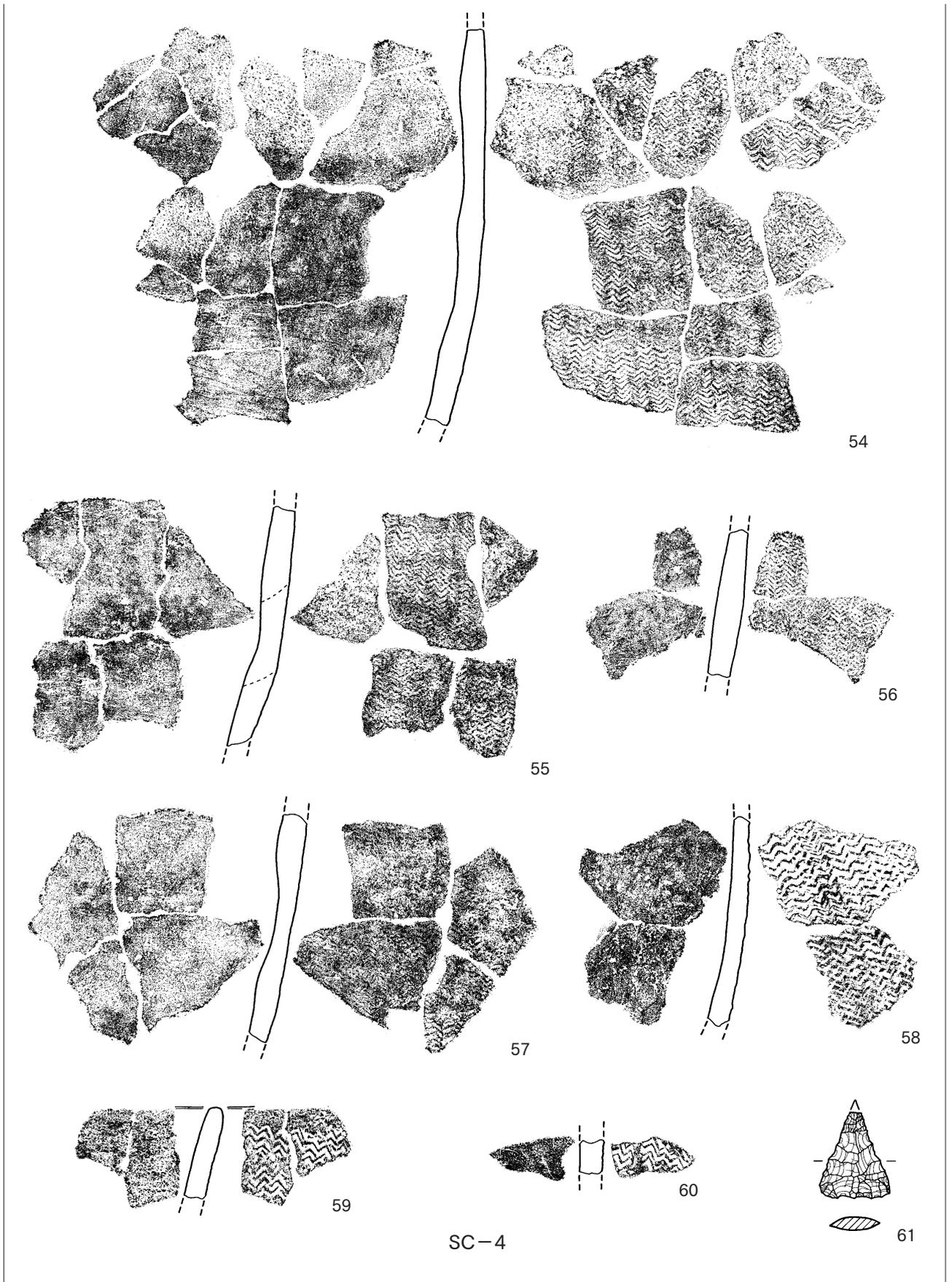


(35・36・38・41・42) 5cm  
0 (28~34・37・39・40・43) 10cm

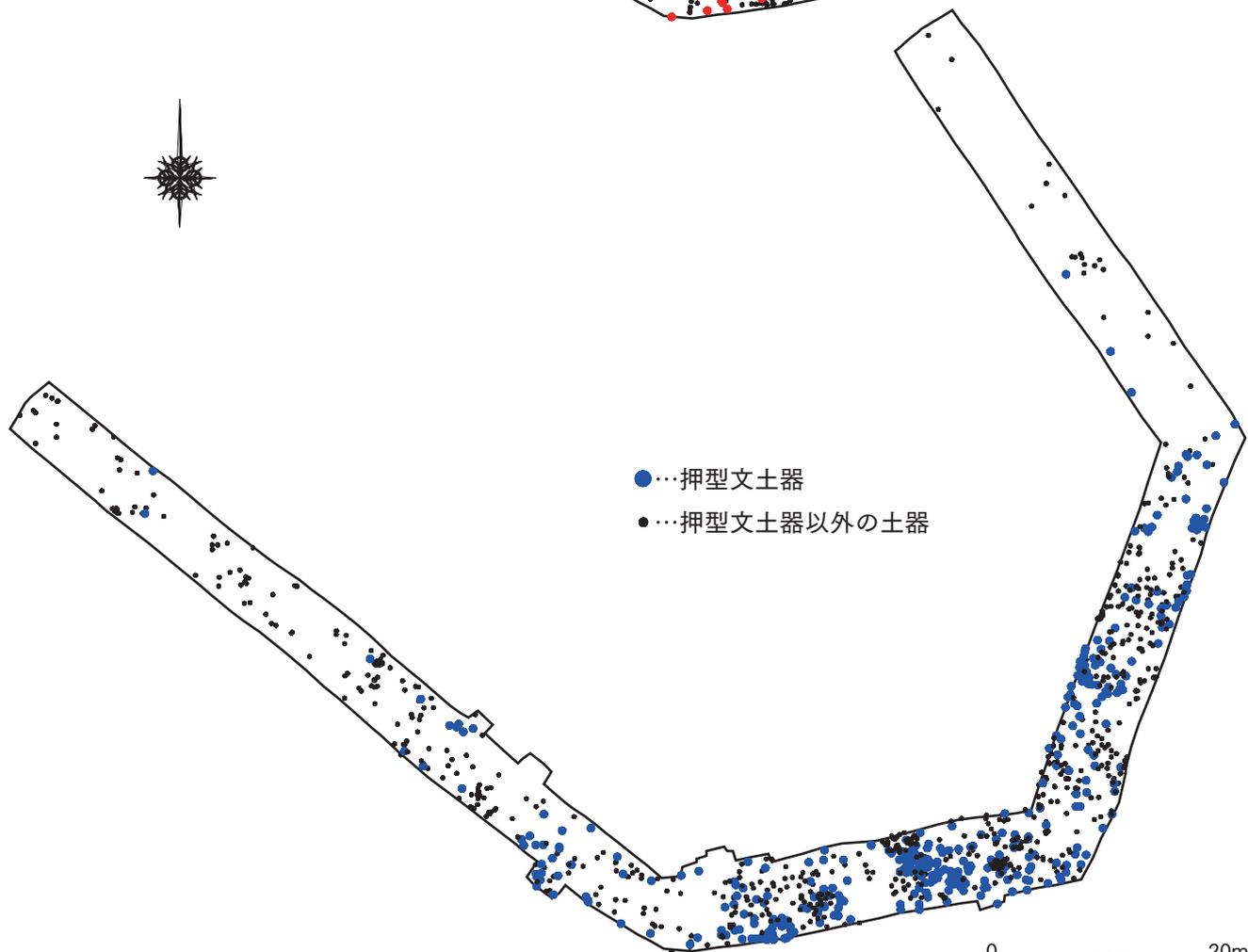
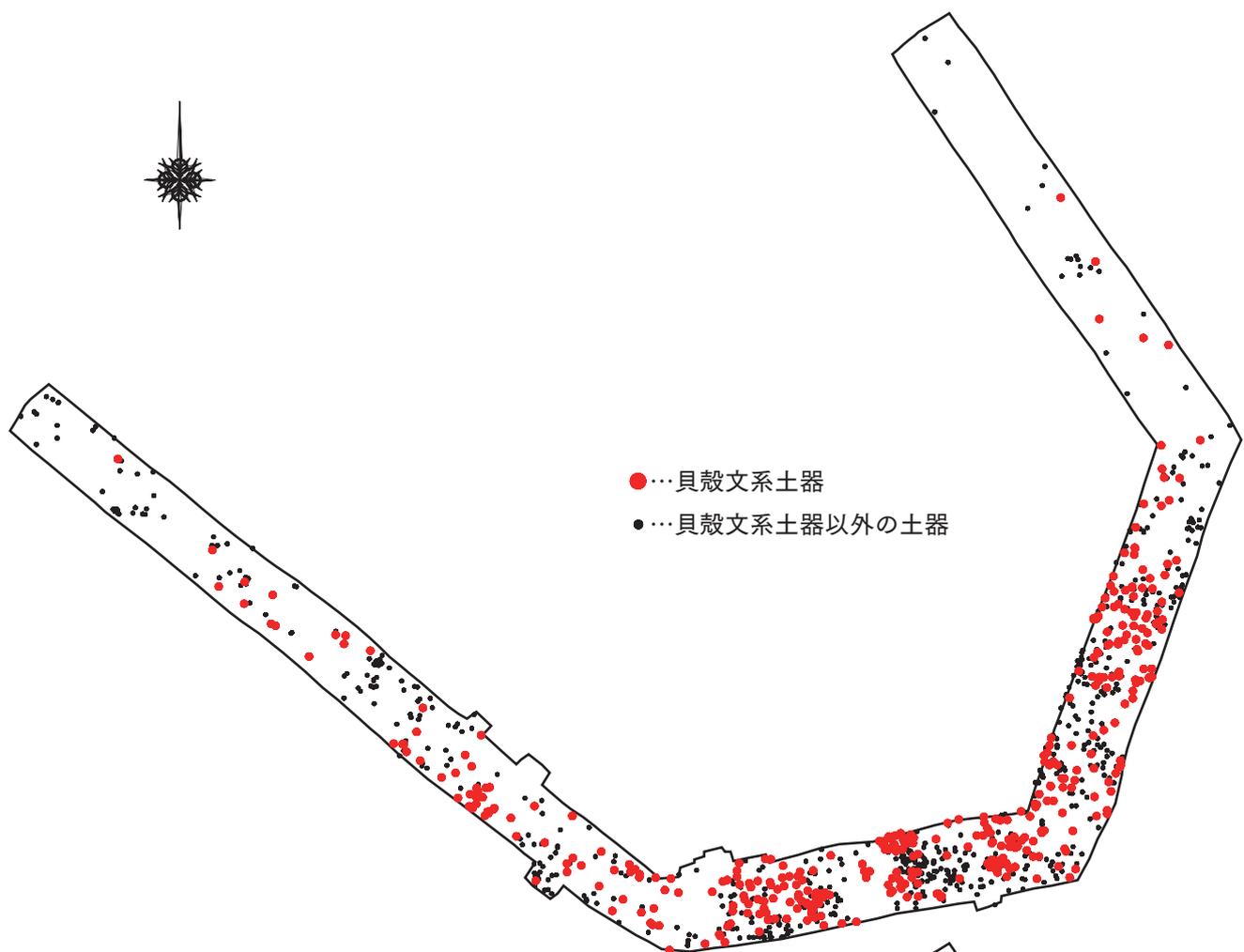
第38図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図② (土器 S=1/3・石器 S=2/3)



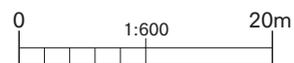
第39図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図③ (S=1/3)

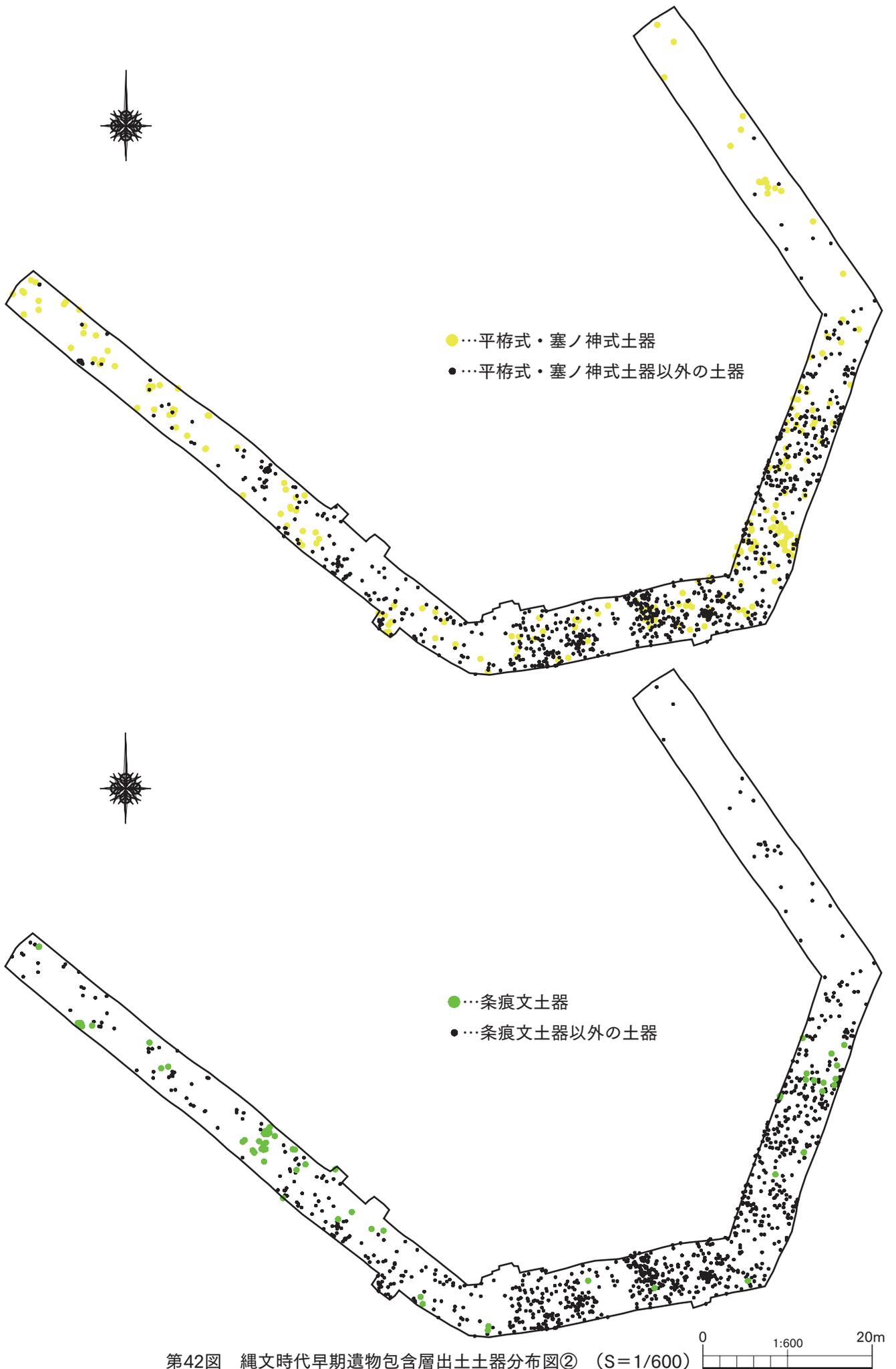


第40図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図④ (土器S=1/3・石器S=2/3)



第41図 縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図① (S=1/600)





第42図 縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図② (S=1/600)

## 第4節 縄文時代早期の遺物

### 1. 貝殻円筒形土器

当遺跡で出土した貝殻円筒形土器は、大別して次の4類である。

1-I類 前平式系土器 1-II類 別府原式土器 1-III類 下剥峯式土器 1-IV類 桑ノ丸式土器

#### 1-I類

62~73は前平式土器である。外面は貝殻条痕文、内面はナデ調整を施し、器形は円筒形を呈する。62・63は口縁部上部(口唇部下)に貝殻押引文を横位に施し、口唇部をナデ調整で仕上げている。62については口唇部に平坦面を設けている。64~67は口縁部上部(口唇部下)に横位の貝殻刺突文を施し、口唇部をナデ調整で仕上げている。64・65については口唇部には刻目を施し、また、いずれにも外面にススの付着がみられる。68~73は胴部片であるが、71については内面に一部条痕が残っている。

#### 1-II類

74~76は別府原式土器である。外面は貝殻条痕文、内面はナデ調整を施している。74はやや外反した口縁部片で、口唇部を丁寧なナデ調整で仕上げている。

#### 1-III類

77~160は下剥峯式土器である。77は口縁部上部(口唇部下)に貝殻刺突文を横位に施し、その下に横位の鋸歯状の貝殻刺突文を施している。口唇部は内側にやや斜行して作られ、また、ミガキも施されている。なお、貫通した穿孔もみられる。78・79は口縁部上部(口唇部下)に貝殻刺突文を横位に施し、その下に貝殻刺突文を施している(78は斜位、79は鋸歯状)。口唇部は直行し、78にはミガキが施されている。80~82は79とほぼ同様の特徴をもつ口縁部片で、胎土等からみて79~82は同一個体であった可能性も考えられる。83は外面に横位の貝殻刺突文を鋸歯状に施しており、口唇部は内側に斜行して作られ、その口縁部にはミガキが施されている。84・85は外面に貝殻刺突文を施しているが、他の資料と比較すると磨耗して文様がやや不明瞭となっている。86はやや内湾する口縁部片で、口縁部上部(口唇部下)に横位の貝殻刺突文を鋸歯状に施し、その下には貝殻刺突文を鋸歯状に施している。また、口唇部は内側に斜行して作られ、ミガキも施されている。87~91は外面に貝殻刺突文を施した口縁部片である。口唇部については89・90が内側に斜行して作られ、87・88・91は直行している。92は口縁部上部(口唇部下)に貝殻刺突文を横位に施し、その下に縦位の貝殻刺突文を鋸歯状に施している。93~95は外面に貝殻刺突文を施した口縁部片であるが、小破片であるため詳細は把握しづらい。96は内湾する口縁部片で、口縁部上部(口唇部下)に貝殻刺突文を横位に施し、その下に縦位の貝殻刺突文を鋸歯状に施している。また、外面には瘤状突起(厚みについては他よりも薄い)を有している。97は内湾する口縁部片(波状口縁部)で、外面に貝殻刺突文を施しており、口唇部から縦向きの瘤状突起(断面三角形)を有している。98は口縁部上部(口唇部下)に横位の貝殻刺突文を施し、その下位に横向きの瘤状突起をめぐらしている。また、その突起の下には縦位の貝殻刺突文を鋸歯状に施している。99は貝殻刺突文を施した胴部片で、わずかではあるが瘤状突起が残存している(ただし、小破片のため詳細は不明)。100~103は、口縁部上部(口唇部下)に横位の貝殻刺突文を施し、その下に縦位の貝殻刺突文を鋸歯状に施しており、口唇部については外側に斜行するように仕上げている。103については小破片のため断定は出来ないが、残る3点については口縁部付近でやや内湾する器形である。

104~149は外面に貝殻刺突文を施した胴部片である。107~109については、口唇部は残存していないものの、口縁部文様帯がある一群で、その文様帯には横位の貝殻押引文が施され、その下位には縦位の貝殻刺突文が鋸歯状に施されている。また、104~149の内面については、105・107・114・115・126・127・129・130・132・133・136・144~146・148にはミガキが施され、他はナデ調整が施されている。126・127については、文様や調整、胎土等から同一個体である可能性が考えられるが、詳細は不明である。139では、外面の文様の窪みから炭化物が採取され、その炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ《8880±40年BP》というデータを得ている。また、148には、貫通した穿孔が1ヶ所設けられている。

150~160は底部片で、151・154・156・158~160は底部につながる胴部外面に貝殻刺突文が施されている。底部の形状については、150・152・153・157・158からみて平底で、150・157の底部外面にはミガキが施されている。

## 1-IV類

161～225は桑ノ丸式土器である。161は外面にハの字状の短沈線文を施し、内面はミガキで仕上げ、器形については底部からほぼ直に立ち上がる円筒形である(口縁部上位においてやや内湾)。口唇部は内側に斜行し、ミガキが施されている。また、口縁部には、貫通した穿孔が1ヶ所設けられている。162は外面に羽状の貝殻条痕文を施し、内面はナデ調整で仕上げ、器形については底部から口縁部にむけてややひらいた円筒形を呈している。口唇部は内側に斜行しており、内面には指抑えの痕跡がみられる。また、口縁部には貫通した穿孔が2ヶ所設けられている。163～165は外面に羽状の貝殻条痕文を施し、内面はナデ調整で仕上げているが、文様や調整、胎土等からみて同一個体である可能性が高い(163口縁部、164・165胴部)。163は口縁部付近でわずかに内湾する円筒形を呈しており、口唇部については内側に斜行するように仕上げられている。166は外面に羽状の貝殻条痕文を施し、内面はミガキで仕上げ、器形については底部から口縁部にむけてややひらいた円筒形を呈する。底部は平底で、その外面にはミガキが施されている。167・169は外面にわずかに条痕文の痕跡が残る口縁部で、その形状等からみて桑ノ丸式土器の一群に含まれるものであろう。いずれも口縁部上位(口唇部下)に窪みがみられるが、これらは口唇部を仕上げる際についた指抑えの痕跡である可能性が考えられる。168は外面に条痕文を施し、内面はミガキで仕上げた口縁部片で、口縁部上位がやや肥大する形状で作られている。170は外面に条痕文を施し、内面はミガキで仕上げた口縁部片で、平らに作られた口唇部はミガキで仕上げられている。171は外面に羽状の貝殻条痕文を施し、内面はミガキで仕上げられており、器形については底部から口縁部にむけてひらいた円筒形を呈している。また、内側に斜行してつくられた口唇部は、ナデ調整によって仕上げられているが、剥離している部分も少なくない(172は171とほぼ同様の特徴を持つが、内面、口唇部など剥離・磨耗が多い)。173の口縁部片については、今回桑ノ丸式土器として報告するが、その文様や形状には他の土器形式の要素も幾つか含まれている。口縁部の文様についてはハの字状の短沈線文を施し、その下位には刺突文を施しており、言うならば桑ノ丸式土器と下剥峯式土器の両土器形式を併せ持つものと言える(辻タイプあたりが一番妥当か)。また、口唇部については、内側に斜行して作り上げられているが、明確な稜線を見ることが出来る。176は外面にハの字状の短沈線文を施した口縁部片で、平らに仕上げられた口唇部がやや肥大する形状で作られている。178～201は外面に羽状を意識して文様を施した胴部片で、そのほとんどは貝殻条痕文で羽状が構成されている。内面についてはほぼナデ調整で仕上げられているが、192・194についてはミガキの痕跡がみられる。

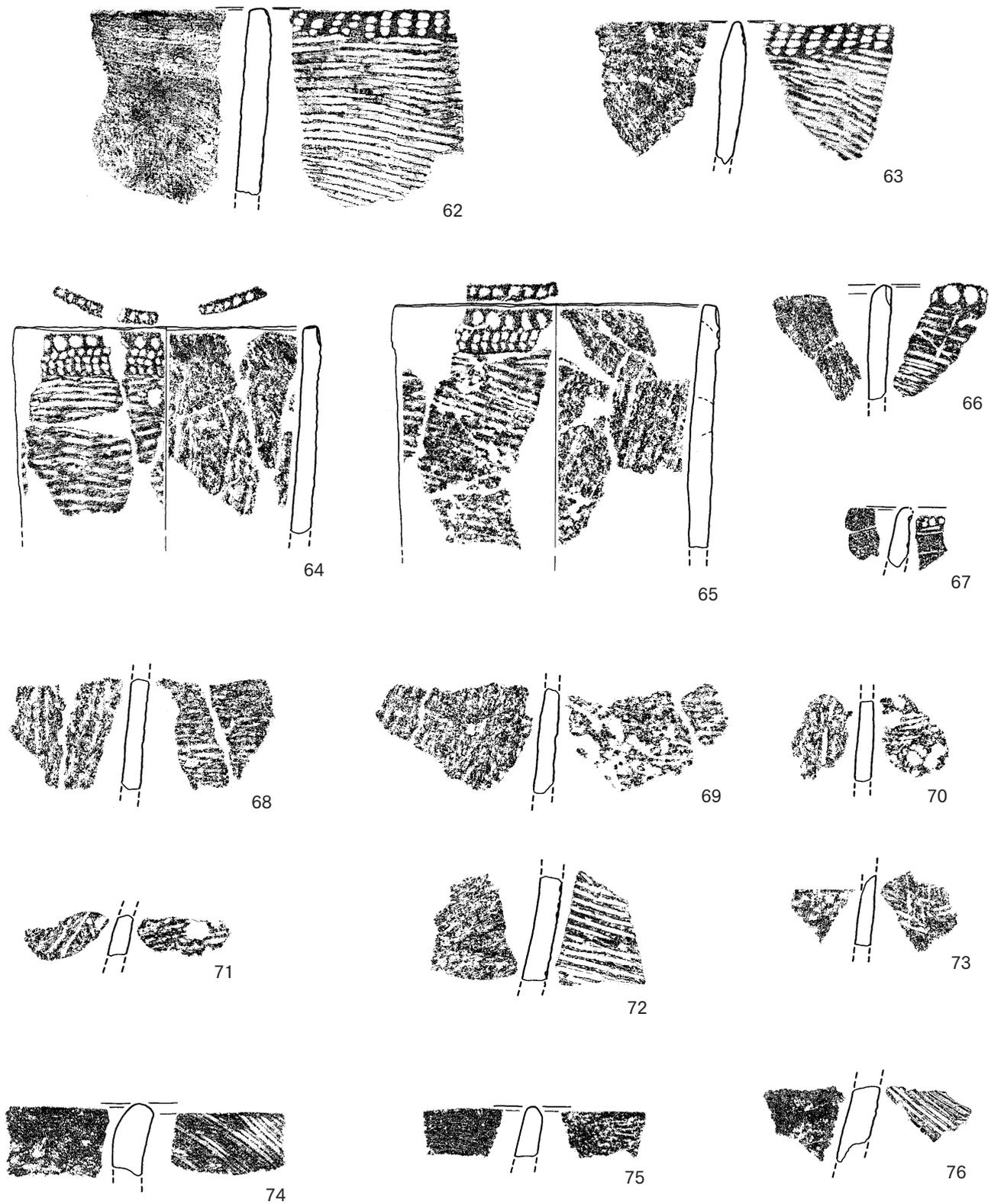
202～204は外面に流水を意識して文様を施した一群である。202はやや内湾する口縁部で、口唇部についてはやや内側に斜行して作られている。203・204については胴部片で、胎土等202との相違点は幾つかあるものの、おそらく似た形状の土器であろう。

205～208は外面に羽状の貝殻条痕文を施した胴部片であるが、文様が浅めに施されて、また磨耗しているためか、他の土器片と比較すると文様がやや判別しにくい。形状については胴部のみで断定は出来ないが、おそらく円筒形を呈しているであろう。

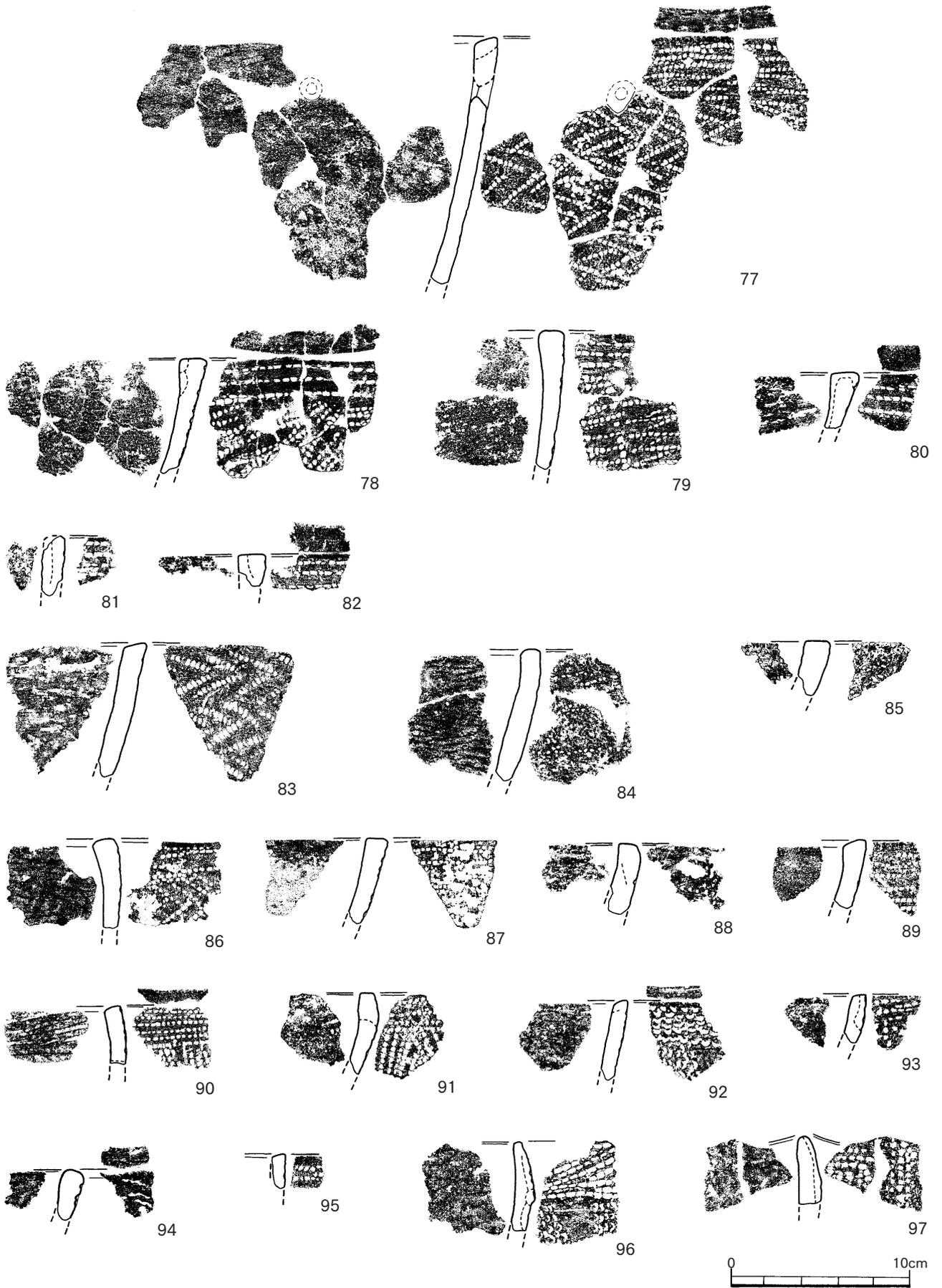
209～220は外面にハの字状を意識した短沈線文を施した胴部片である。内面については、ナデ調整で仕上げたもの(214～216・219・220)とミガキで仕上げられたもの(209～213・217・218)の2種がある。また、細い短沈線文を施した工具についての詳細は不明である(貝殻ではかなり困難なような)。

221～225は底部片である。221・222は底部につながる胴部外面に貝殻条痕文が施され、223～225は短沈線文が施されている。その形状については残存状況が良好なものがほぼ無いため詳細は不明だが、平底ではないかと推測される。

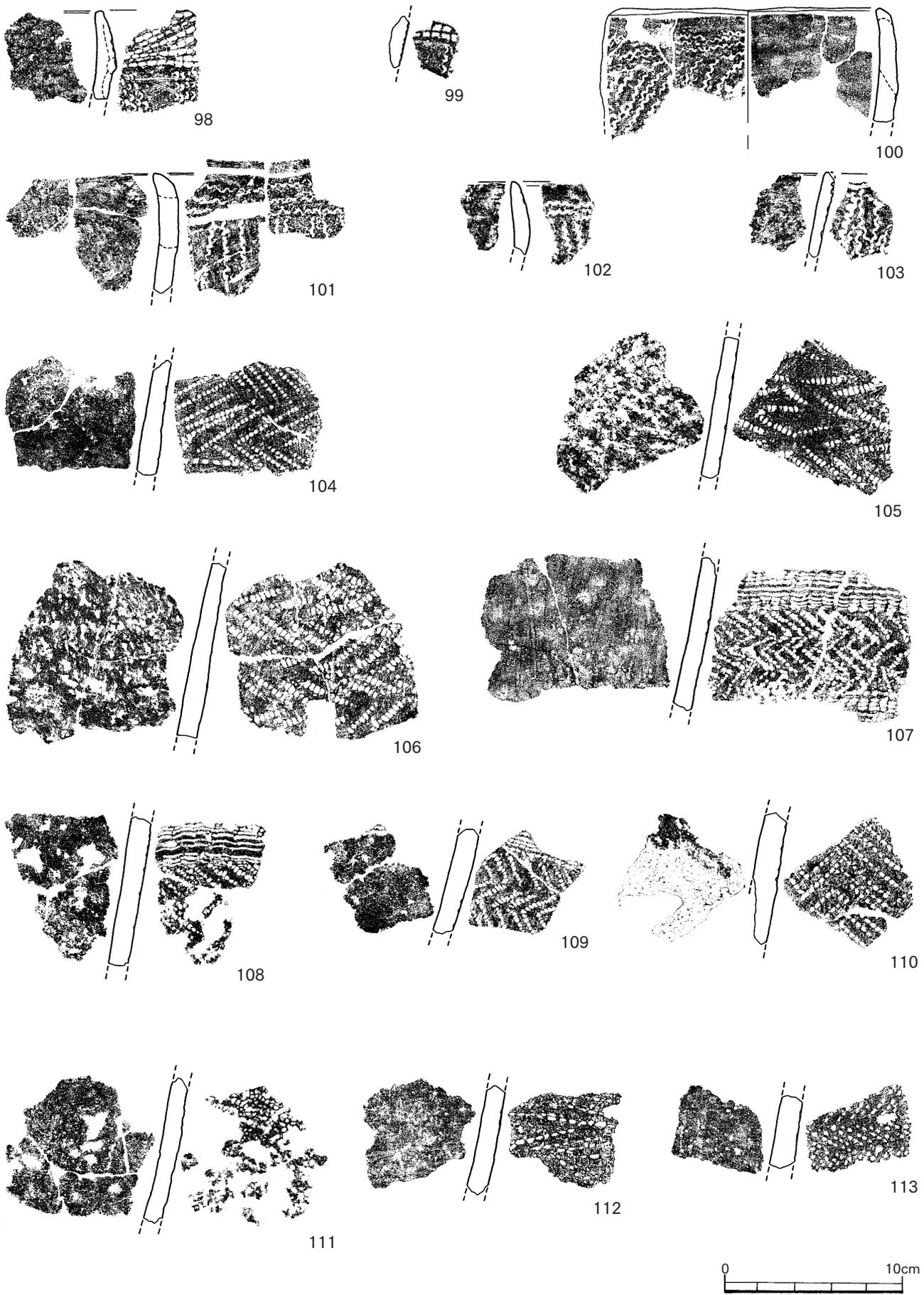
196と197・198～201など文様や調整、胎土等から同一個体である可能性が考えられるものが数組存在する。



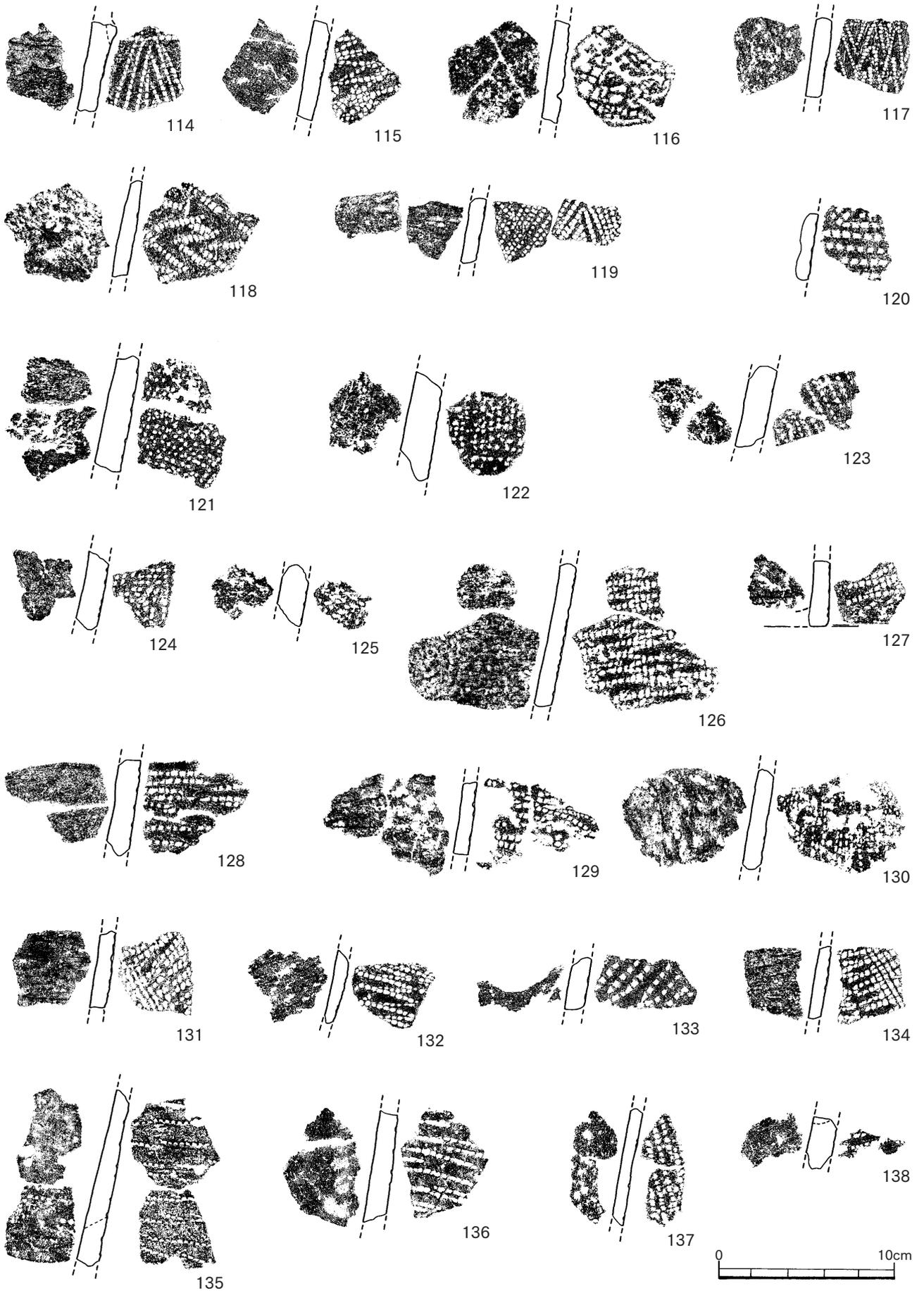
第43図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)



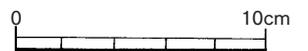
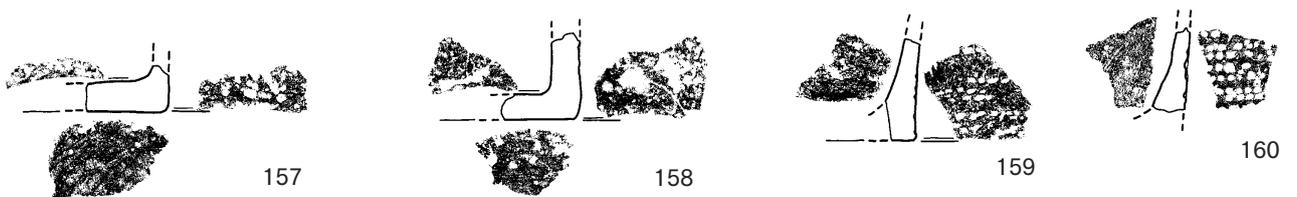
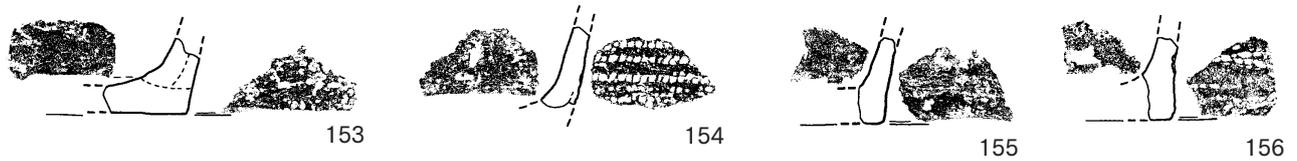
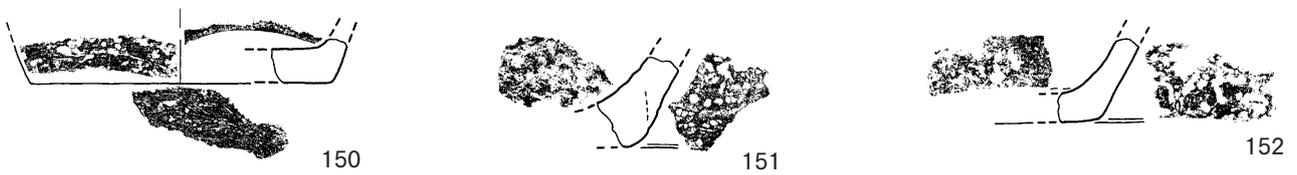
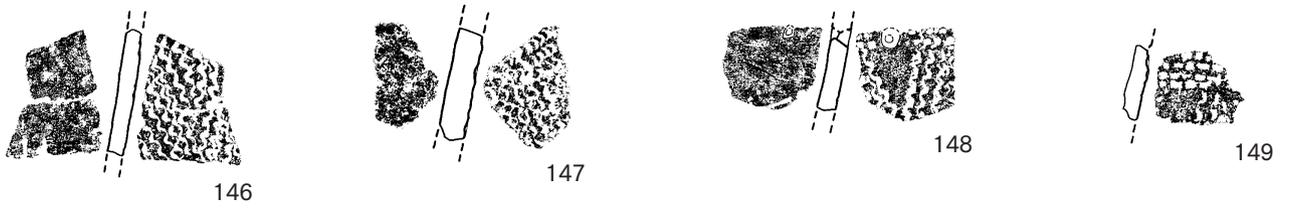
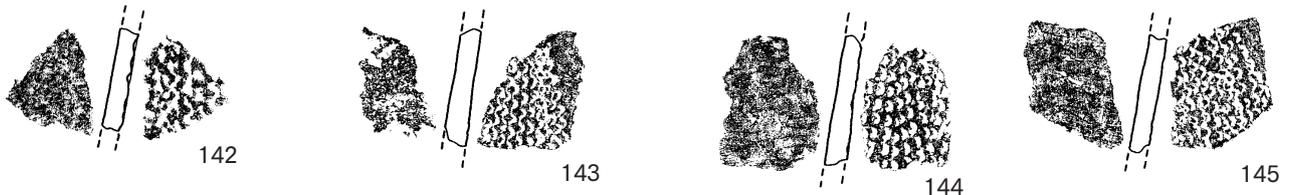
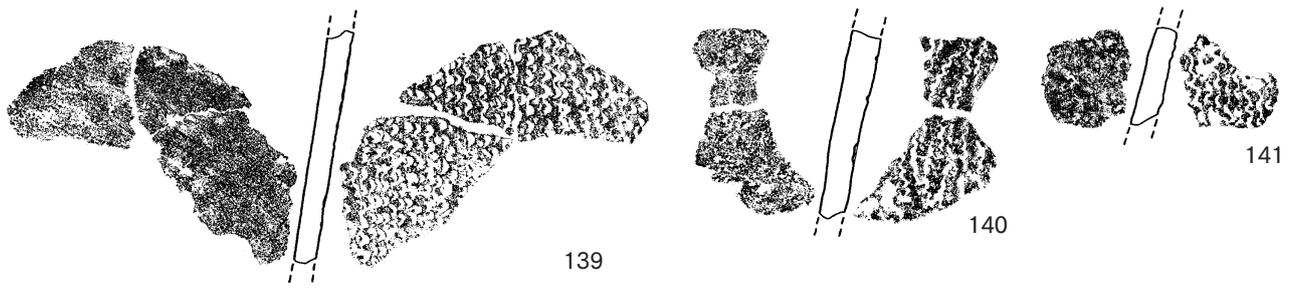
第44図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



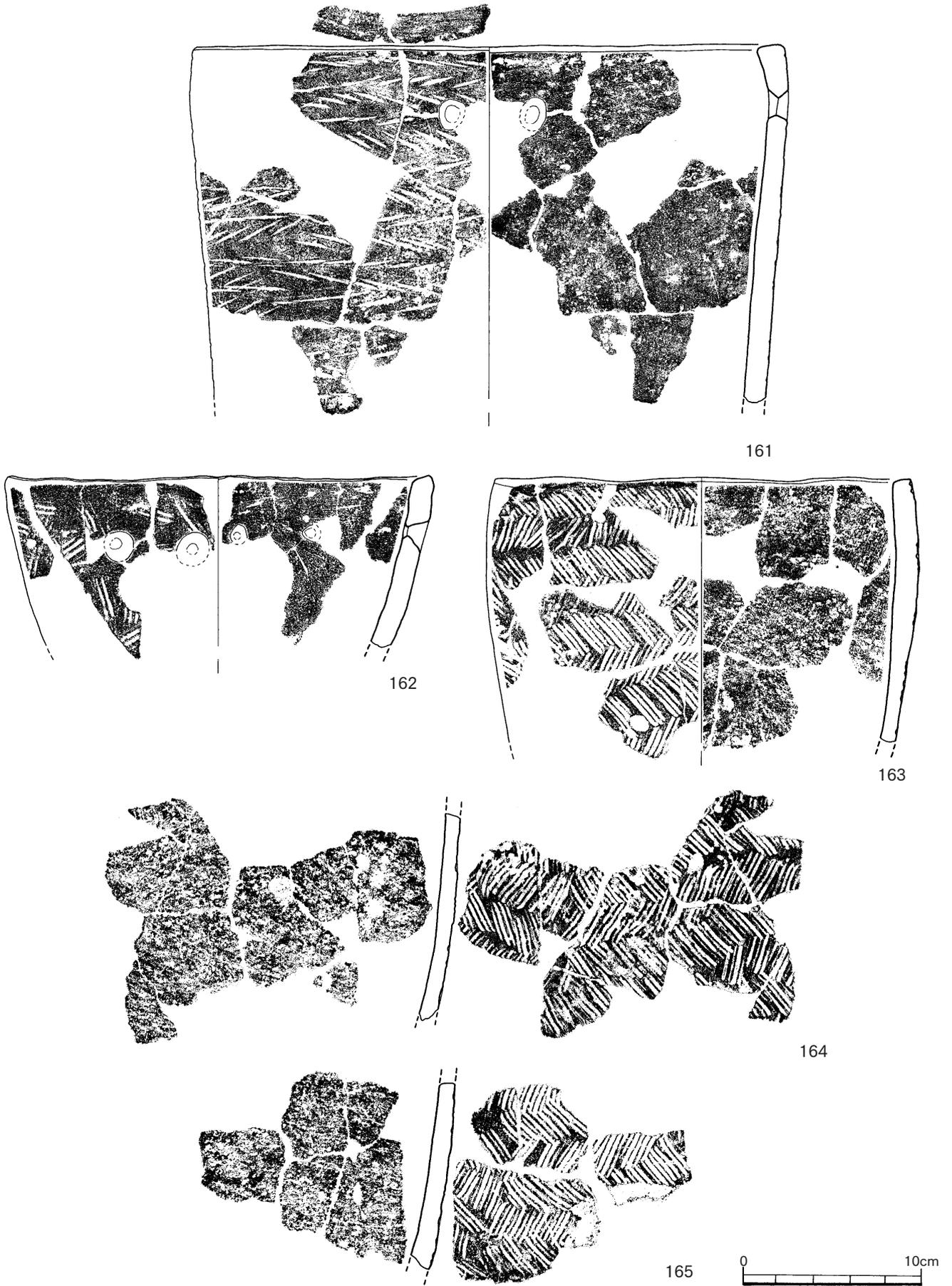
第45図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)



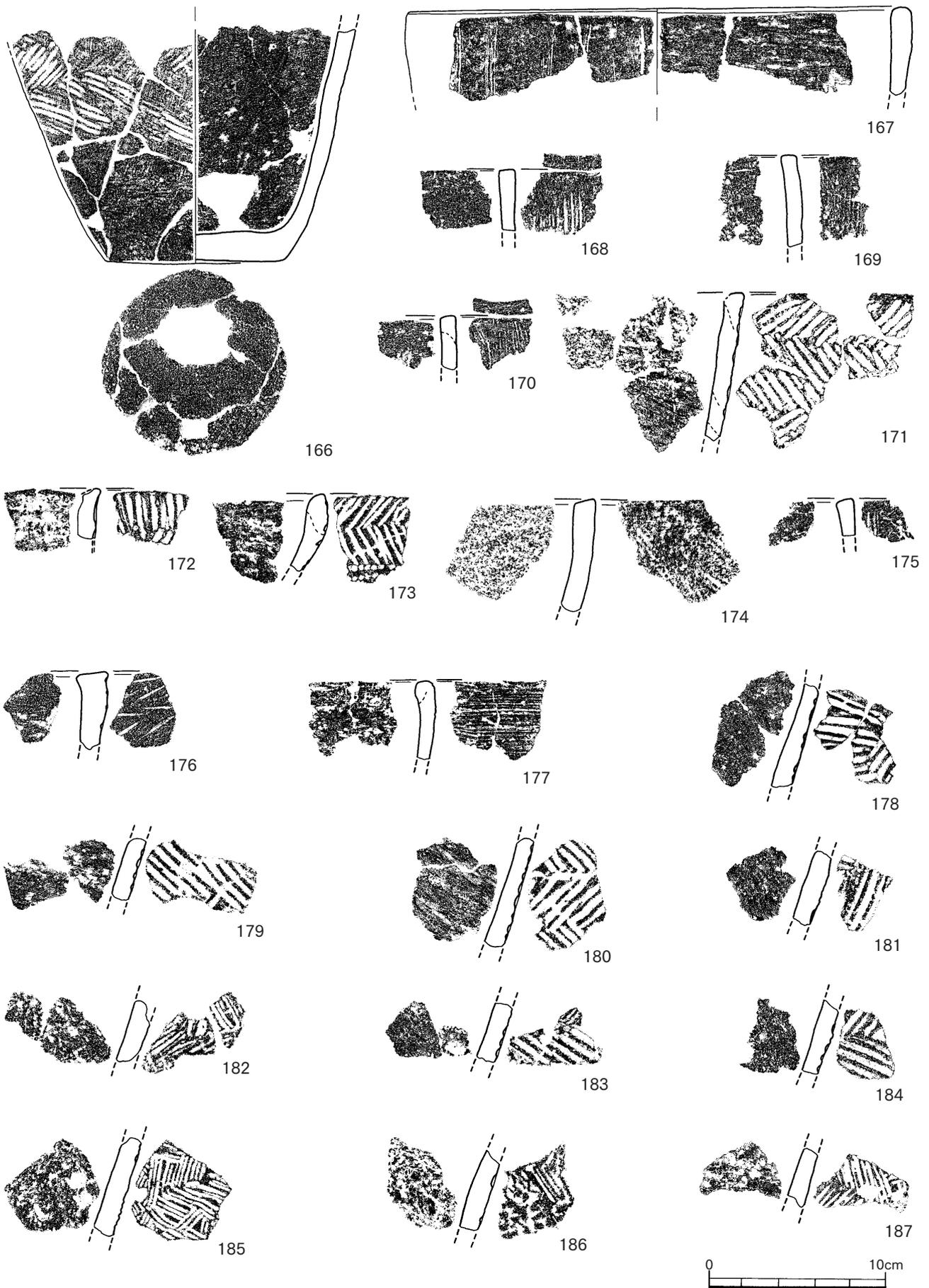
第46図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)



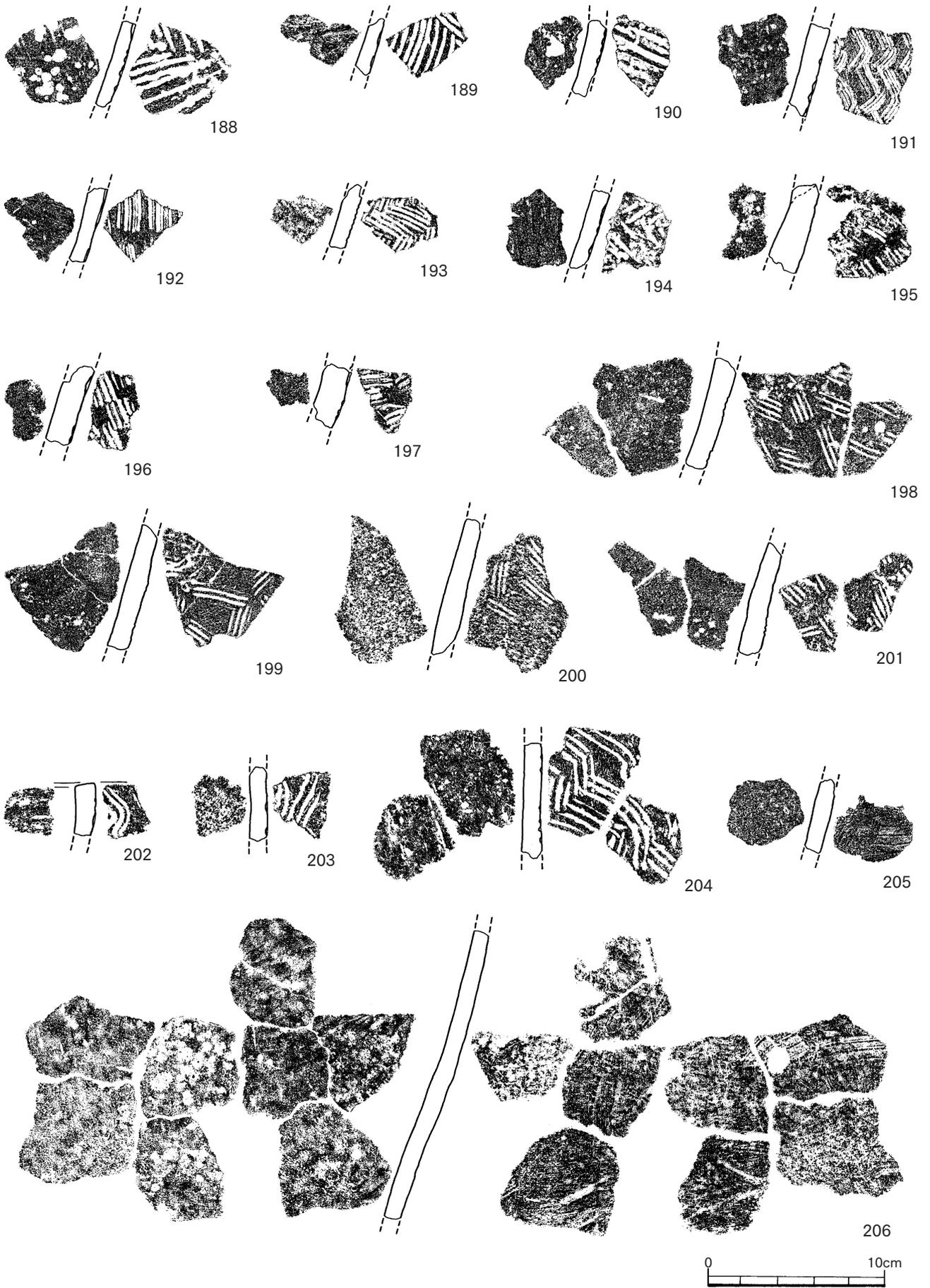
第47図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)



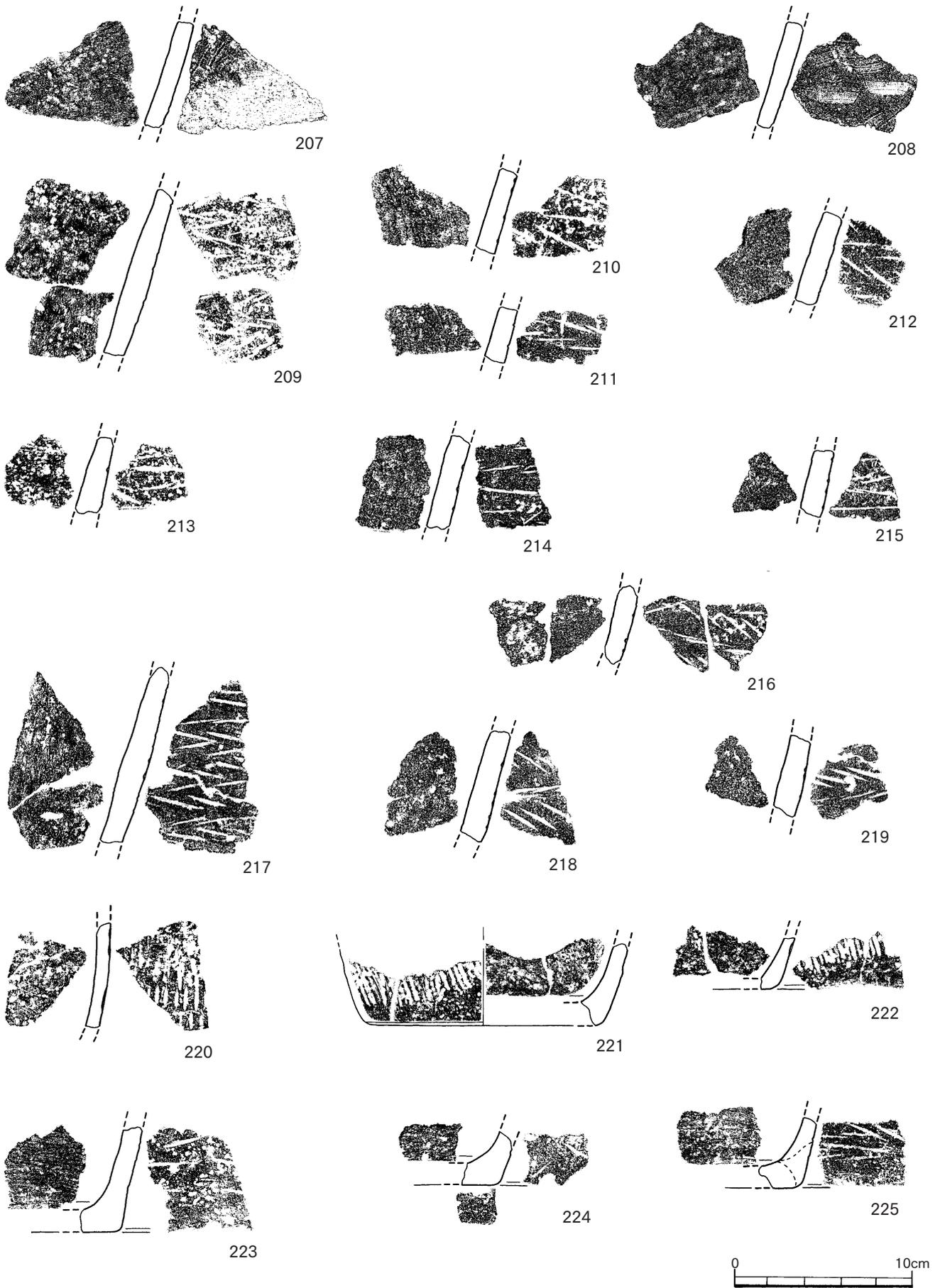
第48図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)



第49図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)



第50図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)



第51図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㊸ (S=1/3)

## 2. 押型文土器

当遺跡で出土した貝殻円筒形土器は、大別して次の7類である。

- |           |         |          |                    |           |           |
|-----------|---------|----------|--------------------|-----------|-----------|
| 2 - I 類   | 短枝回転文土器 | 2 - II 類 | 撚糸文に似せた山形文土器       | 2 - III 類 | 原体条痕を施す土器 |
| 2 - IV 類  | 弘法原式土器  | 2 - V 類  | 山形押型文土器(I ~ IV 以外) | 2 - VI 類  | 楕円押型文土器   |
| 2 - VII 類 | その他     |          |                    |           |           |

### 2 - I 類

226~238は外面に短枝回転文を施した一群である。小型の突起物をもつ工具、おそらく小枝であろうが、その回転により施文されるイチゴの粒状のような文様が特徴で、いわゆるネガティブ楕円文とも呼ばれる。今回出土した土器片はいずれも小破片のため器形については不明であるが、厚みは全て0.5cm程度で他の縄文時代早期の土器群と比較すると薄いのが特徴である。226・227は口縁部片であるが、口縁部の内外面に施文がみられ、226については無文帯が設けられている。228~238は胴部片で、口縁部片と同様に短枝回転文を施し、なかには無文帯を設けているものもみられる(施文帯と無文帯の境界をより明瞭なものとするために、あえて施文帯の端をナデ消しているのでは)。内面調整については、短枝回転文がみられるものの他に、230・234・235についてはミガキに近い丁寧な仕上げを施している。

### 2 - II 類

239~245は外面に撚糸文を意識した押型文を施した一群である。243は口縁部片でやや外反しており、口唇部はやや丸みをおびて作り上げられている。242・245は底部片で、242についてはおそらく尖底を呈し、245についてはおそらく平底に近い形状を呈すると思われるが、残存部位だけでは断定できない。内面調整については、239~245全てナデ調整で仕上げられている。

### 2 - III 類

246~270は口縁部内面に原体条痕を施した一群である。246は外面に山形押型文、内面に原体条痕と山形押型文を施した深鉢で、口縁部はわずかにラップ状にひらきその端部が最大径を示す。また、胴部はほとんど張らず、底部については平底である。247~254は胎土と文様等からみて246と同一個体である可能性が高い。255~257・262~268は246とほぼ同様の特徴を持つ口縁部である。尚、258~261は胎土と文様等からみて255~257と同一個体である可能性が高い。269は外面に楕円押型文、内面に原体条痕と楕円押型文を施した深鉢で、口縁部はやや外反している(270は269と同一個体の胴部片の可能性有り)。

### 2 - IV 類

271~276は弘法原式土器とよばれる土器の一群である。バケツ状の器形をした深鉢で、明瞭な押型文と内面のミガキがその特徴といえる。271~276全てにおいて外面に山形押型文を施している。また、271・272の口縁部片は直行している。

### 2 - V 類

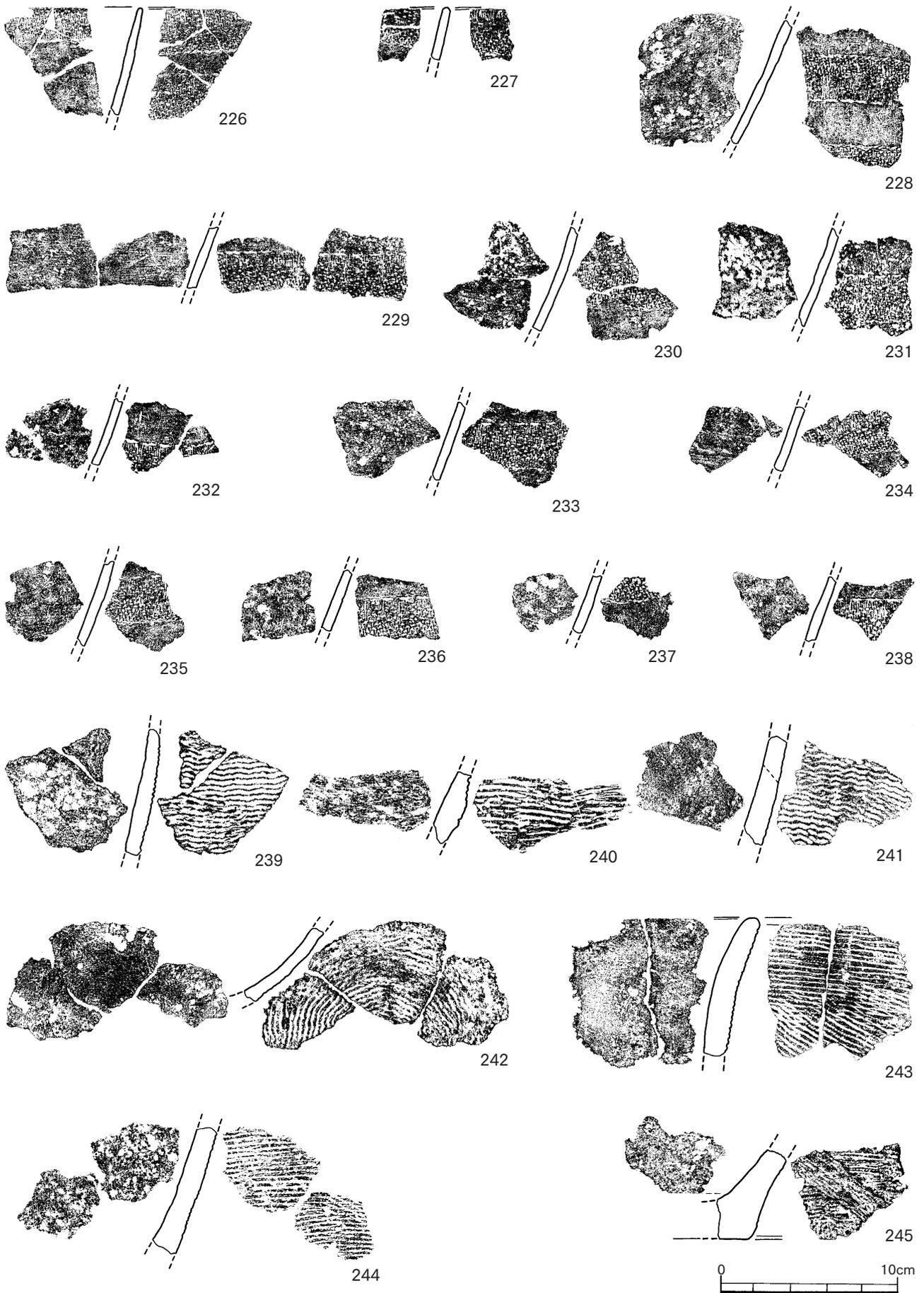
277~320は山形押型文を施した一群である(I 類~IV 類以外)。277~291は口縁部片で、282・287~291については内面にも山形押型文を施す。また、277は口唇部に山形押型文が、282は口唇部に刻目が施されている。292~315は胴部片である。内面はそのほとんどがナデ調整で仕上げられているが、294だけはミガキの痕跡がみられる。316~320は底部片(底部付近の胴部片も含む)である。いずれも小破片のため底部の形状は不明だが、317・318については、底部外面にミガキの痕跡がみられる。

### 2 - VI 類

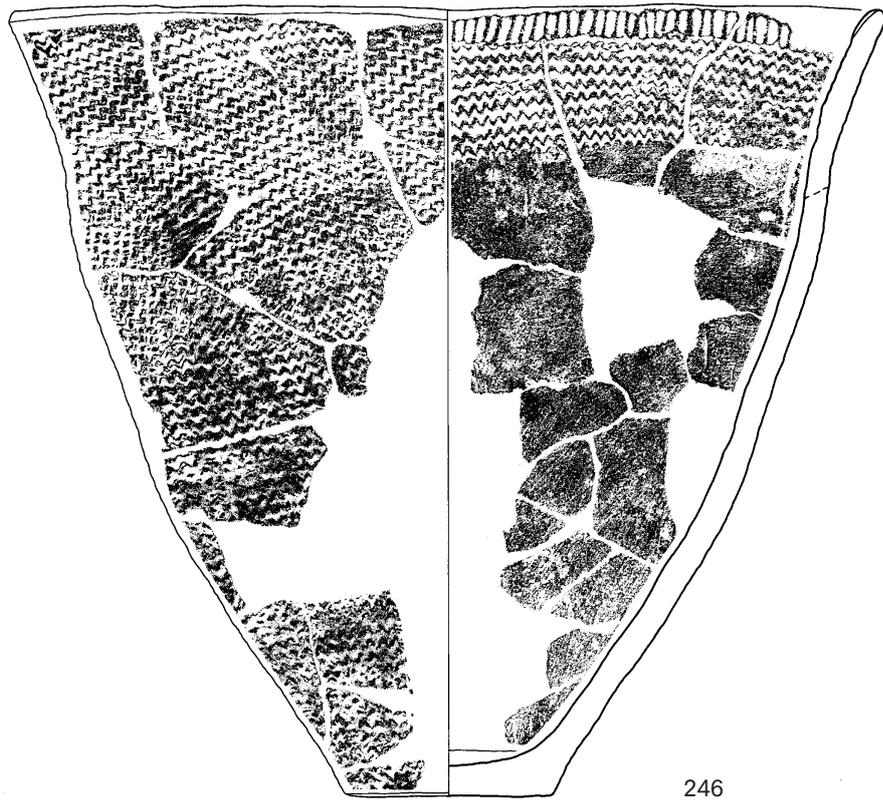
321~340は楕円押型文を施した一群である(I 類~IV 類以外)。321は外面に楕円押型文、内面に楕円押型文と貝殻条痕文、また口唇部に楕円押型文を施した口縁部片である。322・323は321とほぼ同様の特徴を持っており(同一個体の可能性も有り)、胴部片である322には無文帯も設けられている。324・325については321とほぼ同様の口縁部片だが、いずれも小破片のため内面の貝殻条痕文はみられない。328~340は胴部片であり、334・340にはススが付着している。

### 2 - VII 類

341~344は器形等から今回押型文土器として報告した土器群である。343については、外面に格子目押型文を施している。



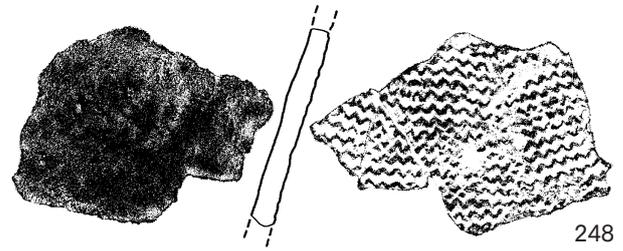
第52図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)



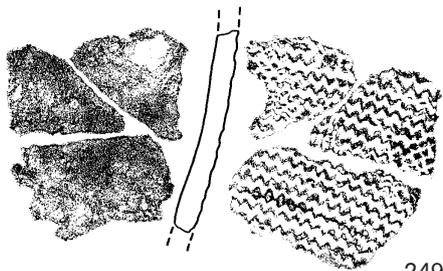
246



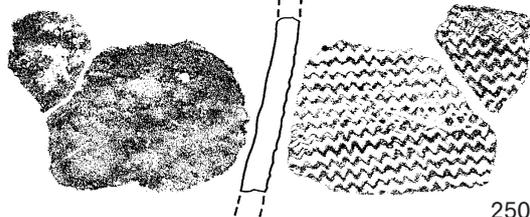
247



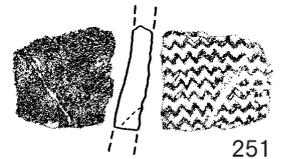
248



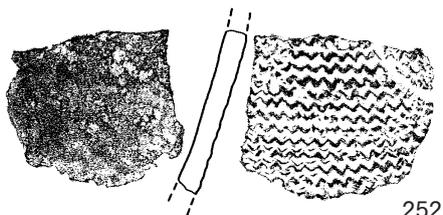
249



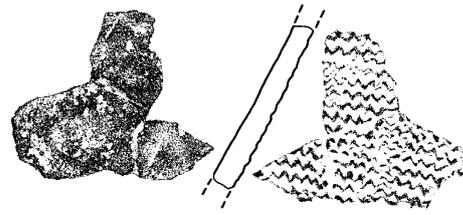
250



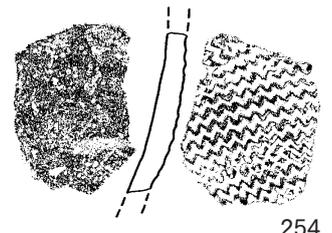
251



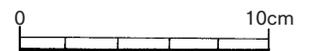
252



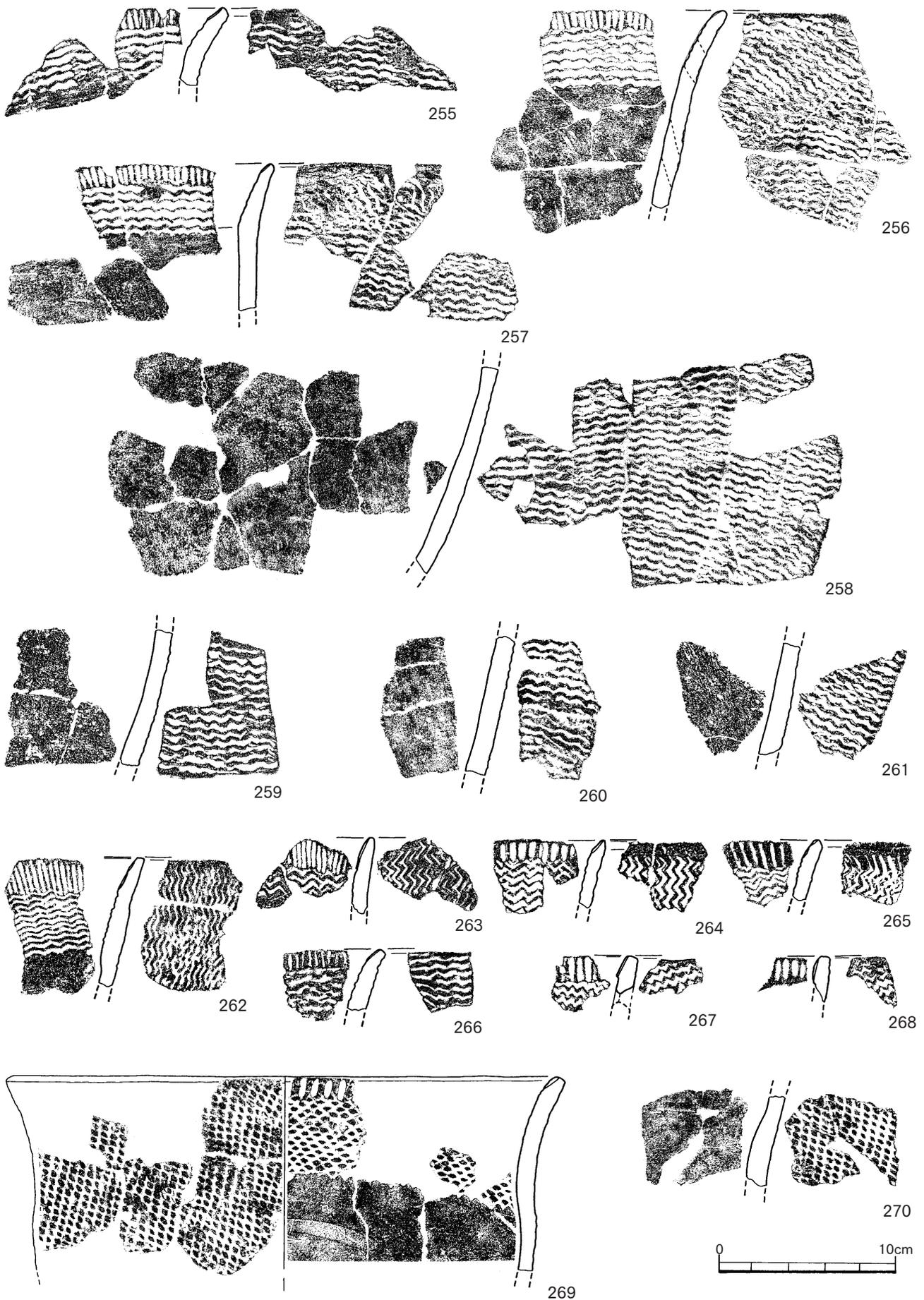
253



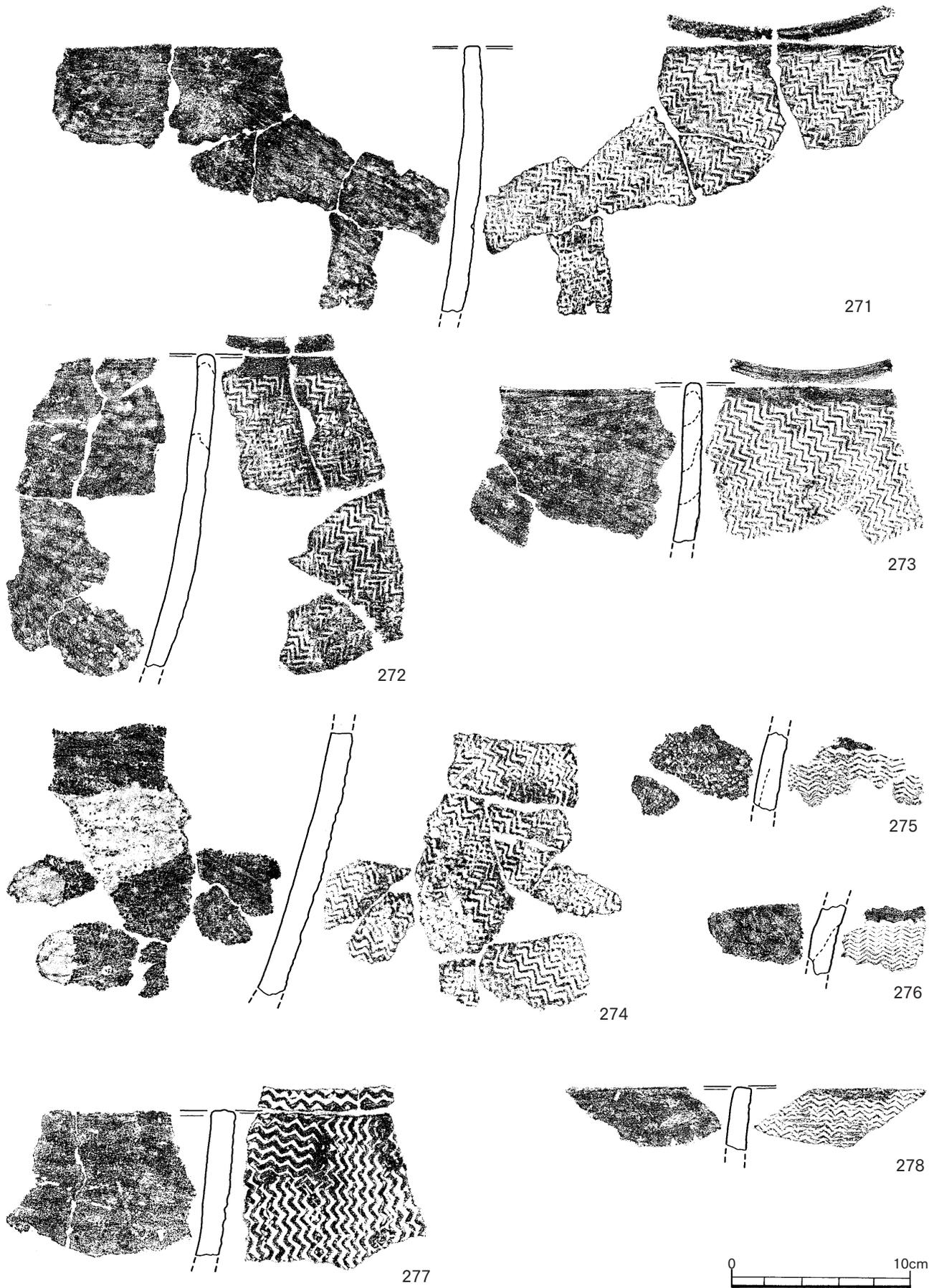
254



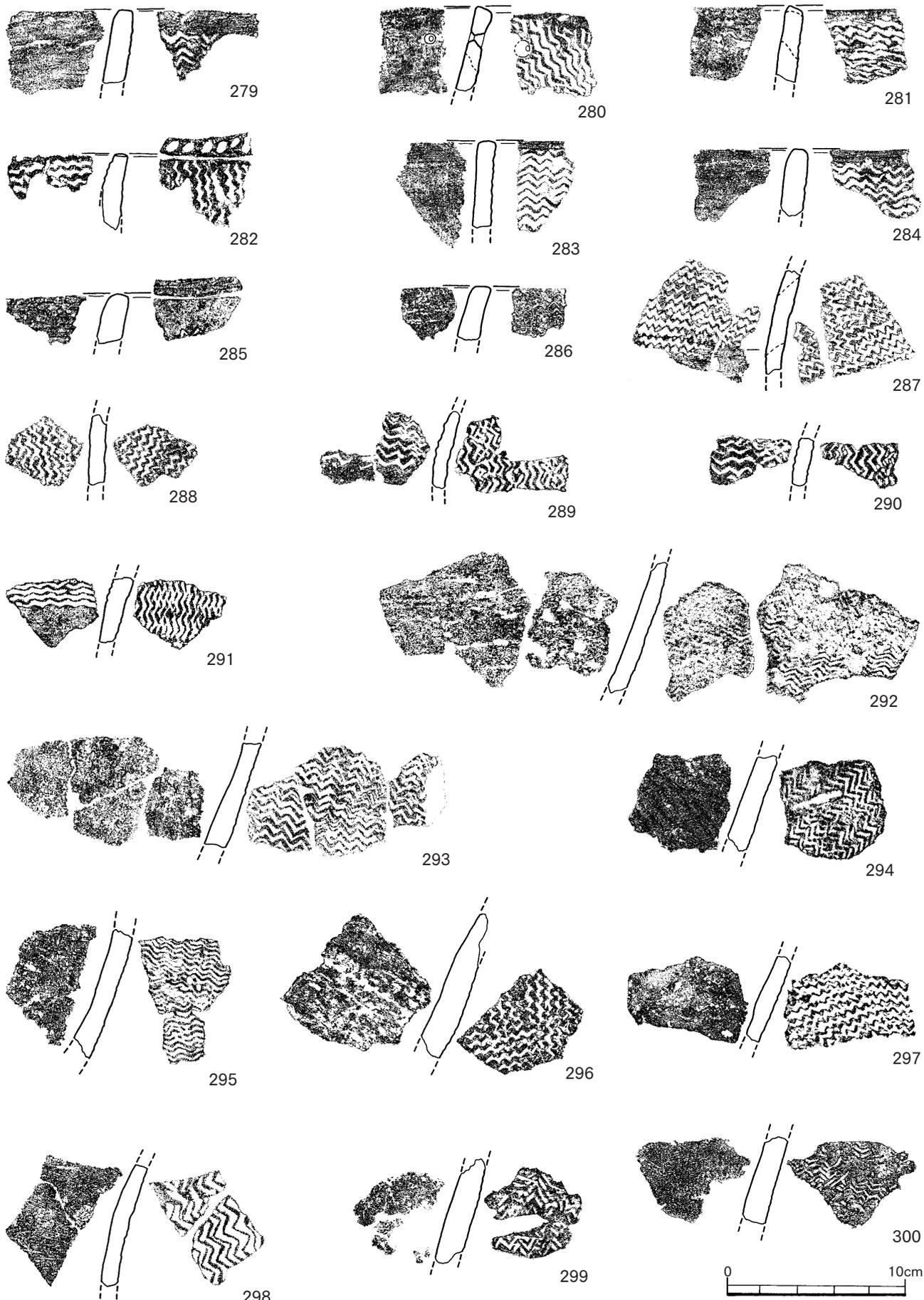
第53図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)



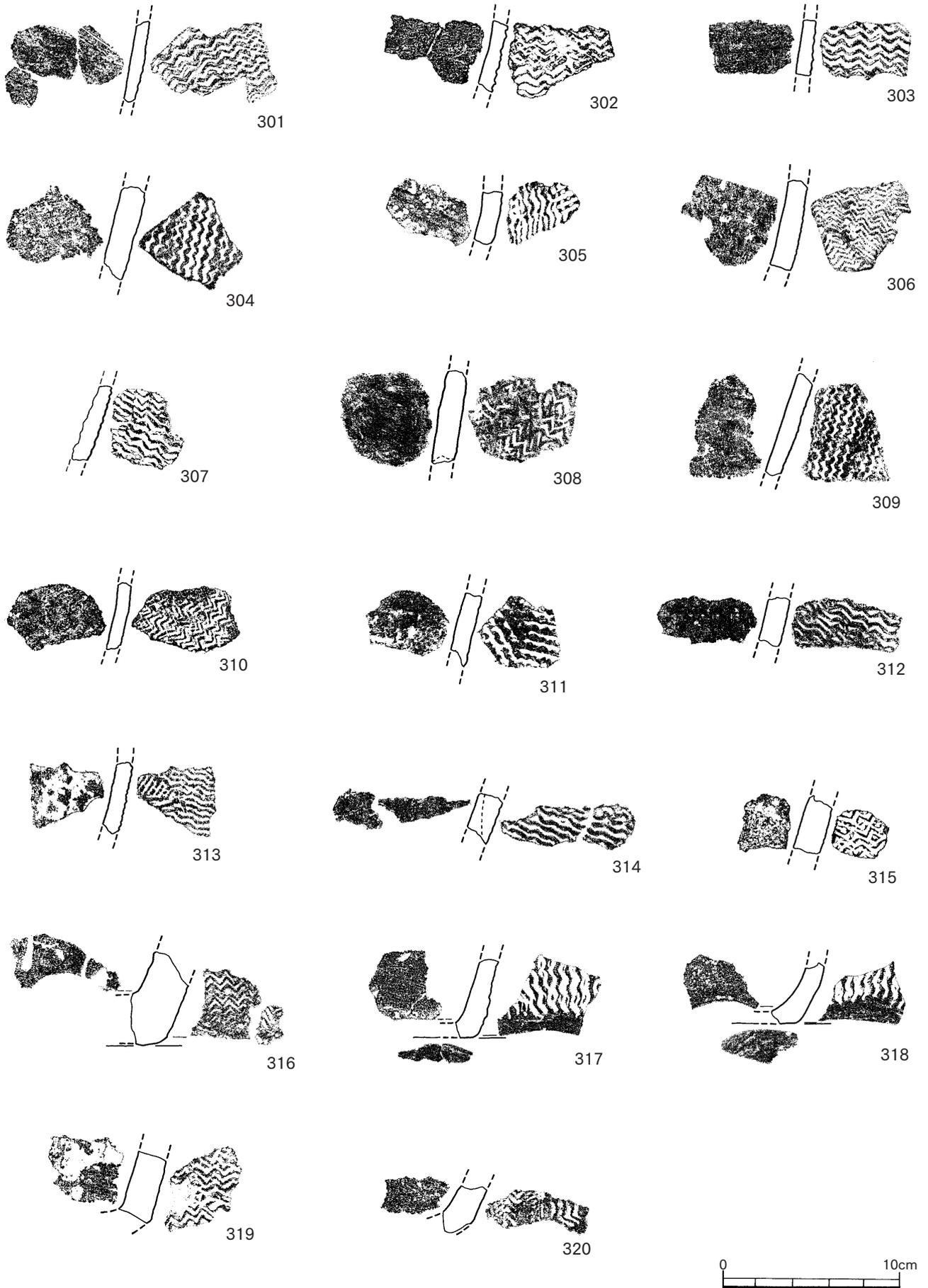
第54図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫ (S=1/3)



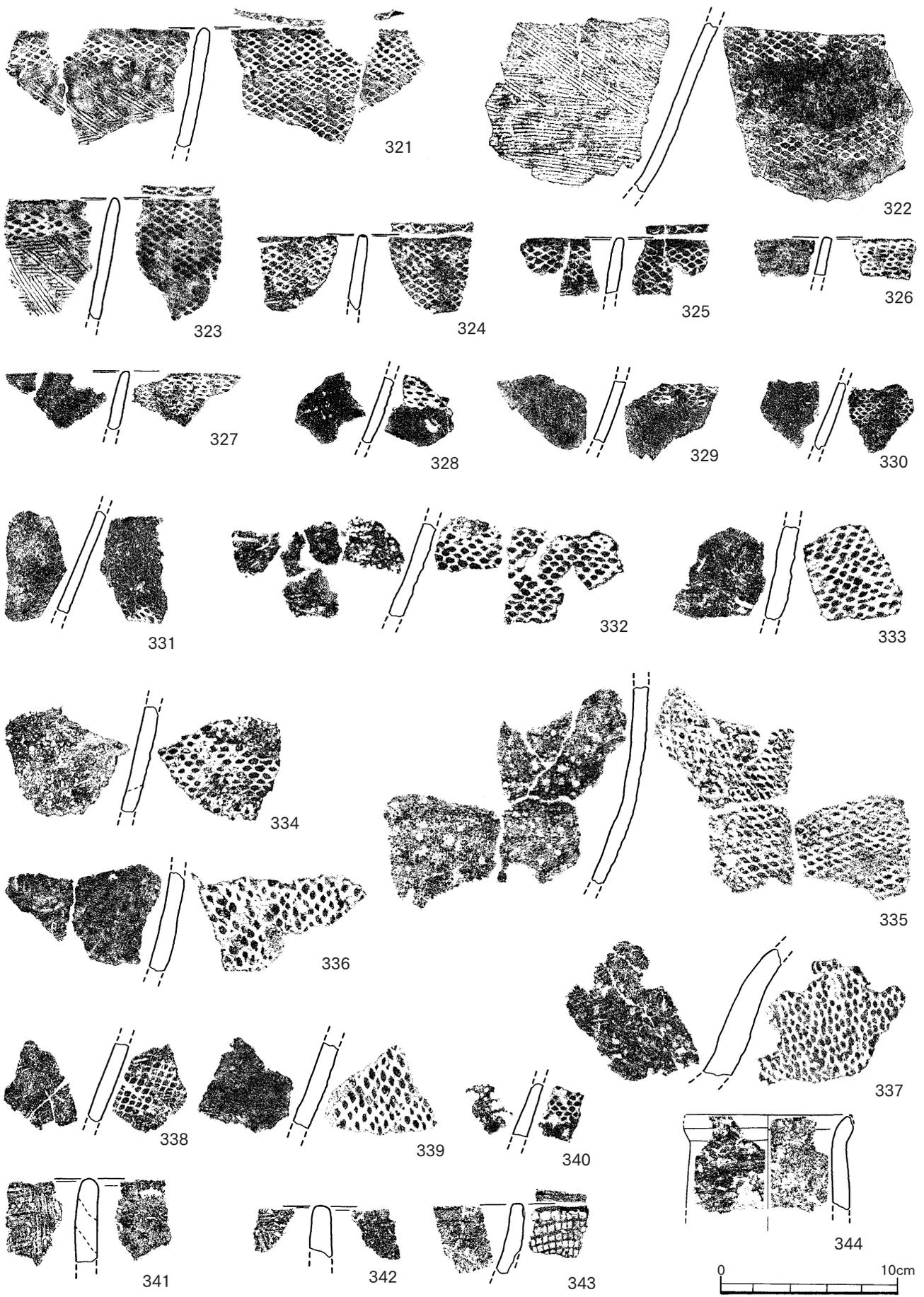
第55図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬ (S=1/3)



第56図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭ (S=1/3)



第57図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮ (S=1/3)



第58図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)

### 3. 平椀式土器・塞ノ神式土器

当遺跡で出土した平椀式土器・塞ノ神式土器は次の7種に分類できる。

- 3-I類 平椀式土器
- 3-II類 壺形土器(塞ノ神式土器)
- 3-III類 隆帯・微隆帯を有する土器(塞ノ神式土器)
- 3-IV類 撚糸文系塞ノ神式土器
- 3-V類 撚糸文系塞ノ神式土器(沈線区画内に撚糸文・縄文を施す)
- 3-VI類 貝殻文系塞ノ神式土器
- 3-VII類 その他

#### 3-I類

345・346は平椀式土器である。いずれも胴部から口縁部へラップ状にひらく頸部で、外面には貼付突帯をめぐらしその下位に縄文を施している(どちらの貼付突帯にも刻目が施されている。)

#### 3-II類

347~359は塞ノ神式土器の壺である。347は口縁部片で口唇部付近がやや外反している。外面には3条の沈線文を施し、内面はナデ調整で仕上げている。348は347とほぼ同様の特徴を持つ壺の胴部片である(同一個体である可能性有り)。349・350は口縁部片で口唇部付近がやや外反しており、刻目を施した微隆帯をめぐらしている。355~357は349・350とほぼ同様の特徴をもつ土器の頸部である。349・350・355~357いずれも外面に朱塗りの痕跡がみられる。351・352は外面に刻目を施した微隆帯をめぐらした口縁部片で、いずれも外反している。また353・354は同じく外面に刻目を施した微隆帯をめぐらした頸部片、胴部片である。358・359は外面に沈線文、刺突文を施した胴部片である。358については沈線の窪みに朱塗りの痕跡もみられる。あくまでも推測の域を出ないが、358・359は349・350の下に続く胴部である可能性も考えられる。

#### 3-III類

360~376は塞ノ神式土器のなかで隆帯・微隆帯をめぐらす一群である(壺以外)。360~367・370は口縁部片で、いずれの微隆帯にも刻目を施している。361は口縁部に屈曲部を作り出しており、その屈曲部に微隆帯をめぐらしている。また、波状口縁の上位にも微隆帯と沈線文を施している。364も361同様波状口縁で、波状の頂点を軸に縦位に2個の突起物を設け、それらの突起物から横位平行に微隆帯をめぐらしている(微隆帯の間には波状に沈線文を施す)。363は口縁部上位の微隆帯の下位に弧状の沈線文と連点文を施し、361~367は微隆帯に加えて沈線文を施している。368・369・374・375は頸部片である。368・369は頸部にめぐらされた微隆帯の下に撚糸文を施している。374・375は頸部に隆帯をめぐらし、その隆帯にほぼ隆帯同様幅(375は隆帯幅よりやや広め)の刻目を施している。371・376は胴部片で、376は微隆帯(おそらく頸部直下)の下に撚糸文を施している。

#### 3-IV類

377~433は撚糸文系塞ノ神式土器である。完形の出土品が無いためあくまでも推測の範囲ではあるが、おそらく平底の底部からやや張った胴部が立ち上がり、そこからラップ状に口縁がひらく器形を呈する。

377~391は口縁部片である(380は頸部も残存)。その下位には3-IV類、3-V類の頸部、胴部、底部がつながる可能性が高い。377~387・391は外面にそれぞれ沈線文、刺突文、連点文、貝殻押引文を施し、388~390は無文である。377・378・380~388・390・391の口唇部には刻目を施し、また、388については波状口縁である。

392~408は同種の頸部片である。392~402・407・408は外面にそれぞれ沈線文、刺突文、連点文を施し(胴部には撚糸文が施されている可能性大)、403~406は加えて撚糸文を施している。また、内面は全てナデ調整で仕上げられているが、392・395・397~401・403・404・406~408についてはラップ状に開く屈曲部に稜線がみられる。尚、405の外面にはススが附着している。

409~428は同種の胴部片である。外面にはそれぞれ撚糸文と沈線文を施している(424・426は沈線文のみ)。

ほとんどが小破片のため器形等詳細については不明であるが、409・411からはやや張った胴部が想像される。

429～433は同種の底部片である。外面にはそれぞれ捺糸文と沈線文を施している。430・431についてはやや上げ底気味の平底で、小破片である429・432・433についてもおそらく同様の形状を呈するであろう。

### 3-V類

434～475は、捺糸文系塞ノ神式土器のなかでも、沈線によって作り出された区画内(=以後「沈線区画内」)に、捺糸文や縄文を施した一群である(\*3-IV類と同類として取り扱ってもよかったが、近隣遺跡と比較して塞ノ神式土器のなかでもこのタイプの土器群の割合が多い傾向がみられたため、あえて別グループとして設定した)。その器形については3-IV類とほぼ同様の特徴を有すると推測される。

434は口縁部片である。外面には丸い棒状工具によって作られた沈線区画内に捺糸文を施し、口唇部には刻目を施している。

435～474は胴部片である。435～463・465・466は沈線区画内に捺糸文を施し、467～470・472～474は縄文を施している(435と457は刺突文も施す)。464は捺糸文の端に棒状工具による刺突文を施しており、その刺突文によって区画を構成している可能性も考えられる(小破片のため詳細は不明)。471は沈線区画内に縄文を施し、加えて貝殻刺突文を施している。464～466は胴部だが、ごくわずかに頸部(=口縁への屈曲部)が残存しており、胴部からラップ状に口縁部がひらく器形が想像される。また、465の外面にはススが付着している。

475は底部片である。沈線区画内に捺糸文を施しており、底形については小破片のため詳細は不明である。

### 3-VI類

476～509は貝殻文系塞ノ神式土器である。器形については3-IV類、3-V類と似た形状を呈する。

476～484は口縁部片である。外面に貝殻刺突文や貝殻押引文を施しているが、この場合の「刺突」と「押引」の相違点のごくわずかである(力の入れ具合程度の差か)。口唇部の形状については、外側に傾斜した平坦面を作り出しているもの(476)、直行するもの(477等)、やや尖っているもの(482等)があり、476～478ではその口唇部に刻目が施されている。

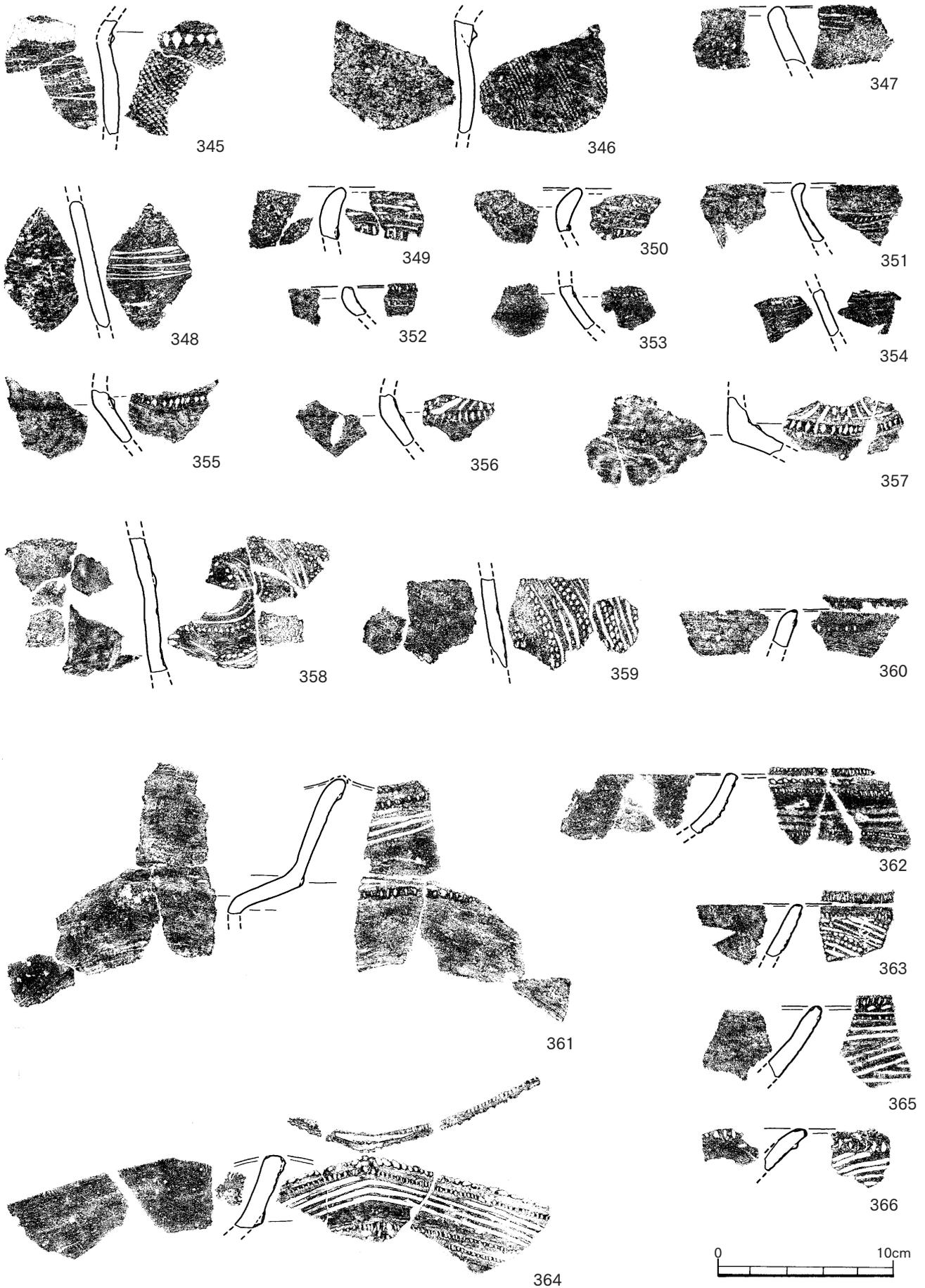
485・486は頸部片である。いずれも屈曲部に貝殻押引文を施し、その下には沈線区画内に貝殻条痕文を施した胴部が続く。

487～509は胴部片である。487～494・496～504・508は沈線区画内に貝殻条痕文を施している。内面はナデ調整で仕上げられているが、487・496には貝殻条痕文の痕跡がみられる。495・505～507・509については、貝殻条痕文が施されているが、胎土等からみて沈線区画内に貝殻条痕文が施されているものの一部だと推測される。

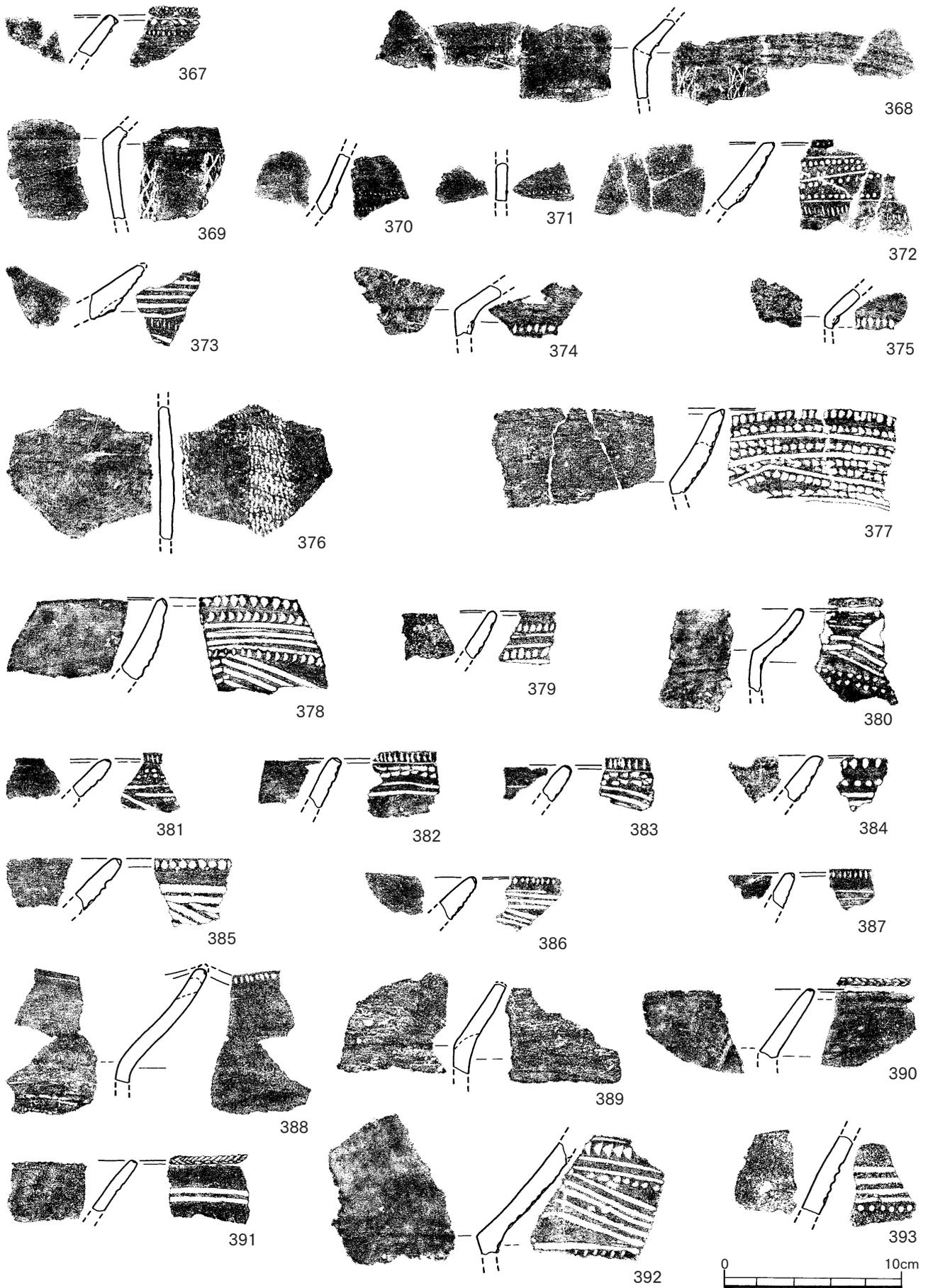
### 3-VII類

510～521はおそらく塞ノ神式土器ではあるが、3-I類～VI類のなかには分類しにくい一群である。

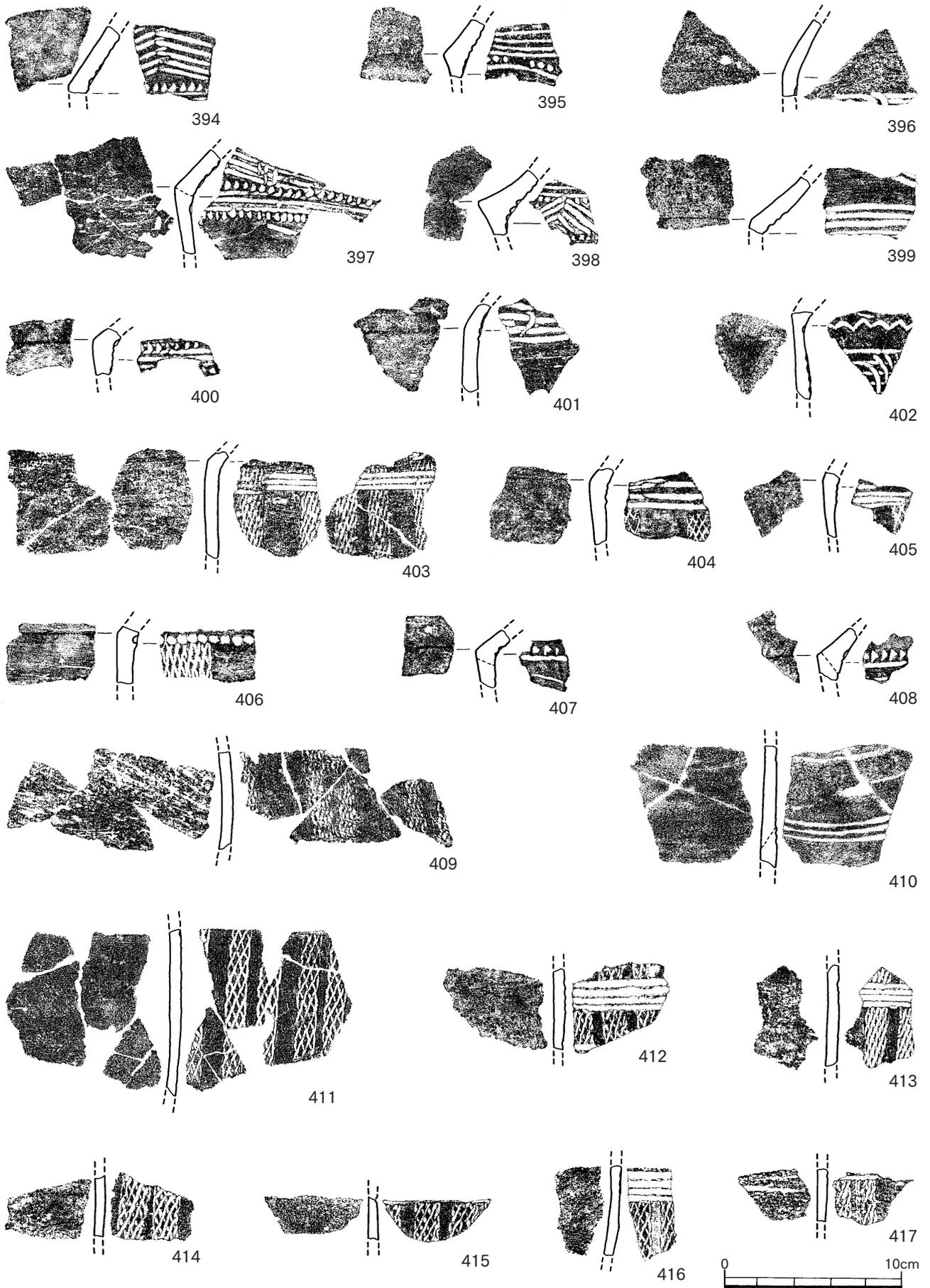
517～521は外面に細く鋭利な沈線文を施した口縁部片である(工具の断定は困難)。口唇部については、517は口唇部内面に段差を作るように、518・520はやや丸めに、519は外側に斜行する平坦面を作るように仕上げられており、いずれも刻目が施されている。510・512は517～521と同種の胴部片である。この細く鋭利な沈線は、一見線刻画を思わせる文様であるが、おそらく貝殻文系塞ノ神式土器の範疇に入る土器群である可能性が考えられる。(いずれも小破片のため詳細は不明)。511・514・515は外面に沈線文を施した胴部片である。沈線の施文パターンが直線的、弧状、波状とバリエーション豊かで、515には朱塗りの痕跡らしきものがみられるため、この3点については壺の一部であった可能性が考えられる。



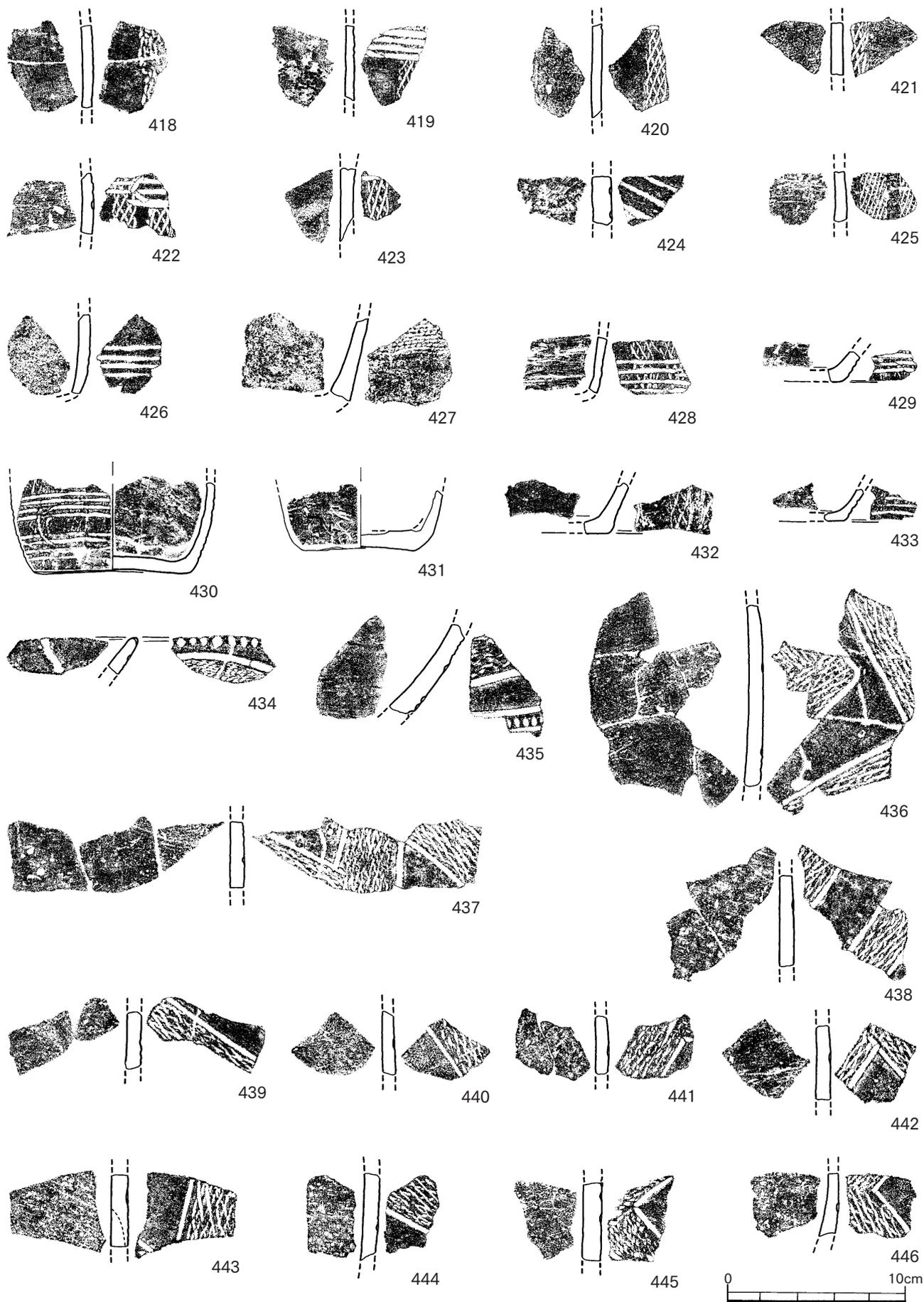
第59図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑰ (S=1/3)



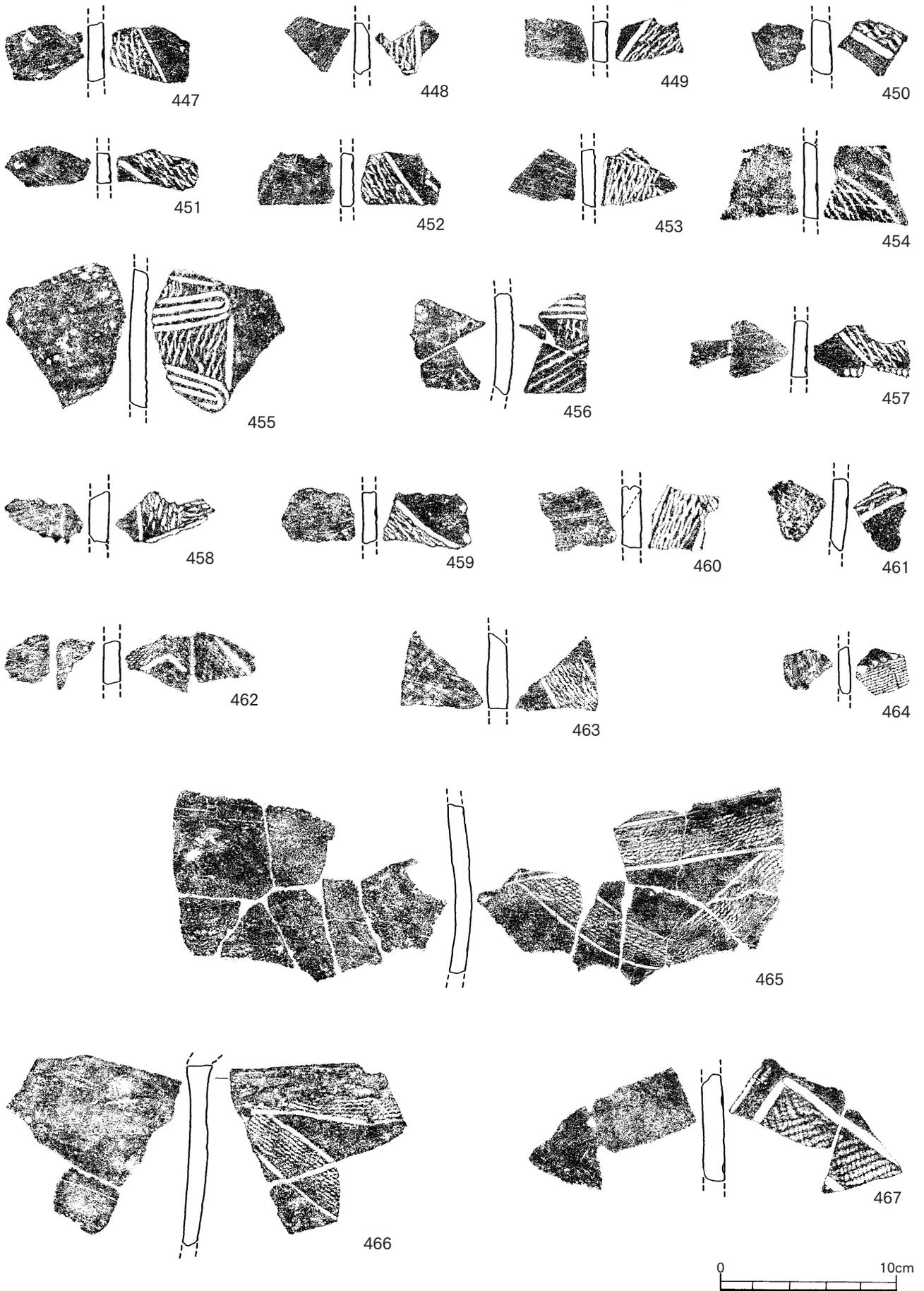
第60図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)



第61図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)



第62図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



第63図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)